

タンザニア国  
村落給水事業実施・運営維持管理能力  
強化計画終了時評価調査

報告書

平成22年3月  
(2010年)

独立行政法人国際協力機構  
地球環境部

環境
JR
10-150



タンザニア国  
村落給水事業実施・運営維持管理能力  
強化計画終了時評価調査

報告書

平成22年3月  
(2010年)

独立行政法人国際協力機構  
地球環境部



## 序 文

独立行政法人国際協力機構（以下「JICA」）は、タンザニア連合共和国（以下「タ」国）関係機関との討議議事録（R/D）に基づき、技術協力プロジェクト「村落給水事業実施・運営維持管理能力強化計画」を2007年9月から2010年8月まで実施しています。

JICAは、プロジェクト終了の約6ヶ月前にあたる2010年2月28日から3月20日まで、終了時評価調査団を現地に派遣し、「タ」国側のカウンターパートと合同でこれまでの活動実績ならびにその結果について評価を行いました。

この評価結果はミニッツに取りまとめられ、「タ」国・JICA双方合意のもとに、署名交換を行いました。本報告書は、今回の評価調査および協議結果をとりまとめたものであり、今後、本案件で得られた成果や目標達成に関する教訓を得るための参考資料として、広く活用されることを願うものです。

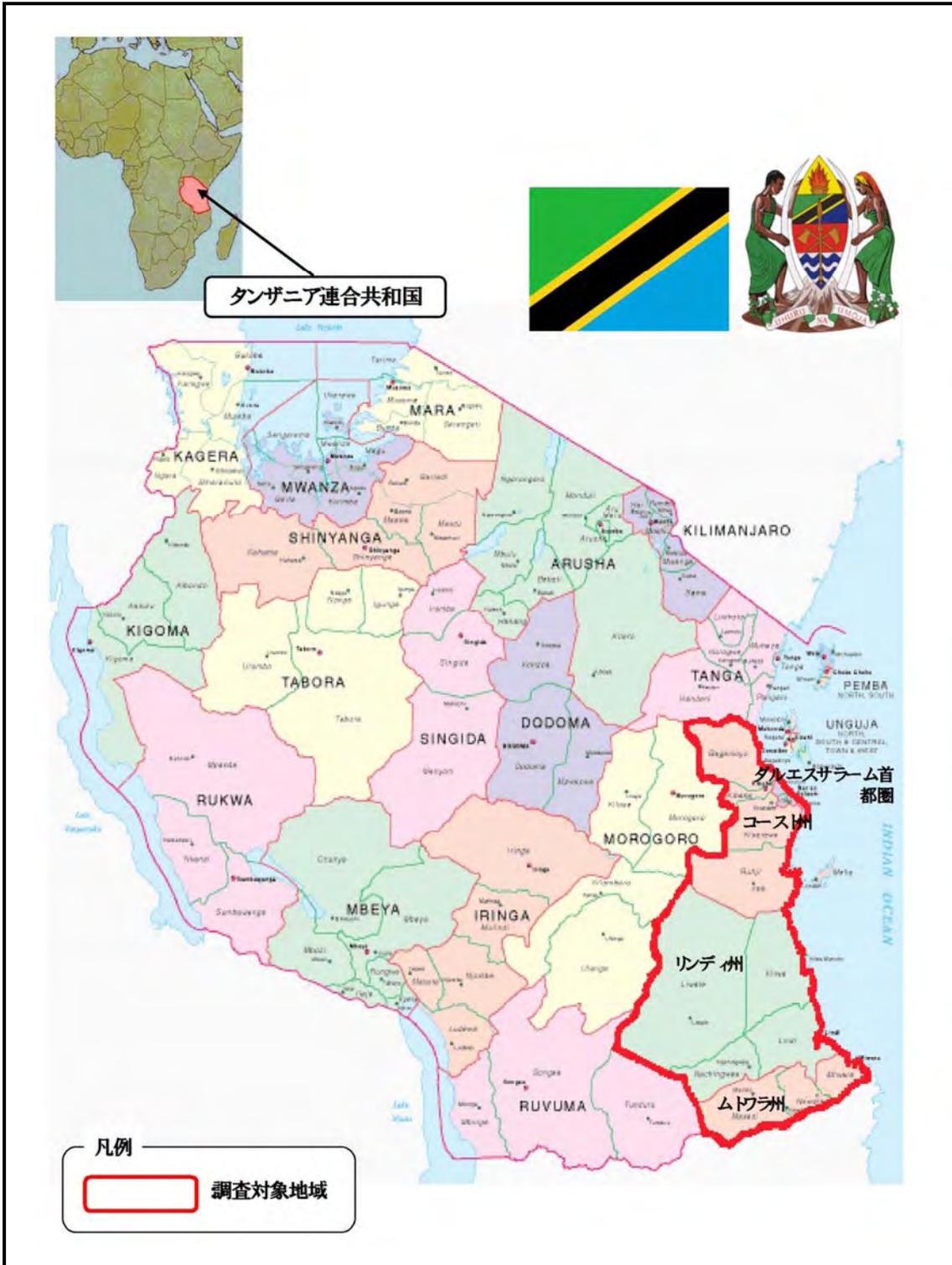
終わりに、本調査にご協力とご支援を戴いた関係各位に対し、心より感謝申し上げるとともに、引き続き一層のご支援をお願いする次第です。

2010年3月

独立行政法人 国際協力機構  
地球環境部長 中川 聞夫



# 調査対象地図





写



無償(首都圏周辺地域給水計画)  
で建設した給水施設の使用状況(その1)

真



無償(首都圏周辺地域給水計画)  
で建設した給水施設の使用状況(その2)



キバハ県給水衛生班からの聞き取り



水委員会への聞き取り調査(キバハ)



無償で建設した給水施設の稼働状況



水委員会への聞き取り調査(ムトワラ)



調査団も参加して行われた JCC の模様



水・灌漑省とのミニッツ署名の模様



## 略語一覧

C/P	Counterpart Personnel	カウンターパート
CBT	Capacity Building & Training	能力強化・訓練
CWSD	Community Water Supply Division	コミュニティ給水局
DWSP	District Water and Sanitation Plan	県給水衛生計画
DWST	District Water and Sanitation Team	県給水衛生班
DPG-W	Development Partner Group-Water	水セクター開発パートナー・グループ
DRA	Demand Responsive Approach	重要対応型アプローチ
FSP	Facilitation Service Provider	ソフト系コンサルタント
GoJ	The Government of Japan	日本国政府
GoT	The Government of Tanzania	タンザニア国政府
JCC	Joint Coordinating Committee	合同調整委員会
JICA	Japan International Cooperation Agency	独立行政法人国際協力機構
JWSR	Joint Water Sector Review	水セクター合同レビュー
ID&CB TWG	Institutional Development & Capacity Building Thematic Working Group	組織開発能力強化テーマ別ワーキング・グループ
LGA	Local Government Authority	地方自治体
MM	Man Month	人月
M/M	Minutes of Meeting	会議議事録
MoWI	Ministry of Water and Irrigation	水灌漑省
NAWAPO	National Water Policy	国家水政策
ODA	Official Development Assistance	政府開発援助
OJT	On the Job Training	オンザジョブトレーニング
PCM	Project Cycle Management	プロジェクト・サイクル・マネジメント
PCT	Program Coordination Team	プログラム調整チーム
PDM	Project Design Matrix	プロジェクトデザインマトリックス
PIM	Project Implementation Manual	プロジェクト実施マニュアル
PMO-RALG	Prime Minister Office- Regional Administration and Local Government	首相府地方自治庁
PO	Plan of Operation	活動計画書
R/D	Record of Discussion	討議議事録
RUWASA-CAD	Rural Water Supply and Sanitation Capacity Development	村落給水事業実施・運営維持管理能力強化
RWSS	Rural Water Supply and Sanitation	村落給水衛生
RWSSP	Rural Water Supply and Sanitation Sub Programme	村落給水衛生プログラム
RWST	Regional Water Supply and Sanitation Team	州給水衛生班
SWAp	Sector Wide Approach	セクターワイドアプローチ
TCB(S)	Training and Capacity Building (Sub-section)	訓練能力強化（課）
TCP	Technical Cooperation Project	技術協力プロジェクト
TSP	Technical Service Provider	エンジニア系コンサルタント
TOT	Training of Trainers	指導者養成研修
TWG	Thematic Working Group	課題別作業部会
WSDP	Water Sector Development Programme	水セクター開発プログラム
WUE	Water Users Entity	水利用者組合

プロジェクトサイト州・県名 (4州 22 県)

対象州	対象県
ダル・エス・サラーム州	Ihala
	Kinondoni
	Temeke
コースト州	Bagamoyo
	Kibaha DC
	Kibaha TC
	Kisarawe
	Mafia
	Mkurange
	Rufiji
リンディ州	Kilwa
	Lindi DC
	Lindi TC
	Liwale
	Nachingwea
	Ruangwa
モトワラ州	Masasi
	Mtwara MC
	Mtwara DC
	Nanyumbu
	Newala
	Tandahimba

本プロジェクトでは基本的に以下の構成メンバーを想定している。

県給水衛生班 (DWST)	州給水衛生班 (RWST)
(1) 県水エンジニア	(1) 州水アドバイザー
(2) 県保健官	(2) 州モニタリング官
(3) 県計画官	(3) 州保健官
(4) 県コミュニティ開発官	(4) 州計画官
(5) 県教育官	(5) 州コミュニティ開発官
(6) 県財務官	(6) 州環境官
(7) 県水技官	

## 評価調査結果要約表

1. 案件の概要	
国名：タンザニア国	案件名： 村落給水事業実施・運営維持管理能力強化計画プロジェクト
分野：地方給水	援助形態：技術協力プロジェクト
所轄部署：地球環境部水資源第二課	協力金額（評価時点総額見込み）：4.2 億円
協力期間	(R/D): 2007年9月～ 2010年7月
	(延長): (F/U):
	先方関係機関：タンザニア国水灌漑省 （英名）Ministry of Water and Irrigation (MoWI)
	日本側協力機関:地球システム科学株式会社
	他の関連協力： 開発調査：南部地域水供給計画調査（2000-2001） 首都圏周辺地域水供給計画調査（2004-2006） 無償：リンディ州・ムトワラ州水供給計画（2003-2005） 首都圏周辺地域給水計画（2007-2010）
1-1 協力の背景と概要	
<p>2005年時点でタンザニア国（以下、「タ」国）における都市地域の給水率は74%、村落地域は53.5%となっており、村落部では1,340万人が給水を受けていない。本プロジェクトの対象となるのは、海岸に面したリンディ州、ムトワラ州、コースト州、ダル・エス・サラーム州の4州及びその州の所属する22県であるが、その内7割の県で村落地域の給水率が全国平均を下回っており、4割の県で給水施設の稼働率が50%を下回っている。また、2002年に改定された国家水政策では、国民全員が清潔で安全な水に400m以内の範囲でアクセスできることを目標に掲げているが、乾季になると約30%の家庭が飲料水を確保するために片道1km以上の距離を移動しなければならないとの報告がなされている。また、水汲み労働は女性や子供の仕事となっており、女性の健康状態悪化や子供の就学率低下にも影響していると見られる。</p> <p>2006年以降、「タ」国では、水セクターにおけるSWAp方針の具体的計画であるWSDP (Water Sector Development Programme) の策定、コモンファンドの設立等、水セクターにおける援助協力が急速に進展している。これまで「タ」国では、水灌漑省が新規村落給水事業を実施し、水灌漑省の指導のもと、コミュニティが給水施設の運営維持管理を実施していたが、村落給水衛生プログラム (RWSSP) ではこれまで水灌漑省が担ってきた村落給水事業にかかる業務の権限を県に移譲する地方分権化政策を急速に進めている。このため、県職員のRWSSPを実施する能力及び給水施設の運営維持管理能力が強化されなければ、WSDPに基づいて給水率を向上させることが困難な状況にある。また、RWSSPでは水灌漑省が村落給水に携わる県や州の職員の能力を強化するための研修を企画・調整すると規定しており、水灌漑省コミュニティ給水局にこれら研修を企画・調整する能力強化・訓練課を設置した。当時、県職員の能力を強化するための研修体制は存在せず、水資源職業訓練学校において、水テクニシャンを対象とした約3か月の研修が存在するのみであった。また、RWSSPでは州も水灌漑省とともに、県を支援することになっているが、支援体制が明確に定められていなかった。</p> <p>これらの状況を改善するため、「タ」国は県の給水施設維持管理能力とそれを支援する体制の強化を目的とした技術協力をわが国に要請した。本プロジェクトは、「タ」国水灌漑省の能力強化・訓練課をカウンターパート (C/P) 機関として、2007年9月より3年間の予定で実施されている。現在、4名の専門家（総括/村落給水事業、副総括/水資源開発・管理/給水計画、村落給水施設計画/維持管理、住民組織/衛生啓発）を派遣し、能力強化・訓練課を中心とした県職員の給水施設維持管理能力の強化に加え、州職員や流域管理事務所職員が県職員を支援する能力の強化の体制構築を図っている。</p>	
1-2 協力内容	
<p>「タ」国水灌漑省コミュニティ給水局をカウンターパートとする本プロジェクトは、村落給水の実質的な実施者である県給水衛生班の能力強化を図るとともに、当該組織を支援する関連組織のキャパシティ・ディベロップメントを図るものである。</p>	
(1) スーパーゴール	

プロジェクトで実践された研修体制が水セクター開発プログラム（WSDP）の中で制度化され、実施されることによって、タンザニア本土（ザンジバルを除く大陸部）の村落給水・衛生サービスが向上する。

(2) 上位目標

対象県の村落給水・衛生サービスが向上する。

(3) プロジェクト目標

対象県の新規村落給水事業実施・村落給水施設の運営維持管理体制が強化される。

(4) アウトプット

- 1) 水・灌漑省コミュニティ給水局による村落給水・衛生に関するキャパシティ・ディベロップメント計画の管理能力が強化される。
- 2) 村落給水・衛生事業の実施について、県給水・衛生班（DWST）の能力向上のための研修体制のモデルが構築される。
- 3) 村落給水・衛生事業の実施について、流域管理事務所（BWO）が県を支援する能力が強化される。
- 4) 村落給水・衛生事業の実施について、州給水・衛生班（RWST）が県を支援する能力が強化される。
- 5) プロジェクトを通して見直された地方給水・衛生事業（RWSS）の実施サイクル及び手続きが、対象県での地方給水・衛生サブプログラム（RWSSP）の実施に適用される。

(5) 投入（2010年2月時点）

日本側：総投入額 3.7 億円

機材供与：計 約 13 百万円（192 百万タンザニア・シリング）

専門家派遣：4 名 70.83MM ローカルコスト負担：計 105 百万円（1,570 百万タンザニア・シリング）

研修員受入：5 名

相手国側：

カウンターパート配置：7 名（プロジェクト・ダイレクター、プロジェクト・マネージャー含む）

土地・施設提供：日本人専門家執務室提供

2. 評価調査団の概要

調査者	（担当分野： 氏名 職位）	
	1. 団長／総括：	丸尾 祐二 JICA 地球環境部 国際協力専門員
	2. 調査企画：	早山恒成 JICA 地球環境部水資源第二課職員
	3. 評価分析：	古谷 典子 グローバル・リンク・マネージメント株式会社シニア研究員
	4. 村落給水：	地紙 広 株式会社 VSOC 第 2 事業部
調査期間	2010年2月12日～2010年3月7日	評価種類：終了時評価

3. 評価結果の概要

3-1 実績の確認

【プロジェクト目標】

終了時評価調査時点で、以下の指標を根拠にプロジェクト目標は概ね達成されていると判断できる。すなわち、対象県の新規村落給水事業実施・村落給水施設の運営維持管理体制が強化されつつある。

指標 1：RWSSP 実施において、「事業形成段階において、基礎調査（scoping survey）候補村落の選定手続きに Demand-Responsive Approach（DRA）を採用する」ことを実践する DWST（県給水・衛生班）は、対象 22 県中 9 県（40%）である。目標値である 18 県までには達していないが、その他の県においても、完全なる需要対応型アプローチではないにせよ、一部の要素を実践している。さらには、研修において DWST からの参加者の全員が DRA に則ったコミュニティ選択プロセスの重要性を理解し今後第二サイクルで再び各県が第二次の各 10 か村を選定する際に当該アプローチを採用する心づもりになっている。

指標 2：RWSSP 実施において、「TSP（技術系コンサルタント）及び FSP（ソフト系コンサルタント）から提出された進捗報告書、その他の成果品に対して、双方で合意された期間内に精査しコメントを返す」ことを実践する DWST（県給水・衛生班）は、モニタリングのための質問票調査の結果によると 20 県（18 県以上）あり、22 全対象県の 90.9%（80%以上）にあたり、目標値を超えた。

指標 3 : RWSSP 実施において、「県の給水・衛生状況及び既存給水施設の維持管理状況に係る情報を毎年更新する」を実践する DWST はモニタリングのための質問票調査の結果によると 21 県（18 県以上）あり、22 全対象県の 95.4%（80%以上）にあたり、すでに目標値を超えている。

指標 4 : RWSSP 実施において、「家庭及び学校を対象とする村落給水・衛生普及に係る戦略と活動計画が DWSP と年間計画に示される」を実践する DWST はモニタリングのための質問票調査の結果によると 19 県（18 県以上）あり、22 全対象県の 86.3%（80%以上）にあたり、目標値は達成されている。

#### 【アウトプット】

アウトプット 1 : 達成されたと判断できる。その理由は以下の通り ;

(指標 1-1) 地方給水・衛生事業の実施に係る県、州、流域の各レベルの人材育成戦略は、第一フェーズ（プロジェクト開始後 6 ヶ月以内）に PMO-RALG 他関係者との調整の下で策定されている。中間レビュー時点で報告がなされているとおりであるが、「DWST、RWST、BWO への給水・衛生事業の実施に係る人材育成戦略はプロジェクトの準備フェーズ中に作成され、プロジェクト・チームと JCC メンバーにより 2008 年 3 月に実施された第 2 回の JCC 会合で合意された。」

(指標 1-2) 「TCB（訓練教育）ユニット（注参照）の年間活動計画が毎年策定され」ている。2009/2010 年度の TCB ユニットの年間活動計画は 2009 年 6 月に策定された。また、当該年間活動計画は、CWSD（コミュニティ給水局）の組織改編に伴い 9 月に修正されている。

(指標 1-3) 「年間活動計画に添付された行動計画に基づき、カウンターパートにより活動が実施され」ている。また、第 5 フェーズでは、全ての研修コースにおいてカウンターパートの監理のもと研修が終了している。すなわち、行動計画に示された活動内容・時期・成果を概ね意識して、カウンターパートによりプロジェクト活動が実施された。

注 : 現在は、Capacity Building & Training (CBT) Sub section、能力開発訓練課として再編されている。

アウトプット 2 : ほぼ達成されたと判断できる。その理由は以下の通り ;

(指標 2-1) プロジェクト準備フェーズ期間内（プロジェクト開始後 9 ヶ月以内）に県給水・衛生班（DWST）研修計画は策定されている（中間レビューでも確認済）。2010 年 2 月時点で、研修第 5 フェーズが実施された。研修計画は、研修での経験をとおして必要な修正が加えられており、プロジェクトの終了時には研修パッケージとしてまもなくまとめられる段階となっている。

(指標 2-2) 研修対象者の研修に対する満足度、技術・知識の修得状況、行動変容及び研修のインパクトを記録・分析するためのモニタリング計画は、第一研修フェーズ終了後 2008 年 2 月（プロジェクト開始後 9 ヶ月以内）に策定された。2008 年 9 月にはカウンターパート会合において詳細が合意された（中間レビューでも確認済）。また、モニタリングは第 3 回まで計画どおりに実施されている。これらモニタリング計画は必要に応じて見直し、修正を加えてきており、研修体制モデルの一部として統合されている。

(指標 2-3) 研修モジュールガイドの改訂とその内容に沿った新しい教材類の準備が行われ、研修パッケージとしてほぼ完成に近付いている。具体的には、モジュールガイドは既に出来上がっており、研修パッケージ（研修教材まで含んだもの）については、終了時評価調査段階で最後の見直しをかけており、プロジェクト終了までには完成する予定であることが確認された。

研修計画の策定過程では、既存の研修モジュールを調査し、NAWAPO で取り上げられている主要課題に沿った改定を行った。改定された研修モジュールは 2008 年 5 月までに、ID&CB TWG（制度開発・能力強化課題別作業部会）や PCT（WSDP プログラム調整チーム）へ地方給水衛生プロジェクトのサイクルや手順に関する提案として示されている。

なお、本プロジェクトで提案している研修体制のモデルは、各県、各県給水衛生班の現状・能力に合わせてオーダーメイドの研修を自ら策定していくことができるというユーザーフレンドリー性の高い能力強化計画づくり方法を含んでおり、この点は、本プロジェクトが独自に付加価値を付けた点として特筆に値する。

アウトプット 3 : ほぼ達成されつつあり、終了時までに完全な達成が見込める。その理由は以下の通り ;

(指標 3-1) 「第 2 研修フェーズまでに水理地質予察図が流域管理事務所から全対象県に配布され」

た（第二年次に完了）。両対象 BWO の水理地質技師により作成され、22 対象県全県に配布された。（指標 3-2）「更新された水理地質データが流域管理事務所から全対象県に毎年配布され」る状態になりつつあると言える。水利地質予察図の更新について現在進行中であり、Ruvuma/Southern Coast 流域管理事務所（RSC-BWO）は更新済、Wami/Ruvu 流域管理事務所（WR-BWO）は更新のためのデータ収集中である。従って、終了までに更新完了されると関係者は考えている。

アウトプット 4：ほぼ達成されつつあるが、さらなる努力が継続されれば、終了時までに完全な達成が見込める。その理由は以下の通り；

（指標 4-1）対象州で RWSP が策定されつつある。対象 4 州において、現在、RWSP 作成へ向け県の情報の収集中である。RWST への RWSP 策定の研修は実施済みであり、プロジェクトでは、作成促進に腐心していることから、2010 年 7 月までに、策定が完了する予定である。

（指標 4-2）「DWST から四半期モニタリング報告書を受領後、1 ヶ月以内に全対象州の RWST が内容を確認し、県へのフィードバックを行う」状態になりつつあると言える。プロジェクトでは、RWST が Local Government Agency (LGA) のファシリテーションやモニタリングにもっと積極的に関わっていくように促進努力してきており、その結果として、DWST 四半期報告書に関しては、2008/2009 年度において 13 県がコメントを受領した。このことから、関係者は終了までの完全な目標値達成を肯定的に予測している。

アウトプット 5：概ね達成されていると判断できる。その理由は以下の通り；

（指標 5-1）「全対象県において、村落から要請されたサブプロジェクトが RWST 及び BWO の指導・承認に基づき計画・設計される」状態になってきている。2008/2009 年度の WSDP 関連業務実施中にサブプロジェクトの計画・設計について RWST から指導を受けた県は 13 県、BWO から指導を受けた県は 12 県である。また、RWST から業務計画や設計に対して承認を受けた県は 22 県中 8 県である。また、すべての対象県ではないにせよ、およそ半分となっており、今後さらにこの数は増加すると予測される。

（指標 5-2）「地方給水・衛生事業のプロジェクトサイクルと手続きに関し、必要な改訂についての提案が準備され」た。第一年次に策定された、既存の地方給水・衛生事業のプロジェクトサイクル（RWSSP）とプロセスを見直した改定案については、WSDP の PCT（プログラム調整チーム）及びコミュニティ給水局に対して提案を行った。提案後もプロジェクト・チームによる提案内容の説明、および質疑に対する応答は現在も続けられている。PCT は、RUWASA-CAD による提案内容は WSDP の方針と整合しているため、今後の WSDP-PIM (Project Implementation Manual) の改定（2012 年を予定）に利用していく方針を決め、CWSD もそのプロセスに同意を示した。

### 3-2 評価結果の要約

#### (1) 妥当性

プロジェクトの妥当性は、高いと判断される。

第 2 次貧困削減戦略（2005～2010 年）やミレニアム開発目標（MDGs）、第 2 次国家水政策（NAWAPO2002）、これを実現するために、2007 年 2 月に開始した水セクター開発プログラム（WSDP）など「タ」国開発政策や戦略との合致、WSDP の下、政府は給水の運営管理サービスの責任を県レベルで強化していくことを開始したことから、県やこれを支援する組織のキャパシティ・ディベロップメントに関するニーズへの合致、地方給水分野がわが国の対「タ」国別援助計画における重点分野の一つであり、地方人材の育成を通じた給水計画の策定・実施管理能力の強化を図るとする日本の援助政策との整合性、さらには、日本のこれまでの「タ」国における援助経験や効果が活かされ日本による援助の比較優位性が存在している。

#### (2) 有効性

本プロジェクトの有効性は高い。

なぜなら、終了時評価時点において、プロジェクト目標は概ね達成されており、プロジェクトの残された期間に予定されている活動進捗に向けた努力が継続されるならば、終了時点までには完全に達成されると見込まれる。すべてのアウトプットはプロジェクト目標達成に寄与したが、特に、アウトプット 2（研修システムのモデル構築）やアウトプット 5（地方給水・衛生サブプログラムの実施への適用）などは、県レベルに対して直接的に効果が波及するものであるため、プロジェク

ト目標「対象県の新規村落給水事業実施・村落給水施設の運営維持管理体制が強化される。」の達成に大きく貢献している。また、県を支援する中央の水灌漑省本省を始め州や流域事務所の能力強化を図るアウトプット（アウトプット1、3、4）も、アウトプット2や5のような県を中心として関連機関を協働させる作用のあるアウトプットの活動に呼応して効果が発現促進されたと思われる。

(3) 効率性

これまでの日本の援助の効果、資源（施設や知見のある人材登用）活用などによる相乗効果が促進要因となっていることは効率性を高めている。本プロジェクトの効果が対象とする4州のみならず、他の州への影響を及ぼすなど、広範な効果を発言しており、日本およびタンザニア両国による投入は、目標達成に向け期待されるアウトプットを産出するために概ね十分なものであった。プロジェクト目標を達成しつつあるという効果の発現状況は、分野の性質を勘案すると比較的限られた投入に対して高い水準に達していると判断されることから、効率性は高いと言える。但し、キャパシティ・ディベロップメントはコミュニティ給水現場の実際のインパクト指標上昇の基礎となるものであり、その効果の意義はプロジェクト終了後数年を経てインパクト指標において改善が見られた際に初めて正確な投入と効果（アウトカム）との比較がなされうるものであり、改めて効率性を判断することが求められる。

(4) インパクト

インパクトは、上位目標達成には3～5年以上かかる可能性も見込まれるものの、県レベルではDWST側の変化（意識や業務行動）が表れてきていることから、大きくなる可能性がある。また、横への広がりとしてスーパーゴールの段階で全国的展開を目指していることに関して、全国に波及する制度の改革が本プロジェクトの反映をもって進めるに到っているという影響力の点から大きくなることが予測される。プロジェクトの内容を知るにいたった他州・他県からは、問い合わせもきており、さらには、当初意図しなかったインパクトとして、コミュニティ給水局が本プロジェクトと同様の研修を他州でも実施するための研修計画の策定に取り組んでいることから、これが実行に移されれば波及効果は大きく、高いインパクトを生み出すこととなる。負のインパクトは観察されなかった。

(5) 自立発展性

以下に示す理由から、総合的には一定の条件を満たすならば自立発展性は確保できると判断できる。

まず、村落給水は国としても力を入れている分野であり、この政府の方針に変化はない。そのため地方自治体を中心とした人材の育成、能力強化には引き続き政策的なサポートが得られると判断され、最近組織改編した当該組織の安定度は高く、組織的な観点からの自立発展性は高い。

一方、財政的な自立発展性は一部確保されているものの終了時評価調査時点で高いと判断するには一定の条件、具体的にはWSDP予算が活用されるという条件が必要である。現在、各地方自治体が、WSDPのもと、RWSSPを実施するための研修計画を策定している最中である。それぞれの必要に応じて各自治体によって様々な内容が策定されることになるが、本プロジェクトの研修パッケージを採用し研修に含めていく自治体も現れることになる。その場合、本プロジェクトで得られた成果である研修パッケージを継続的に実施する予算がWSDP予算の中から配置されるという構図になっていく。

さらに、技術的な自立発展性については、研修内容の受け入れ度が高く、県を中心とした人材の定着度も高いことや研修受講者がカスケード方式で研修効果を波及させているという状況から判断すると技術的な自立発展性は一定程度確保されている。残された課題は、これが継続し拡大されるように、国全体の制度が後押しすることでさらに技術的な観点からの自立発展性が高まる。

研修受講者の研修への満足度は高く、知識やスキルを習得している。研修内容の受け入れ度合いが高い証拠として、習得したことを基にした個人レベル、組織レベルでの行動変容が表れてきており、例えば、以下のような個人レベルおよび組織レベルの行動変容が起こってきている。

個人レベルでの行動変容

- プロジェクトマネジメント：研修で習ったモニタリングのためのチェックリストの実際業務への活用、新規プロジェクト促進に際してPCM手法の採用、
- 衛生啓発：コミュニティレベルでの水衛生委員会の形成や学校保健活動への積極的参加、

#### 組織レベルの行動変容

- モニタリング対象全 LGA において需要対応型アプローチ (DRA)を県給水衛生班は推進してきていること、
- 技術系及びファシリテーション系コンサルタントからの報告書への確認・コメント対応に全県給水衛生班メンバーが参画していること、

### 3-3 効果発現に貢献した要因

#### (1) 計画内容に関すること

- ・ 地方自治体 (県) レベルにおける意欲の高さ

本プロジェクトは対象県における村落給水事業実施能力および運営維持管理能力の強化を目指すものであり、県給水衛生班および関連組織の能力強化を実施した。その実施過程は RWSSP の実施工程と対応して能力強化を実施する計画となっており、単に研修等により知識を習得するだけでなく、実践の経験に基づいた能力強化を行う仕組みであった。特に県給水衛生班は、本プロジェクトで習得した知識をすぐに実践する機会に恵まれたため、その効果を体感でき、本プロジェクトに高い意欲を持って参加し、より効果の発現に寄与することとなった。

#### (2) 実施プロセスに関すること

- ・ 水灌漑省政策アドバイザー配置とプロジェクトの協働

本プロジェクトのメンバーは WSDP の各種会合へ参加し、各開発パートナーとの情報共有に加え、本プロジェクトの成果の発信や広報、提案等を継続的に実施した。これにより、本プロジェクトの実施内容に WSDP での決定事項や議論されている事項を反映することに加え、逆に WSDP に本プロジェクトの成果を反映することが可能となったため、WSDP 本体との相乗効果を得ることが可能となった。

### 3-4 問題点及び問題を惹起した要因

#### (1) 計画内容に関すること

特になし。

#### (2) 実施プロセスに関すること

- ・ 国全体のプログラム (RWSSP) 実施の遅れ

本プロジェクトでは、身につけた知識や能力を RWSSP で実践することにより、より有効な能力強化を行うことを計画していた。しかし、RWSSP の実施が遅延しており、本プロジェクトで強化した能力を本プロジェクト期間中には実践できない見込みとなっている。そのため、当初計画よりも実践面での能力強化度合いが限定されることが予測される。

### 3-5 結論

終了時評価調査時において、Demand-Responsive Approach (DRA) を実践する DWST が対象 22 県中 9 県 (40%) であり、残りの DWST も、DRA の一部の要素を実践している。さらには、今後第二サイクルで DRA を採用する心づもりになっていること (指標 1)、RWSSP 実施において、「TSP (技術系コンサルタント) 及び FSP (ソフト系コンサルタント) から提出された進捗報告書、その他の成果品に対して、双方で合意された期間内に精査しコメントを返している DWST が 20 県 (90.9%) に上ること (指標 2)、県の給水・衛生状況及び既存給水施設の維持管理状況に係る情報を毎年更新している DWST が 21 県 (95.4%) に達していること (指標 3)、家庭及び学校を対象とする村落給水・衛生普及に係る戦略と活動計画が DWSP と年間計画に示されるように実践する DWST が 19 県 (86.3%) に達していること (指標 4)、加えて、個人レベル、組織レベルでキャパシティ・ディベロップメントが起こりつつあることが認められた。このような事実から、プロジェクト目標は、達成されつつあり、終了時まで完全に達成できる状況にあると判断できる。

評価 5 項目の観点からは、妥当性は高く、相手国政策・戦略へのアラインは重要な一方、それらが外部条件に組み込まれた場合、目標への到達に影響が出る可能性があるという観点から今後の戦略 (プロジェクトのロジック) 設定に検討の余地が残されたものの、プロジェクト目標達成度の観点からは有効性も高い。このように成果発現の大きさと比較的制限された投入とを比較した観点からは効率性は高い。

と言える。インパクトに関しては、上位目標達成には3～5年以上かかる可能性も見込まれるものの着実にその方向性に向けた効果が出つつあることに加え、対象4州以外の地域からも問い合わせが出始めていること、地方給水局が本プロジェクトと同様の研修を他州でも実施するための研修計画の策定に取り組む動きもあることから、これが実行に移されれば波及効果は大きく、高いインパクトを生み出す見込みがある。自立発展性に関しては、一定の条件を満たすならば確保できると判断できる。なぜなら、まず、国として力を入れている村落給水分野にあって、コミュニティ給水局の組織としての安定度が高いこと、研修の継続とその拡大のためにWSDP予算が活用されるという条件が整えば財政的観点からの自立発展性が確保され、さらに、技術的自立発展性については、研修内容の受け入れ度合いが高く、人材の定着度が特に県レベルで高いことが確認されており、これを支える中央での技術移転を受けた人材の戦略的活用がなされれば技術的観点からの自立発展性も高まる。

以上から、プロジェクト終了までにプロジェクト目標は達成されると見込まれ、妥当性、有効性、効率性も高く、インパクトの拡大も見込まれることからプロジェクトは適切に運営されたと判断できる。今後の自立発展性の面では、WSDPの予算を活用して研修を実施していくことが必要であるところ、残りのプロジェクト期間で予算の申請に関する情報提供や支援を実施していくことが望まれる。

### 3-6 提言（当該プロジェクトに関する具体的な措置、提案、助言）

#### 【今後プロジェクト終了までに行うこと】

- 1) 能力強化された人材の活用： 水灌漑省は本邦研修を受けたカウンターパートが、キャパシティ・ディベロップメント管理強化の戦略的見地から、最も研修効果を活用できるよう人材活用を図ること。
- 2) 財政的自立発展性確保： 水灌漑省は、WSDPの予算を用いて研修の継続性および拡大を確保していくこと。その他に可能性のある予算（地方自治庁の人材育成に充当できる予算など）を効果的に県が活用できるよう、セミナー開催、個別コンサルテーション供与などを通して情報整理・提供や予算申請などにおける支援を行う。
- 3) 全国展開に向けた準備： 水灌漑省は、本プロジェクトで得られた成果を広く波及させるため、すなわち、本プロジェクトで得られたシステムモデルが「タ」国全体で一般化される水灌漑省モデルとして認知されるために必要な活動を行う。例えば、本プロジェクト最終段階で予定されている成果発表セミナーを通じて研修システムモデルを各方面に周知すること。

#### 【プロジェクト終了後に向けて引き続き行うこと】

- 1) 人材の戦略的配置・育成： 水灌漑省は、全国展開にむけて能力開発訓練課の業務がさらに増大すると予測されることから、当該課の人員の戦略的な配置、またさらなる育成を展開する。
- 2) 全国展開のための検証： 水灌漑省は、本プロジェクトの成果である研修システムモデルの全国展開を確実にするために、他州での汎用性について検証し、以下に例示するような点を実施する。
  - PIMの次期改定の際に上述の水灌漑省モデルをPIMに反映させる。
  - 多様なニーズに対応するために、教材を多様化し、各教材の質向上に向けたさらなる精緻化、教材のユーザーフレンドリー性向上（視覚化など）を図る。
  - 各県共通の研修プログラムは、取りまとめるなど効率的実施を図る。
  - 研修講師の質を確保・向上するための中長期的戦略を検討する。
- 3) 関係機関との連携強化： 水灌漑省は、関係各省庁や機関との連携をさらに強化し、予算の有効活用のみならず、給水衛生セクターの進捗を正確に測るための指標に使用する用語定義の共通化（例：Improved Sanitation）を図ること。

### 3-7 教訓（当該プロジェクトから導き出された他の類似プロジェクトの発掘・形成、実施、運営管理に参考となる事柄）

- 1) 政策アドバイザーとプロジェクトの協働： カウンターパート機関への政策アドバイザー的機能とプロジェクト活動の協働が効果創出の貢献要因となる。本プロジェクトでは、セクターにおけるドナー会合への参加を通じて、同セクターを支援するドナー間での情報共有・意見交換や本プロジェクト成果の紹介を積極的にできたことなどから、プロジェクト活動の円滑な実施と効果の創出が促進された。
- 2) 中央と地方自治体への同時介入： 中央の能力強化のみで下位の行政機能の強化が必ずしもな

されるとは限らない。中央への介入と県への直接的介入の双方が重要だということが本プロジェクトの活動を通じて確認された。

- 3) 政策・プログラムと外部条件（和文報告書のみ掲載）： PDM の中で示される「RWSSP が計画どおり進捗する」という外部条件が満たされなかったにもかかわらず、プロジェクト目標レベルの効果が創出されている。WSDP にアラインしていくことは政策上重要である一方、今後、WSDP 進捗遅延がプロジェクト自体の進捗に影響が出るような事態を回避するためには計画立案時での何らかの配慮が必要であると思われる。

### 3-8 フォローアップ状況

特になし。

# 目 次

序 文

調査対象地図

写 真

略語一覧

プロジェクトサイト州・県名

評価調査結果要約表

第 1 章	終了時評価調査の概要.....	1-1
1-1	調査団派遣の経緯と目的.....	1-1
1-1-1	プロジェクトの背景.....	1-1
1-1-2	調査団派遣の目的.....	1-2
1-2	調査団の構成と調査期間.....	1-2
1-2-1	調査団員構成.....	1-2
1-2-2	調査期間および日程.....	1-2
1-3	プロジェクトの概要.....	1-3
第 2 章	終了時評価の方法.....	2-1
2-1	終了時評価の手順.....	2-1
2-1-1	評価の観点と評価の手法.....	2-1
2-1-2	データ収集方法.....	2-3
2-1-3	データ分析方法.....	2-4
第 3 章	プロジェクトの実績と現状.....	3-1
3-1	投入実績.....	3-1
3-2	活動実績.....	3-1
3-3	アウトプットの達成状況.....	3-2
3-4	プロジェクト目標の達成状況.....	3-5
3-5	上位目標の達成の見込み.....	3-7
3-6	実施プロセス.....	3-9
第 4 章	評価 5 項目による評価結果.....	4-1
4-1	妥当性.....	4-1
4-2	有効性.....	4-2
4-3	効率性.....	4-3
4-4	インパクト.....	4-4
4-5	自立発展性.....	4-5
第 5 章	技術担当団員所見.....	5-1
5-1	研修教材.....	5-1
5-2	研修講師（リソース）.....	5-3

5-3	研修モジュール内容 .....	5-4
5-4	BWO への技術移転.....	5-4
5-5	既存給水施設と衛生状況情報.....	5-4
第 6 章	結論と総括 .....	6-1
6-1	プロジェクトの達成度.....	6-1
6-2	5 項目による評価 .....	6-1
6-3	総論 .....	6-1
6-4	団長所見 .....	6-2
第 7 章	提言と教訓 .....	7-1
7-1	提言 .....	7-1
7-2	教訓 .....	7-2

#### 附属資料

添付資料 1 : 合意文書 (M/M)

添付資料 2 : PDM

添付資料 3 : PO

添付資料 4 : 評価グリッド

添付資料 5 : 聞き取りメモ

# 第1章 終了時評価調査の概要

## 1-1 調査団派遣の経緯と目的

### 1-1-1 プロジェクトの背景

2005年時点でタンザニア国（以下、「タ」国）における都市地域の給水率は74%、村落地域は53.5%となっており、村落部では1,340万人が給水を受けていない。本プロジェクトの対象となる4州においても、7割の県で村落地域の給水率は全国平均を下回っており、給水施設の稼働率は4割の県において50%を下回っている。また、2002年に改定された国家水政策（NWAPO2002: National Water Policy 2002）では、国民全員が清潔で安全な水に400m以内の範囲で平等にアクセスできることを目標に掲げているが、乾季になると約30%の家庭が飲料水を確保するために片道1km以上の距離を移動しなければならないとの報告がなされている。また、水汲み労働は女性や子供の仕事となっており、女性の健康状態悪化や子供の就学率低下にも影響している。

2006年以降、「タ」国では、水セクターにおけるSWAp（Sector Wide Approach）方針の具体的計画であるWSDP（Water Sector Development Programme）の策定、コモンファンドの設立等、水セクターにおける援助協調が急速に進展している。これまで「タ」国では、水灌漑省が新規村落給水事業を実施し、水灌漑省の指導のもと、コミュニティが給水施設の運営維持管理を実施していたが、RWSSPではこれまで水灌漑省が担ってきた村落給水事業にかかる業務の権限を県に移譲する地方分権化政策を急速に進めている。このため、県職員の新規村落給水事業（RWSSP）を実施する能力及び給水施設の運営維持管理能力が強化されなければ、WSDPに基づいて給水率を向上させることが困難な状況にある。また、RWSSPでは水灌漑省が村落給水に携わる県や州の職員の能力を強化するための研修を企画・調整すると規定しており、水灌漑省コミュニティ給水局にこれら研修を企画・調整する能力強化・訓練課を設置した。本プロジェクト開始前当時、県職員の能力を強化するための研修体制は水資源職業訓練学校（Water Resource Institute）において、水技官<sup>1</sup>を対象とした約3か月の研修が存在するのみであった。また、RWSSPでは州も水灌漑省とともに、県を支援することになっているが、支援体制が明確に定められていなかった。

これらの状況を改善するため、「タ」国は県の給水施設維持管理能力とそれを支援する体制の強化を目的とした技術協力をわが国に要請した。本プロジェクトは、「タ」国水灌漑省の能力強化・訓練課をカウンターパート（C/P）機関として、2007年9月より3年間の予定で実施されている。現在、4名の専門家（総括/村落給水事業、副総括/水資源開発・管理/給水計画、村落給水施設計画/維持管理、住民組織/衛生啓発）を派遣し、能力強化・訓練サブユニットを中心とした県職員の給水施設維持管理の能力強化に加え、州職員や流域管理事務所職員が県職員を支援する能力の強化の体制構築を図っている。

今回、プロジェクト終了まで残すところ約6ヶ月間となったことを踏まえ、現在までのプロジェクトの進捗・成果を確認し、評価5項目（妥当性、有効性、効率性、インパクト、自立発展性）の観点から評価を行い、プロジェクト目標の達成に向けた課題等を整理・協議のうえ、終了までの期間にお

<sup>1</sup> テクニシャンレベルであり、エンジニア資格はない。

ける今後のプロジェクト活動に対する提言及び今後の類似事業の実施にあたっての教訓を導き出すことを目的として終了時評価が実施された。

### 1-1-2 調査団派遣の目的

終了時評価調査は、以下の点を目的として実施された。

- 1) プロジェクトの実績と実施プロセスを総合的に確認する。
- 2) 評価5項目（妥当性、有効性、効率性、インパクト、自立発展性）に沿ってプロジェクトの実績を分析する。
- 3) プロジェクトの実施経験から、終了時までの対応方針等について提言を行なうとともに、類似の技術協力案件への教訓を抽出する。

## 1-2 調査団の構成と調査期間

### 1-2-1 調査団員構成

#### タンザニア側評価団

- (1) Mr. Reuben Kwigizile、タンザニア側調査団長  
水灌漑省コミュニティ給水局データベース課
- (2) Mr. Laurent K. Shauri、評価団員  
水灌漑省人事管理局
- (3) Mr. Bahati Joram、評価団員  
水灌漑省政策計画局エコノミスト

#### 日本側評価団

- (1) 丸尾 祐二（団長／総括）  
独立行政法人 国際協力機構 地球環境部 国際協力専門員
- (2) 早山 恒成（調査企画）  
独立行政法人 国際協力機構 地球環境部水資源第2課職員
- (3) 古谷 典子（評価分析）  
グローバル・リンク・マネージメント株式会社 シニア研究員
- (4) 地紙 広（村落給水）  
株式会社 VSOC 第2事業部 コンサルタントグループ 水・衛生分野スペシャリスト

### 1-2-2 調査期間および日程

2010年2月12日（金）～3月7日（日）の期間、現地調査を行った（内、官団員は2月21日（日）～3月6日（土））。詳細は、以下のとおり。

	丸尾、早山	古谷、地紙
2月12日	金	19:55羽田-関西21:15(JL 185)
2月13日	土	23:15関西-ドバイ05:55(JL5099)
		10:50ドバイ-ダル15:25(EK 725)
2月14日	日	専門家チームとの打合せ(適宜)
2月15日	月	JICAタンザニア事務所との協議
		MoWIとの協議
		合同評価者との打合せ, 評価手法説明
2月16日	火	専門家チームとの協議
		C/Pからの聞き取り
2月17日	水	研修受講者からの聞き取り(ダル・コースト)
		ワミ・ルフBWOからの聞き取り
2月18日	木	報告書案修正
2月19日	金	コースト州給水衛生チーム(RWST)(聞取)
		キバハ県(コースト州)県給水衛生チーム(DWST)(聞取)
2月20日	土	書類整理, 団内打合せ
2月21日	日	19:55羽田-関西21:15(EK6257)
		23:15関西-ドバイ05:55(EK 317)
2月22日	月	10:50ドバイ-ダル15:25(EK 725)
		団内協議(分析報告, 以降の調査方針確認等)
2月23日	火	専門家チームからの聞き取り(補足情報の依頼)
		合同評価者との打合せ
		JICAタンザニア事務所訪問, 協議
2月24日	水	C/Pからの聞き取り
		ダルエスサラーム州給水衛生チーム(RWST)(聞取)
		テメケ市(ダルエスサラーム州)給水衛生チーム(MWST)(聞取)
2月25日	木	10:50ダル-ムトワラ12:00(PW 401)
		ムトワラ州給水衛生チーム(RWST)(聞取)
		ムトワラ県(ムトワラ州)給水衛生チーム(DWST)(聞取)
		ルブマ・南コーストBWOからの聞き取り
2月26日	金	リンディヘ出発
		リンディ州給水衛生チーム(RWST)(聞取)
		リンディ県(リンディ州)給水衛生チーム(DWST)(聞取)
		ムトワラへ出発
		ムクンビカ給水施設視察(必要に応じ引き続き聞き取り)
		ムダンガ給水施設視察(必要に応じ引き続き聞き取り)
2月27日	土	12:20ムトワラ-ダル13:25(PW 402)
		専門家チームとの打合せ(補足情報を受領)
2月28日	日	団内協議(終了時評価結果), 報告書修正
3月1日	月	合同評価委員会協議
		専門家チームとの協議
3月2日	火	合同評価委員会協議
3月3日	水	JCC出席, M/M署名
3月4日	木	JICAタンザニア事務所への報告
		専門家チームとの協議
3月5日	金	大使館への報告
		17:20ダル-ドバイ23:50(EK 726)
3月6日	土	02:50ドバイ-関西16:40(EK 316/JL5090)
		17:20ダル-ドバイ23:50(EK 726)
		19:15関西-羽田20:25(EK6252/JL 188)
3月7日	日	02:50ドバイ-関西16:40(EK 316/JL5090)
		19:15関西-羽田20:25(EK6252/JL 188)

### 1-3 プロジェクトの概要

R/Dに示されるプロジェクトの目標、アウトプットは、以下のとおりである。

スーパーゴール： プロジェクトで実践された研修体制が水セクター開発プログラム(WSDP)の中で制度化され、実施されることによって、タンザニア本土(ザンジバルを除く大陸部)の村落給水・衛生サービスが向上する。

上位目標： 対象県の村落給水・衛生サービスが向上する。

プロジェクト目標： 対象県の新規村落給水事業実施・村落給水施設の運営維持管理体制が強化される。

アウトプット： (1) 水・灌漑省コミュニティ給水局による村落給水・衛生に関するキャパシティ・ディベロップメント計画の管理能力が強化される。

- (2) 村落給水・衛生事業の実施について、県給水・衛生班（DWST）の能力向上のための研修体制のモデルが構築される。
- (3) 村落給水・衛生事業の実施について、流域管理事務所（BWO）が県を支援する能力が強化される。
- (4) 村落給水・衛生事業の実施について、州給水・衛生班（RWST）が県を支援する能力が強化される。
- (5) プロジェクトを通して見直された地方給水・衛生事業（RWSS）の実施サイクル及び手続きが、対象県での地方給水・衛生サブプログラム（RWSSP）の実施に適用される。

活動：

- 1-1 対象地域の州・県職員の能力及び研修ニーズを評価する。
- 1-2 州・県職員に対する人材育成の実施状況を検証する。
- 1-3 研修リソースに関する情報収集を行う。
- 1-4 対象地域の人材育成計画案を WSDP/RWSSP 実施体制に沿って策定する。
- 1-5 上記 1-4 で作成した人材育成計画に基づき、年間活動計画案を作成する。
- 1-6 州・県職員のための既存の地方給水・衛生事業実施マニュアル、ガイドラインを整理し、改良する。
- 1-7 研修コンサルタントの委託契約管理を含む研修コースの実施監理を行う。
- 1-8 対象県により実施される地方給水・衛生事業の進捗状況をモニタリングする。
- 1-9 上記 1-6、1-7、1-8 の結果に基づき、年間活動計画を見直す。
- 1-10 本プロジェクトにより改訂された研修モジュール及び教材を、制度開発／キャパシティビルディング作業部会及び他の機会を通じてステークホルダーに紹介する。
- 1-11 WSDP 事業実施マニュアル（PIM）及び関連ガイドラインを本プロジェクトで活用する中で得た教訓を、水・灌漑省による同マニュアル、ガイドラインの改訂・改良作業に反映させるべく提言を行う。
- 2-1 対象県の DWST を対象とした地方給水・衛生事業の実施及び運営維持管理と衛生普及に関するコミュニティ支援についての既存の研修計画を改良する。
- 2-2 上記 2-1 の研修計画に基づき、研修カリキュラムと教材を作成する。
- 2-3 上記 2-1、2-2 に基づき、DWST の研修を実施する。
- 2-4 モニタリング対象県への訪問を通じて、地方給水・衛生事業の実施管理に係る DWST の業務改善について指導を行う。
- 2-5 研修計画の改善のため、研修対象者の技術・知識の修得状況ならびに行動変容、研修計画のインパクトをモニタリング・評価する。
- 3-1 流域管理事務所による有効活用のため、既存の水資源データをレビュー

- ーし、整理する。
- 3-2 流域管理事務所に対して、水資源データの解析・加工について指導する。
  - 3-3 県の地方給水・衛生事業実施に対する流域管理事務所の支援サービス改善のため、流域管理事務所を対象とした研修計画を策定する。
  - 3-4 上記 3-3 に基づき流域管理事務所の研修を実施する。
  - 3-5 流域管理事務所による対象県での地方給水事業支援状況をモニタリングする。
  - 4-1 **RWST** による対象県での地方給水事業実施支援及びモニタリング実施状況を確認する。
  - 4-2 州行政事務所、水・灌漑省、首相府地方自治省、流域管理事務所および対象の県との間の情報伝達の仕組みを調査する。
  - 4-3 上記 4-1、4-2 の調査結果に基づき、**RWST** を対象とした研修計画を策定する。
  - 4-4 上記 4-3 の研修計画に基づき、**RWST** の研修を実施する。
  - 4-5 **RWST** による対象県での地方給水事業支援状況をモニタリングする。
  - 5-1 既存の地方給水・衛生事業のプロジェクトサイクルと手続きを見直し、必要な改訂についての提案を準備する。
  - 5-2 プロジェクトサイクル及び手続きの改訂事項が対象県での **WSDP** 実施に適用されるよう、水・灌漑省コミュニティ給水局、州行政事務所、流域管理事務所、県との間の合意形成を促進する。
  - 5-3 プロジェクトの進捗状況を、**WSDP** 組織開発・組織強化作業部会にて定期的に報告する。



## 第2章 終了時評価の方法

日本側調査団とタンザニア側調査団で構成される合同評価団を結成し、合同評価を実施した。合同評価団は、PDMに基づいて、アウトプットとプロジェクト目標の達成度および上位目標達成見込みをまず確認した上で、評価5項目（妥当性、有効性、効率性、インパクト、自立発展性）の観点から分析した。続いて、導き出された結論に従い提言をとりまとめ、プロジェクト実施から得られた教訓を導出した。

### 2-1 終了時評価の手順

#### 2-1-1 評価の観点と評価の手法

本調査では、（1）プロジェクト・デザイン・マトリックス（PDM：プロジェクトの諸要素を論理的に配置したプロジェクトの概要表）に基づいた評価のデザイン、（2）プロジェクトの実績・実施プロセスを中心とした必要情報の収集、（3）「妥当性」、「有効性」、「効率性」、「インパクト」、「自立発展性」という5つの評価の観点（評価5項目）からの収集データの分析、（4）分析結果からの提言・教訓の導出及び報告、という流れを踏まえ調査を行った。なお、評価5項目の詳細については、後述の「2-1-3 データ分析方法」を参照のこと。

まず、R/D（2007年6月付け、プロジェクト内容の概略を定めたもの）、PDM、活動計画書（P/O）、終了時評価調査に係る事前資料、その他プロジェクトの関係文書、報告書等に基づき、終了時評価の実施手順と調査項目案を策定した。評価用PDMは作成せず、現行のPDMを用いた。

主な調査項目は以下の表のとおりである。なお、評価グリッドは、添付資料4を参照のこと。

主な調査項目

大項目	中項目	調査項目
0. プロジェクト実績／実施プロセス  プロジェクトは何を達成したか（する見込みか）	0-1 投入実績	タンザニア側および日本側の投入実績
	0-2 活動実績	各アウトプットを達成するための活動実績
	0-3 各アウトプットの達成状況	アウトプット1～5の達成状況
	0-4 プロジェクト目標達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 対象県の新規村落給水事業実施・村落給水施設の運営維持管理体制が強化されたかどうか               <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) RWSSP 実施において、「事業形成段階において、基礎調査候補村落の選定手続きに重要対応型アプローチを採用する」ことを実践する県給水・衛生チームが、対象県の何%（22 県中の何県）であるかというデータ。終了時評価時点で達成されていない場合は、2010 年 7 月までに 80%（18 県）に達する可能性を示す情報。</li> <li>(2) RWSSP 実施において、「TSP（技術系コンサルタント）及び FSP（ソフト系コンサルタント）から提出された進捗報告書、その他の成果品に対して、双方で合意された期間内に精査しコメントを返す」ことを実践する DWST（県給水・衛生班）が、対象県の何%（22 県中の何県）であるかというデータ。終了時評価時点で達成されていない場合は、2010 年 7 月までに 80%（18 県）に達する可能性を示す情報。</li> <li>(3) RWSSP 実施において、「県の給水・衛生状況及び既存給水施設の維持管理状況に係る情報を毎年更新する」を実践する DWST が、対象県の何%（22 県中の何県）であるかというデータ。終了時評価時点で達成されていない場合は、2010 年 7 月までに 80%（18 県）に達する可能性を示す情報。</li> <li>(4) RWSSP 実施において、「家庭及び学校を対象とする村落給水・衛生普及に係る戦略と活動計画が DWSP と年間計画に示される」を実践する DWST が、対象県の何%（22 県中の何県）であるかというデータ。終了時評価時点で達成されていない場合は、2010 年 7 月までに 80%（18 県）に達する可能性を示す情報。</li> </ul> </li> <li>● 指標で設定された上記数値以外にも、プロジェクト目標が達成されたことを示す（根拠となる）サポーティングデータ</li> </ul>
	0-5 上位目標の達成度（見込み）	<p>2015 年までに、以下のことが達成されることを示唆する何らかの情報、データ、関係者の意見。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 1. 改善された水源を利用できる人口が対象県の村落部で 57.8%（Dec07）から 75.6%に増加する。</li> <li>● 2. 対象県において、年間計 6 ヶ月以上稼働している給水ポイントの割合が 73.5%（Dec07）から 100%に向上する。</li> <li>● 3. 法的に登録された水利用者組織（WUE）の数が各対象県で現状値より増加する。</li> <li>● 4. 対象県において、改善された衛生施設（トイレ）を利用する人々が X%から Y%に増加する。</li> </ul>
	0-6 活動の進捗状況	プロジェクト進捗状況、モニタリング状況
	0-7 実施上の課題とこれまでの取り組み	左記のとおり
	0-8 実施体制と関係部署間の連携状況	実施体制図、連携状況
	0-9 C/P の業務遂行状況	C/P の数や能力の適切性、コミュニケーション、積極性

	0-10 相手国実施機関の主体性	水灌漑省のプロジェクトに対するオーナーシップ
1. 妥当性	1-1 タンザニアの村落給水分野における本プロジェクトの必要性	村落給水分野における戦略との適合性
	1-2 ターゲットグループのニーズ	水灌漑省を直接的な受益者としたことの設定の適切性を示す情報
	1-3 日本の開発援助政策との適合性	日本の国別援助計画
2. 有効性	2-1 プロジェクト目標の達成度合い	上記「0-4 プロジェクト目標達成度」に同じ
	2-2 阻害・促進要因、アウトプット・外部条件との因果関係	促進・阻害要因の確認
3. 効率性	3-1 「投入」の適正度	<ul style="list-style-type: none"> <li>C/P の配置、供与施設、プロジェクト運営費の適正度、C/P の業務管理体制</li> <li>専門家派遣、研修員受入、供与機材の適正度</li> </ul>
	3-2 アウトプット、プロジェクト目標の達成度	プロジェクト実績に既述
	3-3 プロジェクトの支援体制	合同調整委員会の実施状況、日本側の支援体制の状況（JICA 本部、現地事務所）
4. インパクト	4-1 上位目標達成の見込み	上記「0-5 上位目標の達成度（見込み）」に同じ
	4-2 他のプラスのインパクト	プラスの波及効果の事例
	4-3 マイナスのインパクト	マイナスの波及効果の有無確認
5. 自立発展性	5-1 組織的自立発展性	プロジェクト（能力強化研修活動）の継続実施体制の今後の位置付け
	5-2 財政的自立発展性	カウンターパート機関の予算の確保、財政支援の継続性を確認できる情報
	5-3 技術的自立発展性	<ul style="list-style-type: none"> <li>タンザニア側人材への技術移転度を示す情報</li> <li>能力強化されたタンザニア側人材の村落給水能力強化研修の推進者・指導者の定着・活用度</li> </ul>
	5-4 自立発展性の阻害・促進要因	本プロジェクトで構築されている研修システムモデルが、継続実施されるために必要な条件など

### 2-1-2 データ収集方法

上述の評価デザインに沿って、PDM 記載事項の実績データを中心に、以下の情報源およびデータ収集手法を用いて情報を収集した。

- 1) R/D、M/M、PDM、P/O 等のプロジェクト計画文書
- 2) 日本人専門家およびカウンターパートからの聞き取り及び質問票への回答
- 3) 日本側及びタンザニア側の投入に関する記録
- 4) プロジェクト対象地である 4 州の州・県給水衛生班からの聞き取り
- 5) 村落部の給水施設視察および水委員会関係住民からの聞き取りなど
- 6) その他プロジェクトによる記録及び成果品

### 2-1-3 データ分析方法

開発プロジェクトを評価する際に国際的に使用される評価5項目の観点から、収集したデータを分析し、総合的に価値判断した。評価5項目のそれぞれが示す内容は以下の通りである。

- 1) 妥当性： プロジェクトの目指している効果（プロジェクト目標や上位目標）が、評価を実施する時点において妥当か（受益者のニーズに合致しているか、問題や課題の解決策として適切か、相手国と日本側の政策との整合性はあるか、プロジェクトの戦略・アプローチは妥当か等）を確認する。
- 2) 有効性： プロジェクトの実施により、本当に受益者もしくは社会への便益がもたらされているのかを確認する。また、そのための戦略（アウトプットのたて方）がプロジェクト目標達成に貢献しているのかどうかを確認する。
- 3) 効率性： プロジェクトのコストと効果の関係に着目し、資源が有効に活用されているかを確認する。
- 4) インパクト： プロジェクト実施によりもたらされる、より長期的・間接的効果や波及効果を確認する。予測していなかった正・負の効果・影響を含む。
- 5) 自立発展性： 援助終了後も、プロジェクトにより発現した効果が持続していく見込みがあるかどうかを確認する。

## 第3章 プロジェクトの実績と現状

### 3-1 投入実績

R/D、M/M と PDM に沿って、以下に示すとおり概ね予定どおりの投入が行なわれた。

[日本側]

#### 1) タンザニアへの専門家派遣

2007年9月のプロジェクト開始以来2010年3月までに、4分野において4名の専門家が日本から派遣されている。各専門家の担当分野とタンザニアへの派遣期間実績は以下のとおりで、合計70.83人月となっている。

18.33 人月	総括/村落給水事業
16.00 人月	副総括/水資源開発・管理/給水計画
16.50 人月	村落給水施設計画/維持管理
20.00 人月	住民組織/衛生啓発

#### 2) 資機材供与

供与機材としてパソコン、プリンタや車両など、計12,643,777円の資機材が、2010年3月までに水灌漑省に対してプロジェクトの活動実施のために供与された。

#### 3) 日本におけるカウンターパート研修

本プロジェクトの投入としての本邦研修受入は5人である。

#### 4) 在外事業強化費

2010年2月時点までに、計117,286,380円が、現地活動に必要な経費の一部として支出された。

[タンザニア側]

#### 1) カウンターパート及びその他の職員配置

プロジェクト・ダイレクターとして水灌漑省次官が任命され、その下に、水灌漑省コミュニティ給水局長がプロジェクト・マネージャーとして任命されている。水灌漑省内に、特に本案件のために配属された実務レベルでのカウンターパートは、プロジェクト・マネージャーを含めると6名となっている。

#### 2) 施設供与

カウンターパート機関からのプロジェクトに必要な施設（プロジェクト事務所のスペース）は、水灌漑省の敷地内に提供された。

### 3-2 活動実績

PDM と PO に示された内容に従ってプロジェクトは活動を進めていることが確認された。

### 3-3 アウトプットの達成状況

R/D、M/M と PDM に示される内容に沿って、アウトプットはほぼ達成されている。その根拠は、指標にもとづいた判断であり以下に示すとおりである。なお、PDM 上に示される指標について、厳密には外部条件が整って初めて入手可能となる数値である点も考慮して、指標策定当初の意図と実際に入手可能な情報・データをもとに判断した。

#### アウトプット 1： 水・灌漑省コミュニティ給水局による村落給水・衛生に関するキャパシティ・ディベロップメント計画の管理能力が強化される。

アウトプット 1 は達成されたと判断できる。その根拠は以下の理由による。

指標
1-1: 地方給水・衛生事業の実施に係る県、州、流域の各レベルの人材育成戦略が、プロジェクト開始後 6 ヶ月以内に PMO-RALG 他関係者との調整の下で策定される。
1-2: TCB ユニットの年間活動計画が毎年策定される。
1-3: 年間活動計画に添付された行動計画に基づき、カウンターパートにより活動が実施される。

(指標 1-1) 地方給水・衛生事業の実施に係る県、州、流域の各レベルの人材育成戦略は、第一フェーズ (プロジェクト開始後 6 ヶ月以内) に PMO-RALG 他関係者との調整の下で策定されている。中間レビュー時点で報告がなされているとおりであるが、「DWST、RWST、BWO への給水・衛生事業の実施に係る人材育成戦略はプロジェクトの準備フェーズ中に作成され、プロジェクト・チームと JCC メンバーにより 2008 年 3 月に実施された第 2 回の JCC 会合で合意された。」

(指標 1-2) 「TCB (訓練教育) ユニット<sup>2</sup>の年間活動計画が毎年策定され」ている。2009/2010 年度の TCB ユニットの年間活動計画は 2009 年 6 月に策定された。また、当該年間活動計画は、CWSD (コミュニティ給水局) の組織改編に伴い 9 月に修正されている。

(指標 1-3) 「年間活動計画に添付された行動計画に基づき、カウンターパートにより活動が実施され」ている。また、プロジェクトの第 5 フェーズでは、全ての研修コースにおいてカウンターパートの監理のもと研修が終了している。すなわち、行動計画に示された活動内容・時期・成果を概ね意識して、カウンターパートによりプロジェクト活動が実施された。

#### アウトプット 2： 村落給水・衛生事業の実施について、県給水・衛生班 (DWST) の能力向上のための研修体制のモデルが構築される。

アウトプット 2 はほぼ達成されたと判断できる。その根拠は以下の理由による。

指標
2-1: プロジェクト開始後 9 ヶ月以内に研修計画が策定される。
2-2: 研修対象者の研修に対する満足度、技術・知識の修得状況、行動変容及び研修のインパクトを記録・分析するためのモニタリング計画がプロジェクト開始後 9 ヶ月以内に策定される。

<sup>2</sup> 現在は、Capacity Building & Training (CBT) Sub section、能力開発訓練課として再編されている。

2-3: 研修モジュールガイドの改訂とその内容に沿った新しい教材類の準備が行われ、2010年7月までに研修パッケージとして完成される。

(指標 2-1) プロジェクト準備フェーズ期間内（プロジェクト開始後9ヶ月以内）に県給水・衛生班（DWST）研修計画は策定されている（中間レビューでも確認済）。2010年2月時点で、研修第5フェーズが実施された。研修計画は、研修での経験をとおして必要な修正が加えられており、プロジェクトの終了時には研修パッケージとしてまもなくまとめられる段階となっている。

(指標 2-2) 研修対象者の研修に対する満足度、技術・知識の修得状況、行動変容及び研修のインパクトを記録・分析するためのモニタリング計画は、第一研修フェーズ終了後2008年2月（プロジェクト開始後9ヶ月以内）に策定された。2008年9月にはカウンターパート会合において詳細が合意された（中間レビューでも確認済）。モニタリングは第3回まで計画どおりに実施された。モニタリング計画は必要に応じて見直し、修正を加えてきており、研修体制モデルの一部として統合されている。

(指標 2-3) 研修モジュールガイドの改訂とその内容に沿った新しい教材類の準備が行われ、研修パッケージとしてほぼ完成に近付いている。具体的には、モジュールガイドは既に出来上がっており、研修パッケージ（研修教材まで含んだもの）については、終了時評価調査段階で最後の見直しをかけており、プロジェクト終了までには完成する予定であることが確認された。

研修計画の策定過程では、既存の研修モジュールを調査し、NAWAPO で取り上げられている主要課題に沿った改定を行った。また、研修を連続的に実施する中で見直しをかけた研修モジュール、研修計画に沿った研修カリキュラムと既存教材を基に作成されてきている。改定された研修モジュールは2008年5月までに、ID&CB TWG（制度開発・能力強化課題別作業部会）やPCT（WSDP プログラム調整チーム）へ地方給水衛生プロジェクトのサイクルや手順に関する提案として示されている。

なお、本プロジェクトで提案している研修体制のモデルは、各県、各県給水衛生班の現状・能力に合わせてオーダーメイドの研修を自ら策定していくことができるというユーザーフレンドリー性の高い能力強化計画づくり方法を含んでおり、この点は、本プロジェクトが独自に付加価値を付けた点として特筆に値する。

アウトプット3： 村落給水・衛生事業の実施について、流域管理事務所（BWO）が県を支援する能力が強化される。

アウトプット3はほぼ達成されつつあり、現在進行中の水利地質予察図更新のためのデータ収集について、さらなる努力が継続されれば、終了時までには完全な達成が見込める。その根拠は以下の理由による。

指標
3-1: 第2研修フェーズまでに水理地質予察図が流域管理事務所から全対象県に配布される。
3-2: 更新された水理地質データが流域管理事務所から全対象県に毎年配布される。

(指標 3-1) 「第2研修フェーズまでに水理地質予察図が流域管理事務所から全対象県に配

布され」た（第二年次に完了）。両対象 BWO の水利地質技師により作成され、22 対象県  
全県に配布された。

（指標 3-2）「更新された水理地質データが流域管理事務所から全対象県に毎年配布され」  
る状態になりつつあると言える。水利地質予察図の更新について現在進行中であり、  
RSC-BWO は更新済、WR-BWO は更新のためのデータ収集中である。従って、終了までに  
更新完了されると関係者は考えている。

アウトプット 4： 村落給水・衛生事業の実施について、州給水・衛生班（RWST）が県を支援する  
能力が強化される。

アウトプット 4 はほぼ達成されつつあり、さらなる努力がなされることでプロジェクト終  
了までに完全に達成される判断できる。その根拠は以下の理由による。

指標
4-1: 2010 年 7 月までに全対象州で RWSP が策定される。
4-2: DWST から四半期モニタリング報告書を受領後、1 ヶ月以内に全対象州の RWST が内 容を確認し、県へのフィードバックを行う。

（指標 4-1）対象州で RWSP が策定されつつある。コースト州、リンディ州においては、  
既に RWSP を作成済であるが、ムトララ州、ダル・エス・サラーム州においては、県の情  
報の収集中である。RWST への RWSP 策定の研修が実施済であり、プロジェクトでは、作  
成促進に腐心していることから、2010 年 7 月までに、策定される予定であるムトララ州、  
ダル・エス・サラーム州においても策定が完了する予定である。

（指標 4-2）「DWST から四半期モニタリング報告書を受領後、1 ヶ月以内に全対象州の  
RWST が内容を確認し、県へのフィードバックを行う」状態になりつつあると言える。プ  
ロジェクトでは、RWST が LGA のファシリテーションやモニタリングにもっと積極的に  
関わっていくように促進努力してきており、その結果として、DWST 四半期報告書に関し  
ては、2008/2009 年度において 13 県がコメントを受領した。このことから、関係者は終了  
までの完全な目標値達成を肯定的に予測している。

アウトプット 5： プロジェクトを通して見直された地方給水・衛生事業（RWSS）の実施サイクル  
及び手続きが、対象県での地方給水・衛生サブプログラム（RWSSP）の実施に適  
用される。

アウトプット 5 は、概ね達成できていると判断できる。その根拠は以下の理由による。

指標
5-1: 全対象県において、村落から要請されたサブプロジェクトが RWST 及び BWO の指導・ 承認に基づき計画・設計される。
5-2: 地方給水・衛生事業のプロジェクトサイクルと手続きに関し、必要な改訂についての提 案が準備される。

（指標 5-1）「全対象県において、村落から要請されたサブプロジェクトが RWST 及び  
BWO の指導・承認に基づき計画・設計される」状態になってきている。2008/2009 年度の  
WSDP 関連業務実施中にサブプロジェクトの計画・設計について州給水衛生班（RWST）

から指導を受けた県は全 22 県中 13 県<sup>3</sup>、BWO から指導を受けた県は 12 県<sup>4</sup>である。また、州給水衛生班 (RWST) から業務計画や設計に対して承認を受けた県は 22 県中 8 県である。まだ、すべての対象県ではないにせよ、おおよそ半分となっており、今後さらにこの数は増加すると予測される。

(指標 5-2) 「地方給水・衛生事業のプロジェクトサイクルと手続きに関し、必要な改訂についての提案が準備され」た。第一年次に策定された、既存の地方給水・衛生事業のプロジェクトサイクル (RWSSP) とプロセスを見直した改定案については、WSDP の PCT (プログラム調整チーム) 及びコミュニティ給水局に対して提案を行った。提案後もプロジェクト・チームによる提案内容の説明、および質疑に対する応答は現在も続けられている。PCT は、RUWASA-CAD による提案内容は WSDP の方針と整合しているため、今後の WSDP-PIM (Project Implementation Manual) の改定 (2012 年を予定) に利用していく方針を決め、コミュニティ給水局もそのプロセスに同意を示している。

### 3-4 プロジェクト目標の達成状況

プロジェクト目標：対象県の新規村落給水事業実施・村落給水施設の運営維持管理体制が強化される。

終了時評価調査時点で、プロジェクト目標は概ね達成されていると判断できる。

上記判断の根拠を以下に示す。

指標
<p>RWSSP 実施において、下記の行動を実践する DWST が、2010 年 7 月までに対象県の 80% (18 県) に達する。</p> <p>指標 1：事業形成段階において、基礎調査 (scoping survey) 候補村落の選定手続きに Demand-Responsive Approach を採用する。</p> <p>指標 2：TSP 及び FSP から提出された進捗報告書、その他の成果品に対して、双方で合意された期間内に精査しコメントを返す。</p> <p>指標 3：県の給水・衛生状況及び既存給水施設の維持管理状況に係る情報を毎年更新する。</p> <p>指標 4：家庭及び学校を対象とする村落給水・衛生普及に係る戦略と活動計画が DWSP と年間計画に示される。</p>

指標 1：RWSSP 実施において、「事業形成段階において、基礎調査 (scoping survey) 候補村落の選定手続きに Demand-Responsive Approach<sup>5</sup>を採用する」ことを実践した県給水衛生班 (DWST) は、対象 22 県中 9 県 (40%)<sup>6</sup>である。しかしながら、その他の県においても、完全なる需要対応型アプローチではないにせよ、一部の要素を実践している。さらには、研修において DWST からの参加者の全員が DRA に則ったコミュニティ選択プロセスの重

<sup>3</sup> Kinondoni 県、Kilwa 県、Lindi DC 県、Lindi TC 県、Liwale 県、Nachingwea 県、Nanyumbu 県、Newala 県、Tandahimba 県、Kisarawe 県、Mafia 県、Mkuranga 県、Rufiji 県となっている。

<sup>4</sup> Temeke 県、Kilwa 県、Lindi DC 県、Lindi TC 県、Liwale 県、Nachingwea 県、Ruangwa 県、Masasi 県、Nanyumbu 県、Tandahimba 県、Bagamoyo 県、Rufiji 県となっている。

<sup>5</sup> 需要対応型アプローチ (DRA) であり、基本的にコミュニティの要望に基づくものである。

<sup>6</sup> これは、プロジェクトが開始された際にはすでに各県にて RWSSP の第一サイクルで対象とする各 10 か村は決定していたため、正確には、選定時に需要対応型アプローチを採用していたとはいえないが、実質的に当該アプローチに相当するやり方をしていたかどうかを振り返りつつ判断したものである。

要性を理解し今後第2サイクルで再び各県が各10か村を選定する際に当該アプローチを採用する心づもりにしている。

指標2：RWSSP実施において、「TSP（技術系コンサルタント）及びFSP（ソフト系コンサルタント）から提出された進捗報告書、その他の成果品に対して、双方で合意された期間内に精査しコメントを返す」ことを実践するDWST（県給水衛生班）は、モニタリングのための質問票調査の結果によると20県（18県以上）あり、22全対象県の90.9%（80%以上）にあたる。終了時評価時点で目標値は達成されている。

指標3：RWSSP実施において、「県の給水・衛生状況及び既存給水施設の維持管理状況に係る情報を毎年更新する」を実践する県給水衛生班（DWST）はモニタリングのための質問票調査の結果によると21県（18県以上）あり、22全対象県の95.4%（80%以上）にあたる。終了時評価時点で目標値は達成されている。

指標4：RWSSP実施において、「家庭及び学校を対象とする村落給水・衛生普及に係る戦略と活動計画が県給水計画DWSPと年間計画に示される」を実践する県給水衛生班（DWST）はモニタリングのための質問票調査の結果によると19県（18県以上）あり、22全対象県の86.3%（80%以上）にあたる。終了時評価時点で目標値は達成されている。

上記の指標の他に、プロジェクト目標が達成されつつあることを示す根拠として、以下の点が指摘できる。

アンケート回答者<sup>7</sup>全員が、プロジェクト目標達成について肯定的な判断をしている。日本人専門家は、「県給水衛生班としての地方給水運営管理実施」が多くの県で確立しつつある、と判断しているが、終了時評価調査で実際に聞き取りを行った県給水衛生班からもそれを示唆する状況が確認された。給水衛生班は、水だけでなく教育や保健など関連するセクターを巻き込んだメンバーから構成されるが、例えば、コースト州キバハ県の県給水衛生班は、県教育官や県計画官は本プロジェクトにかかわる以前はほぼ水の視点が皆無であり、その意味では能力は大幅に強化されたと認識<sup>8</sup>している。また、研修に満足するだけでなく、それをもとに、例えば県内半数の学校に学校保健クラブを設置し、水と保健衛生、衛生施設設置についての指導や教育をすでに開始していることが報告された。その他に、各セクターが一つのチームとして、資源有効活用を目的とした、情報を含む資源の共有を図っており、かつては縦割りだった働き方から意識を変え、セクターを超えたメンバーによる定期的な会合、その他の連携した活動という行動の変化を「自分自身の業務の改善点」として認識する段階にまで至っている。加えて、自己評価のみならず、同県給水衛生班の能力強化状況を州の側から（州給水衛生班の視点から）評価してもらったが、同様に相当に高く<sup>9</sup>改善したと認識されていた。

<sup>7</sup> アンケート回答者で日本側（4名）、タンザニア側（5名）

<sup>8</sup> グループ・インタビューの中では、0%から60%程度まで上昇したと自己評価した。

<sup>9</sup> ほぼ0%から80%ちかくまでへの上昇

### 3-5 上位目標の達成の見込み

上位目標：対象県の村落給水・衛生サービスが向上する。

スーパーゴール：プロジェクトで実践された研修体制が水セクター開発プログラム（WSDP）の中で制度化され、実施されることによって、タンザニア本土（ザンジバルを除く大陸部）の村落給水・衛生サービスが向上する。

上位目標については、その達成を測る指標として掲げられた PDM 上の指標数値を終了時評価時点  
で示すことはできないが、3～5 年後には上位目標達成は達成するであろうと多くの関係者<sup>10</sup>が考  
えている。その背景には、WSDP 予算による RWSSP の 2 回目のサイクルにおいて本プロジェクトで  
供与した研修の成果が発揮されると想定すると、現在実施中の一回目のサイクルに今後 2 年間、  
次の二回目のサイクル終了まで含めるとさらに 3 年間、すなわち計 5 年後には改善の結果が  
現れてくると予測しているからである。指標が達成される方向で進んでいることを示唆する  
情報として、今般の県給水衛生班からの聞き取りの中で、以下指標別に示す通り具体的  
ないくつかの示唆がでてきており、それらの状況から判断するならば、上位目標の達成  
に向けて本プロジェクトの活動は着実に進んでおり、上位目標達成に向けて進捗してい  
ることは間違いない。また、国全体への拡大を含めて本プロジェクトの効果が波及して  
いく状況を目指すスーパーゴールについても同様であり、個別の指標数値を終了時評  
価時に入手することはできなかったが、アウトプット 5 の達成状況で既述のとおり、国  
全体のプログラム実施にかかるマニュアルである PIM への改定をもって本プロジェ  
クトの研修システムモデルを反映させていくなど国全体への拡大方針の進捗と連動して、  
上位目標の延長線上に具現化されることが想定される。

#### 上位目標達成の指標

2015 年までに、

1. 改善された水源を利用できる人口が対象県の村落部で 57.8%（Dec07）から 75.6%に増加する。
2. 対象県において、年間計 6 ヶ月以上稼働している給水ポイントの割合が 73.5%（Dec07）から 100%に向上する。
3. 法的に登録された水利用者組織（WUE）の数が各対象県で現状値より増加する。
4. 対象県において、改善された衛生施設（トイレ）を利用する人々が X%から Y%に増加する。

1. 改善された水源を利用できる人口が対象県の村落部で増加するかどうかについては、肯定的に判断できるいくつかの例が聞き取り調査の中で挙がってきた。例えば、リンディ州リンディ県での聞き取り<sup>11</sup>では、受益者（給水施設へのアクセスという観点で）が増加したことや、ダル・エス・サラーム州テメケ市給水衛生班からの聞き取り<sup>12</sup>でも給水率が増加しているとの情報が寄せられた。これらの数値は、厳密には定義も含めた裏付け確認が必要であるにせよ、おおよその傾向を判断するには有用な情報として、現時点での一つの判断材料となりうる。

2. 年間計 6 ヶ月以上稼働している給水ポイントの割合が、対象県において 73.5%（Dec07）から 100%に向上するという指標に関しては、次のような現状である。既存給水施設の現状を把握するために、各県ではデータ集計表を準備して、県内の村に配布している。村では、現地での給水施設状況を調査

<sup>10</sup> 但し、中には 3～5 年を待たずして、より早く上位目標を達成することが可能だとする見方をする関係者もいた。

<sup>11</sup> 2010 年 2 月 26 日実施

<sup>12</sup> 2010 年 2 月 24 日実施

してデータ表に記入し、県に回答している。キバハ県の聞取り<sup>13</sup>では、村からの回答は不定期であるが、県の報告書は四半期ごとにまとめられている。そのデータ表には、給水施設が(1)稼働中、(2)部分的に稼働中、(3)故障中、(4)修理中、(5)年という項目がある。このデータ表からは、各状況の期間が把握できないため、今般の調査による数値は得られていない。将来、村からの回答を毎月求める、あるいはデータ表に給水施設の各状況にあった期間を記入する欄を追加することが求められる。

3. 対象県における法的に登録された水利用者組織（WUE）の数であるが、確実に増加しつつあることを証明する動きが確認されている。例えば、コースト州キバハ県給水衛生班の聞取り<sup>14</sup>では、水利用者組合の設置の動きに関して、キバハ県内で村給水衛生委員会から一定の手続き（村議会の承認や組合規約策定など）を経て正式な水利用者組合がつけられようとしてつつあることが報告された。また、ダル・エス・サラーム州テメケ市での聞取り調査<sup>15</sup>によって得られた情報によると、「登録する水利用者組合の数が増加してきている。175郡（英語ではSub ward、スワヒリ語でMITAA）の内、現在、登録している水利用者組合のある郡数は17、登録プロセスにある水利用者組合の存在する郡数は23である。国の政策でもあり、本プロジェクトでの研修によりさらに業務へのエンジンがかかり、このプロセスを推進している」。県給水衛生班は、自分たちの働き・機能が存在していることで、このプロセスが促進されてきていると自負している。

4. 対象県における「改善された衛生施設（トイレ）」を利用する人々の増加に関して、ベースライン数値及び目標値を、終了時評価調査時に決定することは困難であることが明らかになった。水灌漑省、保健省、教育省、さらには統計局など関係機関による「改善された衛生施設」の定義も統一されていない現状で、まずはその理解を明確にしてから決定していくというプロセスが今後期待されている。参考情報として、今回聞取りを行ったコースト州キバハ県の県給水衛生班からは、3年前に58%であったキバハ県の衛生施設へのアクセス率は、現在61%になっており、独自に立てている県としての2012年までの目標値である約80%に向け上昇している状況にあるとの情報を得ている。当該DWSTは水セクターだけでなく、教育セクターなどとの連携が大きく功を奏している県であり、本プロジェクトの研修の結果、チームワークが高まったことが認識されている。

#### スーパーゴール達成の指標

- |   |
|---|
| 2025年までに、<br>1. 改善された水源を利用できる人口がタンザニア本土の村落部で53%（2003）から90%に増加する。<br>2. タンザニア本土村落部において、年間計6ヶ月以上稼働している給水ポイントの割合が82%（Dec07）から100%に向上する。<br>3. 改善された衛生施設（トイレ）を利用する人々が55%（Dec. 07）からY%に増加する。 |
|---|

中間レビュー時には、スーパーゴール達成の見込みを検討するのは時期尚早であるという状況であったが、終了時評価時点においても同様のことが言える。但し、上述のとおり、上位目標達成の方向で進んでいることを示唆するいくつかの状況が確認されたことに加え、本プロジェクトの成果を国全体へ広げていこうとする仕組み作りが起りつつあることから、2025年に向けて、スーパーゴール達成の方向でものごとが進捗していると判断できる。

<sup>13</sup> 2010年2月19日実施

<sup>14</sup> 2010年2月19日実施

<sup>15</sup> 2010年2月24日実施

### 3-6 実施プロセス

評価グリッドに従って実施プロセスが確認されたが、特に以下の点について言及する。

#### ■ 水灌漑省政策アドバイザー配置とプロジェクトの協働

カウンターパート機関への政策アドバイザー的機能とプロジェクト活動の協働が強く存在した。本プロジェクトでは、プロジェクト活動の中に、カウンターパート機関への政策アドバイザー的活動が付加されることになった。具体的には、過去に別途配置されていた水灌漑省への JICA 個別専門家（政策アドバイザー）の後任を配置しない代わりに、一部の役割を、本プロジェクトの専門家に振り分けて、個別プロジェクト業務に上乘せする形の契約変更が行われ、第二年次より政策アドバイザー機能をプロジェクトに付加することとなった。そのような背景もあいまって、プロジェクト・チームは、セクターにおけるドナー会合への参加を通じて、同セクターを支援するドナー間での情報共有・意見交換や本プロジェクト成果の紹介を積極的に行っている。また、本プロジェクト JICA 専門家チーム側の総括が、過去に水灌漑省のアドバイザー（JICA 専門家）として業務実績があり、同国同分野における知見および人的ネットワーク・信頼関係が存在した。結果として、統合された役割と上述の背景からより機能的、効率的なプロジェクトの進展を促進することとなった。但し、一方で 4 州を超えた観点から動くことが求められる政策アドバイザーの業務が、4 州を対象として実施するプロジェクト本来の業務への相当な負荷となった。

#### ■ カウンターパートの異動（人材の戦略的育成・配置と活用の不十分）

本プロジェクトでカウンターパートとして位置づけられるのは、中央省庁レベルでの水灌漑省の職員である。コミュニティ給水局において、カウンターパートの活動費は 2 年次途中から投入されるようになり、カウンターパートの参加の度合いも深くなってきていると JICA 専門家は感じている。一方で、カウンターパートの内 5 名が本邦研修に参加したものの、研修参加後、2 名が他の部局へ異動となった。本プロジェクト活動への直接的なかわりを持たない部署へ異動後のカウンターパートが必ずしも本プロジェクト活動に十分に参加できていない現状を鑑みると、投入効果の戦略的展開という観点から、改善の余地がある。

#### ■ 国全体のプログラム（RWSSP）実施の遅れ

RWSSP 実施の手続きにかかる長いプロセス、その結果として要する長い時間から、例えば雇用するコンサルタントの調達に長時間を要しているなどの現状があり、国全体でプログラムが当初予定より 1 年から 1 年半程度遅れている。このことから、本プロジェクトでは、RWSSP の実践の場を借りた能力強化活動やその結果あらわれる変化を測ることで効果指標の獲得を想定しているにもかかわらず、実際にはこの点につき大きな制約が生じた。



## 第4章 評価5項目による評価結果

タンザニア側および日本側から構成される合同評価団により、本終了時評価の全調査活動をとおし得られた情報から、プロジェクトの妥当性、有効性、効率性、インパクト、自立発展性について検討した結果明らかになったことは、以下のとおりである。

### 4-1 妥当性

妥当性とは、プロジェクト目標及び上位目標が終了時評価時点においても目標として意義を有するか否かをみる評価項目である。プロジェクトの妥当性は以下の理由から、高いと判断される。

第一に、「タ」国の国家政策との合致が挙げられる。「タ」国において、給水整備は、第2次貧困削減戦略（2005～2010年）やミレニアム開発目標（MDGs）における貧困対策の直接的戦略とされる。給水関連の国家政策は、第2次国家水政策（NAWAPO2002）であり、当該政策の下で、タンザニア政府は全国の安全な水へのアクセス（400メートル以内）が100%に達することを目標として掲げ、給水サービスの実施制度の強化に取り組んでいる。これを実現するために、2007年2月には水セクター開発プログラム（WSDP）が政府により立ちあがっている。このプログラムはセクターワイドアプローチのコンセプトをベースにしており、都市・地方給水施設の整備、9つの全ての流域事務所の強化に水資源管理の改善、水セクターの制度と能力の強化に取り組むとしている。WSDPの下、政府は給水の運営管理サービスの責任を県レベルで強化していくことを開始したことから、キャパシティ・ディベロップメントと研修はこのアプローチの重要な一部となっている。

第二に、日本のODA政策と合致している。インフラ整備は、外務省対「タ」国別援助計画（2008年6月）で重点分野の一つとして掲げられており、特に、地方給水・水管理に関して、「WSDPに沿って、地方政府の給水計画策定支援を行うと共に、水資源開発の難しい地域、安全な水へのアクセスが不十分な地域において、同給水計画に基づいた給水関連インフラの整備を進める、また、地方人材の育成を通じた給水計画の策定・実施管理能力の強化を図る」と示されている。

さらに、ターゲットグループのニーズとも整合している。ターゲットグループは、第一義的には直接的にプロジェクトの便益を受ける者としての水灌漑省コミュニティ給水局、水資源局、流域管理事務所、州行政事務所、4州22県において村落給水事業に携わる職員であるが、上述のとおり、WSDPでは、地方給水事業の主要実施者である地方自治体職員の能力強化を重要課題としてとらえていることからニーズが存在している。組織強化・能力強化というソフト面を強化するアプローチの適切性の観点からも妥当性が裏付けられる。個人の能力だけでなく、組織強化も必要であり、本プロジェクトRUWASA-CADでは各機関の「連携」という制度面の強化も図っている。

また、間接裨益者として、4州の都市隣接部もしくは村落部に居住し、給水サービスを受ける約297万人のニーズも、これまでに確認されたとおりの状況に変化はなく、ニーズの存在が引き続き確認されている。

最後に、日本のこれまでの「タ」国における援助経験<sup>16</sup>や効果が活かされ日本による援助の比較優位性が存在している。

## 4-2 有効性

プロジェクト目標の達成によりターゲットグループにどれだけの利益がもたらされたか、また、その達成がアウトプットの結果として成し遂げられたものか否かを確認することがプロジェクトの有効性をみることであるが、第一義的には、プロジェクト目標がどの程度達成されたのか、また、アウトプットがプロジェクト目標の達成に貢献したか否かをみることで有効性を確認することに他ならない。本プロジェクトの有効性は以下の理由から高いと言える。

### 1) プロジェクト目標の達成度

終了時評価時点において、プロジェクト目標は概ね達成されており、プロジェクトの残された期間に予定されている活動進捗に向けた努力が継続されるならば、終了時点までには完全に達成されると見込まれる。

### 2) アウトプットのプロジェクト目標達成への貢献度

すべてのアウトプットはプロジェクト目標達成に寄与したが、特に、アウトプット2（研修システムモデル構築）やアウトプット5（地方給水・衛生サブプログラムの実施への適用）など、県レベルへ直接的影響を及ぼすアウトプットの貢献度が高い。また、県を支援する中央の水灌漑省本省を始め州や流域事務所の能力強化を図るアウトプット（アウトプット1、3、4）も、アウトプット2や5のような県を中心として関連機関を協働させる作用のあるアウトプットの活動に呼応して効果が発現促進されたと思われる。

### 3) 促進要因・阻害要因

プロジェクト目標達成の促進要因としては；

#### ■ 地方自治体レベルにおけるニーズの高さ

県に直接的に影響を及ぼすアウトプットの貢献度が高いということは、実際に村落給水の現場にかかわる県という地方自治体レベルでの能力強化の必要性が高かったことを裏付けている。自らの日常業務で差し迫った必要性が実際に存在していることを背景に、研修を受ける側の意欲が高いと同時に、現状を改善する余地が大きく実践的な研修によりこのニーズが満たされるという結果につながった。県給水衛生班の聞取りからは、コミュニティとのかかわり方、参加の促進方法などをこれまでの業務姿勢と代わって学びとっている様子が伺われている。また、州レベルでは、県に対してどのような姿勢で臨めば良いのか悩んでいた州水アドバイザーが自らの役割を明確に理解し自信をもって遂行できるようになるなどの変化<sup>17</sup>が起こっている。

<sup>16</sup> これまでの関連援助として、次のものが挙げられる。開発調査：南部地域水供給計画調査（2000. 2～01. 12）、首都圏周辺地域水供給計画調査（2004. 8～06. 1）、無償：リンディ州・ムトワラ州水供給計画（2003-05）、首都圏周辺地域給水計画（2007-2010）

<sup>17</sup> 2010年2月25日に実施されたムトワラ州給水衛生チームへの聞取りからは、以下のような報告を得ている：県との関係：本プロジェクトの前は、「州」の役割が良くわからなかった。しかし、本プロジェクトにより、州給水衛生チームができ、水アドバイザーならアドバイザーという名称と共に役割が与えられ、県とのどのようにつながっていけば良いのか、どのような機能を期待されているのかが明確になり動きやすくなった。

プロジェクトの目標達成の阻害要因としては；

本プロジェクトでは、プロジェクトの目標達成を妨げるような大きな阻害要因は見出されない。但し、以下について何らかのリスク回避があれば、より効果的であったと考えられる。

■ 国全体のプログラム（RWSSP）実施の遅れ

プロジェクト目標達成の外部条件として計画どおり進捗するはずであった「タ」国村落給水プログラム、すなわち、RWSSP の進行が遅れていることが挙げられる。本プロジェクトの研修で習得したことを実践する場として、RWSSP の流れが実践の場を提供することを想定していたが、現実には予定よりも大幅に遅れる事態となっている。もちろん、RWSSP により動くものだけでなく、バスケットファンドが実施される前から行われている世銀のクイックイン（小規模なインフラ整備）、NGO やバイのドナーによる村落給水プロジェクトなどの実際の現場で、研修の場で学んだことを活かして行く機会は少ないながらも存在<sup>18</sup>している。従って、RWSSP が一サイクルで 10 村ずつを対象にしていくが、それらが進行すれば、より多くの実践の場が踏めるということであり、プロジェクトのロジックとしては当該外部条件をもってしても成り立つものの、アウトプットからプロジェクト目標達成に到るまでに「RWSSP が計画どおり進行する」ならば、その達成速度はより促進されたであろう。

#### 4-3 効率性

効率性とは、プロジェクト実施過程における生産性のことであり、投入が成果<sup>19</sup>にどれだけ効率的に転換されたかを検討する。本調査にあたり、各アウトプットの達成度及びそれらに対する投入の手段、方法、時間/期間、費用の適切度、また、その投入に対して現れ始めている成果を検討した結果、プロジェクトの効率性は高いと判断される。詳細は以下に示すとおりである。

これまでの日本の援助の効果、資源（施設や知見のある人材登用）を活用していることは効率性を高めていると言える。以下の協力により建設された給水施設を活用して本プロジェクトの実地研修を行うなど、タンザニア水分野における知見のある専門家が投入されることによるプロジェクト実施の円滑化の効果が得られた。

過去の協力実績、経験の有効活用。関連のある援助は以下のとおり；

開発調査：南部地域水供給計画調査（2000. 2～2001. 12）  
首都圏周辺地域水供給計画調査（2004. 8～2006. 1）  
無償：リンディ州・ムトワラ州水供給計画（2003-2005）  
首都圏周辺地域給水計画（2007-2010）

##### 1) 投入の適切度

日本およびタンザニア両国による投入は、目標達成に向け期待されるアウトプットを産出するために概ね必要かつ十分なものであった。効率性が高いプロジェクトであったといえる。以下に根拠を示す。

<sup>18</sup> 身近な例でいえば、JICA の無償により首都圏周辺地域給水計画が実施されている。

<sup>19</sup> 正確には、Output と Outcome を成果とするが、Outcome の発現には時間を要することから、現実には、アウトプットを中心として見るることとなる。

[日本側]

- 延べ数では、専門家4名、また、本邦研修5名規模の投入で、地方部を含めた全国への影響可能性も出すなど大きな波及効果を産み出しつつある。
- 資機材の投入は最小限に抑えられている。

[タンザニア側]

- 実施機関については、能力強化された人材が必ずしも戦略的に任命されたとはいえない。本邦研修には5名が参加したが、その内の2名は人事異動により、本プロジェクト活動とは直接的関連のない部署への異動となった。

## 2) アウトプットの達成状況

プロジェクトは当初期待したアウトプットを概ね達成した。（「3-3 アウトプットの達成状況」参照）

## 4-4 インパクト

インパクトとは、プロジェクトが実施されたことにより生じる直接的、間接的な正負の効果のことである。本調査では、計画時に意図された効果及び予想されなかった効果を検討した結果、いくつかのプラスの効果が得られ、また発展しつつあることが確認された。

上位目標は、意図された正のインパクトの一つであるが、「対象県の村落給水・衛生サービスが向上する」と示されている。「3-5 上位目標の達成の見込み」において述べたとおり、上位目標達成に向けてプロジェクトは進捗しており、3～5年以上かかる可能性も見込まれるものの、今後の進展に期待が持てる。すなわち、県レベルでは県給水衛生班側の変化（意識や業務行動）が表れてきており、研修に参加した県給水衛生班メンバーが、自身の県内での活動において、本プロジェクトで取り扱った研修を他の職員にも実施する等、技術的な自立発展性を確保するメカニズムは生まれつつあることから、プロジェクト終了後も引き続き対象県内での能力強化が深化していくと見込める。また、横への広がりとしてスーパーゴールの段階で全国的展開を目指していることに関して、全国に波及する制度の改革が本プロジェクトの反映をもって進めるに到っているという影響力の点から、大きくなることが予測される。アウトプット5達成状況に述べたとおり、本プロジェクトの成果である提案された地方給水・衛生事業のプロジェクトサイクル（RWSSP）とプロセスを見直した改定案については、WSDPのPCT（プログラム調整チーム）及びコミュニティ給水局に対して提案を行い、PCTは、RUWASA-CADによる提案内容はWSDPの方針と整合しているため、今後のWSDP-PIM（Project Implementation Manual）の改定（2012年を予定）に利用していく方針を決めている。プロジェクトの内容を知るにいたった他州・他県からは、問い合わせもきており、さらには、当初意図しなかったインパクトとして、コミュニティ給水局が本プロジェクトと同様の研修を他州でも実施するための研修計画の策定に取り組んでいる<sup>20</sup>ことから、これが実行に移されれば波及効果は大きく、高いインパクトを生み出すこととなる。

今後、本プロジェクトに参画し、組織としての能力を強化している水灌漑省のキャパシティ・ディ

<sup>20</sup> 中間評価時に明らかになった点であるが、これについては継続している。

ベロップメントへの今後のコミットメントがインパクトの拡大を左右する鍵となる。残された具体的な課題としては、水灌漑省のホームページでの本プロジェクト紹介や年に1~2回開催される全国給水エンジニア会議の場で大枠の紹介など、概要を紹介するにとどまっている広報を、個別コンサルテーションの提供など実際の進展を促進するための広報へと進展させることである。現在 WSDP を実施する各主体が能力強化計画を策定中であるが、そのプロセスの中で、各主体が本プロジェクトの成果としての研修を活用できることを水灌漑省コミュニティ給水局が相談にのりアドバイスをして実際に研修が行われるようにコンサルティング支援することができる。

なお、意図しなかった正のインパクトとして以下が指摘できる。

- 1) 採用するまでは現時点では至っていないものの、プロジェクトの内容を知るにいたった他州・他県からは、問い合わせがきている<sup>21</sup>。
- 2) 水灌漑省コミュニティ給水局が本プロジェクトと同様の研修を他州でも実施するための研修計画の策定に取り組んでいる。
- 3) 水・灌漑省 ICT/MIS セクション長から、流域管理事務所の研修で取り組んでいる水資源情報の入手と提供の改善について情報を共有していきたいとの話があった。

負のインパクトは、特に観察されなかった。

#### 4-5 自立発展性

自立発展性とは、我が国の協力が終了した後も、プロジェクト実施による便益が持続されるかどうかを、検討する評価項目である。具体的には、水灌漑省といったカウンターパート機関がどの程度、プロジェクト実施時に受けている効果を終了後に維持できるかを問うものである。

本項では、以下に詳細を示すとおり、組織的、財政的及び技術的な観点から自立発展性を検討したが、総合的には一定の条件を満たすならば自立発展性は確保できると判断できる。

##### 1) 組織的自立発展性

妥当性の項目でも既に述べたとおり、村落給水は、国としても力を入れている分野であり、この政府の方針に変化はない。そのため地方自治体を中心とした人材の育成、能力強化には引き続き政策的なサポートが得られる。また、能力強化訓練課を含むコミュニティ給水局は最近(2009年秋)に改善に向けた組織改編を実施しており組織安定度<sup>22</sup>は高い。この政府の政策を受け、水灌漑省という組織としても今般のプロジェクトにて開発・改善された研修システムモデルが活用促進され、継続的な能力強化のエンジンとしていく意思がある<sup>23</sup>ことに加えて、水灌漑省コミュ

<sup>21</sup> 全国の県を対象とした会議におけるプロジェクトの成果の紹介や JWSR における成果の記述等を通して本プロジェクトの戦略については知られてきているが、正確な着目度については現在、プロジェクト側で全県を対象として質問票を集計中。

<sup>22</sup> 但し、キャンペーン・ディベロップメントにさらなる重要度を置くことで、2010年3月時点で4名の人員が配置されている能力強化訓練課が発展する形になる可能性を否定するものではない。

<sup>23</sup> 第4回 JCC の場で、国全体の水プログラムに重責を担う水灌漑省幹部から、本プロジェクトで開発した研修システムを、ドナーコミュニティを含む会議の場で積極的に周知することが表明された。また、国全体プログラムに反映させるための具体的アクションとなる PIM への反映などの行動も、2012年に予定される次期改定時点まで待たず、早まる可能性が示唆された。

ニティ給水局の変化、すなわち、本プロジェクト開始以前と比較し組織として改善し力量を増しつつあることは、県や州の給水衛生班の能力強化活動の促進状況などから裏付けられている。今後さらなる強化が望まれるものの、この観点からも組織的な自立発展性は確保されている。

## 2) 財政的自立発展性

一定の条件が満たされれば財政的な自立発展性が確保できる。一定の条件とは、具体的には WSDP 予算が活用されることである。現在、各地方自治体が、WSDP のもと、RWSSP を実施するための研修計画を策定している最中である。それぞれの現状と必要に応じて各自治体によって様々な内容が策定されることになるが、本プロジェクトの研修パッケージを採用し研修に含めていく自治体も現れることになる。その場合、本プロジェクトで得られた成果である研修システムモデルを活用し、研修パッケージを継続的に実施する予算が WSDP 予算の中から配置されるという構図になっていく。但し、WSDP に絡んだ不正事件も実際には起こっており、一部ドナーの不满<sup>24</sup>が存在する<sup>25</sup>一方、WSDP 予算の 70%以上がドナー支援であることを考慮すると、不安定要素が全く存在しないとは断言できないが、ある程度の財政的自立発展性は見込めると予測される。さらに、水灌漑省が持つ予算以外にも、地方自治体職員が能力強化に使用することができる予算<sup>26</sup>が地方自治体<sup>27</sup>の管轄下にある。このような予算の活用も研修制度を継続させることに役立つと考えられ、財政的観点からの自立発展性を確保することにつながる。

## 3) 技術的自立発展性

以下に示すように技術の受け入れ度が高く、本プロジェクトで研修を受けた人材の定着度が地方自治体である県レベルで高いことや研修受講者がカスケード方式で研修効果を波及させているという状況から判断すると技術的な自立発展性は一定程度すでに確保されている。これが継続し拡大されるように、国全体の制度が後押しすることでさらに技術的な観点からの自立発展性が高まる。

研修受講者の研修への満足度は高く、知識やスキルを習得している。移転技術の適正度は高い。本プロジェクトでは、マネジメントなど、いわゆる「ソフト」な技術を含む技術の移転が行われているが、これらを研修という方法を通じて伝えた内容が現実の業務に活かされているか否かを見ること、換言すると、これら技術の受け入れ度合いがどの程度であるかどうかを確認することで、移転技術の適正度を判断することが可能である。研修受講者が技術を受け入れている証拠として、習得したことを基にした個人レベル、組織レベルでの行動変容が表れてきており、例えば、以下のような個人レベルおよび組織レベルの行動変容が起こってきている。

### 個人レベルでの行動変容

- プロジェクトマネジメント：研修で習ったモニタリングのためのチェックリストを実際の業務で活用した、新規プロジェクト促進に際して PCM 手法の採用、
- 衛生啓発：コミュニティレベルでの水衛生委員会の形成や学校保健活動への積極的参加、

<sup>24</sup> 説明責任を履行しないことに対する水灌漑省への不満

<sup>25</sup> 普段からのドナーコミュニティとの連携のある JICA 日本人専門家のアンケート回答から得られた情報である。

<sup>26</sup> 地方自治体一般開発交付金 (Local Government Development Grant) と呼ばれるものの中に、キャパシティ・ビルディング・グラントがある。

<sup>27</sup> 首相府管轄下

- チームワーク：県給水衛生班がチームワークを重視して活動するようになった、
- 他アクターとの協働：多様な分野で働く普及員がチームとして働く方向性で進んでいる。

#### 組織レベルの行動変容

- モニタリング対象全 LGA において需要対応型アプローチ（DRA）を県給水衛生班は推進してきている、
- 技術系及びファシリテーション系コンサルタントからの報告書への確認・コメント対応に全県給水衛生班メンバーが参画している、
- モニタリングが向上している（例：マサシ県では四半期ごとに情報更新される）、
- 水と保健が統合されたアプローチに近付いている（例：キバハ県では、県内半数の学校に学校保健クラブを設置し、水と保健衛生、衛生施設設置についての指導や教育をすでに開始している）。

県や州のレベルで研修を受けた人材<sup>28</sup>は 301 人でそのうち異動したのは 21 人である。その 21 人中 16 人が対象県外への異動であるが異動先県において県給水衛生班もしくは州給水衛生班のメンバーとなっており、まったく関係しない異動（死亡、留学、民間や他省庁への異動）は 5 人に留まっている。定着度は高いと言える。研修に参加した県給水衛生班メンバーが、自身の県内での活動において、本プロジェクトで取り扱った研修を他の職員にも実施する動きが見られる。このように、技術的な自立発展性を確保するメカニズムは生まれつつある。但し、県・州を支えていく中央の水灌漑省コミュニティ給水局のカウンターパートに関して、本邦研修を含む本プロジェクトを通じて技術を蓄積してきている者 2 名が異動していることから、効果的ひきつぎや当該個人に蓄積された知見の組織的活用などが確保されることで技術的な自立発展性が高まる。このことは、人事をつかさどる水灌漑省のマネジメントがいかに戦略的人材育成を重視するかという意思にもかかわる。

---

<sup>28</sup> 本プロジェクトで「カウンターパート」と位置付けられているのは、中央省庁レベル（水灌漑省）のみである。中央出先機関である州や地方自治体である県の関係者は、業務の主体者であるが、本プロジェクトでは、プロジェクトで供与する研修を受け能力強化をされる「受益者」という位置づけになっている。



## 第5章 技術担当団員所見

本プロジェクトにおいて、技術的考察の対象として、本項では、研修教材、研修講師（リソース）、研修モジュール内容、BWO への技術移転及び既存給水施設と衛生状況について考察する。

### 5-1 研修教材

本プロジェクトの研修は、現地コンサルタント（以下、研修コンサルタント）への再委託により実施された。プロジェクト・チームは、現在のプロジェクト実施マニュアル（Project Implementation Manual: PIM）を改良して研修モジュールとカリキュラムを作成した。研修に使用された研修教材の内容については、日本人専門家とカウンターパートにより、研修コンサルタントの教材原稿を推敲し、品質が管理されて、質の高い研修教材になっていると判断される。これは、研修コンサルタントからの聞き取り調査でも裏付けられるものである。本プロジェクトで作成された研修教材のうち、今回の調査で確認したものについて、研修対象者と項目を表 5-1にまとめた。

表 5-1において、村落給水衛生プロジェクトの DRA (No. A) と州の給水衛生計画 (No. B) のモジュールでは、教材に図・表・写真が多用されていて、比較的わかりやすい教材となっている。一方、RWST 及び DWST のためのプロジェクト監理 (No. D) および第 4 研修フェーズで使用された教材 (No. F, G, H) については、図表が少なく、ほとんどが文書のみとあってよい。図・表・写真を使用しない教材の場合、講師の説明や研修進行によって、受講者の理解度や理解速度にバラツキが出るのが予想される。結果として、研修実施過程における研修の品質に差が出ることも懸念される。従って、本プロジェクトの終了後、この研修モデルで新たな展開をする際、教材の表示方法、プレゼンテーション形式に視覚的補助、すなわち図表や写真の多用による、受講者への理解促進になる要素が求められると考えられる。

表 5-1 研修教材の図表

No	研修フェーズ	対象	項目	図・表
A	第 2 コンポーネント 1:村落給水衛生 プロジェクトに おける DRA	DWST	1.0 村落給水・衛生分野：水政策 2.0 DRA に基づいた県給水・衛生計画枠組み 3.0 DWST の役割と責任、周囲との関係 4.0 (村からの) 要望取り付け促進 5.0 コミュニティからの給水衛生計画申請と DWST による検証 6.0 給水衛生計画対象村の選択 7.0 プログラム規模の決定 8.0 コミュニティからの要請書査定	図・表・写真 が適度に利 用されてい る
B	第 2 コンポーネント 1:州給水衛生計 画策定	RWST	1.0 村落給水・衛生分野：水政策 2.0 RWST の役割と責任、周囲との関係 3.0 州給水衛生計画のための枠組み設定 4.0 入手可能情報の判定 5.0 要望促進における RWST の支援サービス 6.0 計画段階における RWST の支援サービス 7.0 コミュニケーションと報告 8.0 コーチング（指導方法）の基礎	図・表・写真 が適度に利 用されてい る
C	第 2 コンポーネント 2:給水計画	DWST	1.0 村落給水プロジェクトの予備及び詳細設計 2.0 水資源潜在性の判定 3.0 社会・経済状況の考察	少ない (給水施設 選択には

No	研修フェーズ	対象	項目	図・表
			4.0 給水計画 5.0 給水施設計画と設計 6.0 運営と維持管理計画 7.0 影響評価 8.0 コミュニティ・サブプロジェクトの査定	図・写真あり)
D	第3 コンポーネント 1 : DWST 及び RWST のための プロジェクト監 理	RWST 及び DWST	1.0 プロジェクト・サイクル・マネジメントの 紹介 2.0 関係者分析 3.0 問題・目的分析 4.0 ログフレーム作成 5.0 期待される成果に関連した活動 6.0 外部条件とリスク管理 7.0 モニタリングと評価 8.0 評価項目 9.0 調達と契約監理	少ない
E	第3 コンポーネント 2 : RWST 及び DWST に対する 衛生啓発	RWST 及び DWST	1.0 衛生啓発における国家戦略 2.0 PHAST 手法紹介 3.0 CLTS アプローチの紹介 4.0 ソーシャル・マーケティング 5.0 学校衛生と衛生教育 6.0 衛生改善のための技術的選択肢 7.0 村落給水・衛生における HIV/AIDS	多少使用さ れているも の、少ない
F	第4	RWST	1.0 RWST による建設品質管理監督 2.0 四半期及び年次報告書の評価 3.0 衛生の概要 4.0 プロジェクトに及ぼす正負要因	ほとんど文 章のみ
G	第4 コンポーネント 1 :	DWST	1.0 県庁のエクステンション・ワーカーと給水 衛生計画における CBO/NGO 2.0 給水衛生計画ファシリテーターのための技 能とテクニック 3.0 コミュニティ・マネジメント、運営維持管 理モデル及び登録手続き 4.0 給水衛生計画におけるジェンダー 5.0 給水衛生状況と運営維持管理における参加 型モニタリングと評価 6.0 給水衛生計画のためのガイドラインとマニ ュアル	ほとんど文 章のみ
H	第4 コンポーネント 2 :	DWST	1.0 コンサルタントと契約者による業務の技術 監理 2.0 作業の品質管理 3.0 運営維持管理マネジメント対策留意点 4.0 契約監理 5.0 民間セクターとの関係構築 6.0 コンサルタントにおけるデータベース監理	ほとんど文 章のみ
I	第5	DWST	1.0 持続性における運営維持管理必須事項 2.0 施設建設後の支援 3.0 運営維持管理状況のモニタリングと評価 4.0 コミュニティ・サブプロジェクトの評価と フォローアップ計画の準備 5.0 民間セクターとの関係構築 6.0 コンサルタントにおけるデータベース監理	多少、使用さ れているも の少ない

(出典：RUWASA-CAD 研修教材)

## 5-2 研修講師（リソース）

本プロジェクトでは、村落給水事業に係る訓練・研修を提供することが出来る組織を研修リソースとして位置づけ、プロジェクト当初から、カウンターパートによるタンザニアにおけるリソース調査を実施してきた。2009年2月までに、大学、公的機関、民間企業及びNGOなど、訓練や研修が提供できる合計15団体のインタビュー結果を得た。その結果を、表5-2に示す。

研修を運営した研修コンサルタントの選定作業は、プロジェクト・チーム、すなわちカウンターパートと日本人専門家の合同選考を実施した。

日本人専門家ならびに研修コンサルタントからの聞き取り調査によると、インタビューした15団体の他にも、研修リソースがタンザニアに存在することがわかった。そのリソースの形態は個人コンサルタントが多く、分野は住民啓発である。給水施設の建設や運営維持管理に関わる内容に経験や知見を持つ研修リソースは、多くはない。

将来、本プロジェクト対象州以外での研修を実施する際、同時期に複数の場所で研修をすることも予測される。給水・衛生技術的内容の研修が出来る研修コンサルタントは限られているので、リソースについては絶対数が不足する事態も考えられる。具体的には、本プロジェクトの研修モジュール表（Module Coverage on Activities of the Revised RWSS Project Cycle、DWST）で「潜在的な水資源評価（1-1、1-5）」、「（給水施設の）予備建設査定（2-3）」、「（給水施設の）詳細設計査定（2-8）」、「TSP/FSPによる詳細設計スタディ対策（2-5）」等は、技術的研修であるため、研修講師は限定されるものと考えられる。講師を育成する、または近隣の県での協働研修運営をするなど、運営の工夫が求められる。

表 5-2 研修リソース調査結果

No	団体名	総人数	社会	技術	備考
1	WaterAid Tanzania	268	16	7	
2	Drilling and Dam Construction Agency (DDCA)	268	—	—	井戸掘削業者
3	Rwegarullia Water Resources Institute (RWRI)	50	—	—	
4	ARDHI University	135 (academic)	—	—	水質検査、測量、GIS技術
5	Dar es Salaam Institute of Technology	—	—	—	GIS技術
6	WEDECO Ltd.	5 + 22associates	15	12	水分野のリーダー
7	NETWAS Tanzania Ltd.	20 + 6	—	—	ケニアで研修事業
8	ACHRID Ltd.	—	—	—	Ruwasa-CAD ベースライン調査実績
9	WATSANET (NGO)	44	17	15	水資源情報
10	Multiwater Ltd.	7	1	6	水技術・設計
11	TAWASANET	25 NGO	42	20	NGO 集合体
12	TWESA	83	10	10	プロジェクト実績有
13	PEVODE	2 + 3	2	3	NGO
14	EEPCO	20 + more	10	8	
15	WEPMO	7	4	7	衛生事業

(出典：プロジェクト中間報告書、添付書類3、2009年3月)

### 5-3 研修モジュール内容

プロジェクト実施マニュアル（PIM）を基に、カウンターパートと日本人専門家が検討を重ねて、研修モジュールを作成した。給水・衛生サブプロジェクトの計画・実施・運営維持管理を進めるのに必要な内容を網羅されている。州や県自身のキャパシティ・ディベロップメント計画を作成するとき、水灌漑省の CBT 課による個別コンサルティングを受けながら、研修メニューを作成することが出来るように準備されている。州や県が求められる能力、及び出来るようになる作業に必要な研修モジュールは、表を見ながら選択できるようになっている。研修モジュール表には、給水・衛生サブプロジェクトの進捗段階として、（1）プロモーション、（2）計画、（3）実施・建設、（4）運営維持管理・フォローアップに分類されている。

作成された研修モジュールは、長所として、研修を受講する側にとって、きめ細かく分けられた表から必要なことを選択できることがあげられる。一方、短所として、実際に研修を実施するとき、選択したモジュールに対応した講師が必要になる。将来、複数の州・県で研修が集中することも予想されるため、研修を実施する上で、講師の育成や研修運営を効率化することが求められる。

### 5-4 BWO への技術移転

本プロジェクトで、既存のデータから水理地質に関するデータベース作成、予察図作成を研修として実施した。ベースライン調査により、対象 BWO においてデータベースを作成するための既存データが不足していることが判明した。プロジェクトでは、再委託先による既存井戸情報調査を実施した。基礎データの不足は対象の BWO だけに限らず、水理地質技師からの聞き取り調査によると、他の BWO でも同様のデータ不足があることがわかった。従って、対象州以外で同様のデータベース構築と水理地質予察図作成の研修を実施する際、基礎データの収集から手をつけなければならないのが現実である。即ち、研修前に準備の時間と経費が必要となる。

基礎データがあれば、本プロジェクトの研修による座学と演習を通して、水理地質技術者は予察図を作成することが可能であった。これは、受講者の能力向上が達成できたものと考えられる。

BWO がデータの更新をするためには、BWO が収集可能なデータの他に、既存または新設の井戸情報（座標、静水位、揚水量及び電気伝導度）が必要である。所轄の DWST と協働が必要である。BWO への聞き取り調査から、研修受講者が研修で得た知識と技能を、職場の同僚に広める活動をした。しかし、BWO に必要十分なコンピュータ、プリンタ（X-Y プロッタ）などの必要機材が不足しているため、研修会場で実習したことをそのまま BWO で再現することが不可能である。BWO が水理地質予察図のデータ更新をするためには、必要機材の整備と基礎データの更新を継続することが求められる。終了時評価調査時点で、ルブマ・サザンコースト BWO は更新を完了し、ワミ・ルブ BWO は更新作業中であった。プロジェクト・チームによると、プロジェクト終了までにワミ・ルブ BWO の更新作業は完了する見込みである。

### 5-5 既存給水施設と衛生状況情報

県では、既存給水施設と衛生に関する情報を収集すると共に、最新データを更新している（プロジェクト目標： 指標 3）。これらの作業は既存給水施設の現状把握を行う上で、非常に大切なことである。今回、聞き取り調査をしたキバハ県（コースト州）、テメケ市（ダルエスサラーム州）、ムトララ

県（ムトワラ州）、リンディ県（リンディ州）で、それぞれ情報収集と更新が行われていた。

情報収集は、県の水エンジニアが所轄の村行政官 Village Officer に調査票を配布し、村行政官が現場のデータを記入して県の水エンジニアに返送する。その頻度は一定ではないものの、県の水エンジニアが四半期報告書あるいは年次報告書を作成することで更新している（例外は、コースト州キサラウエ県が2年毎に更新している）。一方で、情報の項目が統一されておらず、水灌漑省から要求された調査項目をもとに、各県で独自の項目を選定して情報収集をしている。これらのデータは、BWOと共有して、水需要予測と給水施設計画に反映されることが求められる。

また、3-5項でも述べたように、稼動および故障の「期間」を記入する欄がなく、現在では、稼動期間または故障期間が把握できない。将来、既存給水施設の稼動期間が把握できるように、データ表の改良が求められる。

既存給水施設と衛生情報の例として、ムトワラ県の調査項目とデータの抜粋を表 5-3に示す。

表 5-3 ムトワラ県既存給水施設・衛生状況調査表

項目			1	2	3	4	合計	
基礎情報	Division	名前	MAYANGA					
		人口	—	—	—	—		
	Ward	名前	NAUMBU					
		人口	—	—	—	—		
	Village	名前	NAUMBU	IMRKUWA	MGAO	NAMGOG OLI		
人口		2,523	2,654	1,616	2,587	9,380		
給水施設	タイプ	施設名	NAUMBU	MBUO	MBUO	MBUO		
		給水人口	2,523	2,654	1,616	2,587	9,380	
	技術内容	改良伝統的井戸	総数	—	—	—	—	
			稼働中	—	—	—	—	
	ハンドポンプ	総数	0	0	0	0		
			稼働中	0	0	0	0	
	自然流下	総数	0	0	0	0		
			稼働中	0	0	0	0	
	ポンプ圧送	総数	1	0	0	0		
			稼働中	1	0	0	0	
給水率	共同水栓	総数	6	3	2	4		
		稼働中	6	3	2	4		
	給水人口		2,523	2,654	1,616	2,587		
	トータル・サービス	世帯数	—	—	—	—		
		人口	—	—	—	—		
運営資金	集金方法	容器従量制	✓	✓	✓	✓		
		定量制						
		メータ従量制						
	水料金合計 (Tsh)		300,000	40,000	0	249,010		
組織形態	WATSON							
	村落水委員会 VWC		✓	✓	✓	✓		
	水利用者組合 WUA/WUE							
	住民所有給水組織 COWSO							

管理 体制	所有者	公共	✓	✓	✓	✓	
		民間					
	委員会メンバー	男性	—	—	—	—	
		女性	—	—	—	—	
		合計	—	—	—	—	
	性別	委員長	—	—	—	—	
		事務局長	—	—	—	—	
会計		—	—	—	—		
衛生	改良トイレ		—	—	—	—	
	臨時トイレ		—	—	—	—	
	水洗トイレ		—	—	—	—	

(出典：ムトワラ県調査票)

## 第6章 結論と総括

### 6-1 プロジェクトの達成度

終了時評価調査時において、Demand-Responsive Approach (DRA) を実践する DWST が対象 22 県中 9 県 (40%) であり、残りの DWST も、DRA の一部の要素を実践している。さらには、今後第 2 サイクルで DRA を採用する心づもりにしていること (指標 1)、RWSSP 実施において、「TSP (技術系コンサルタント) 及び FSP (ソフト系コンサルタント) から提出された進捗報告書、その他の成果品に対して、双方で合意された期間内に精査しコメントを返している DWST が 20 県 (90.9%) に上ること (指標 2)、県の給水・衛生状況及び既存給水施設の維持管理状況に係る情報を毎年更新している DWST が 21 県 (95.4%) に達していること (指標 3)、家庭及び学校を対象とする村落給水・衛生普及に係る戦略と活動計画が DWSP と年間計画に示されるように実践する DWST が 19 県 (86.3%) に達していること (指標 4)、加えて、個人レベル、組織レベルでキャパシティ・ディベロップメントが起こりつつあることが認められた。このような事実から、プロジェクト目標は、達成されつつあり、終了時まで完全に達成できる状況にあると判断できる。

### 6-2 5項目による評価

評価 5 項目の観点からは、妥当性は高く、相手国政策・戦略へのアラインは重要な一方、それらが外部条件に組み込まれている場合には目標への到達に影響が出る可能性があるという観点から今後の戦略 (プロジェクトのロジック) 設定に検討の余地が残されたものの、プロジェクト目標達成度の観点からは有効性も高い。このように成果発現の大きさと比較的制限された投入とを比較した観点からは効率性は高いと言える。インパクトに関しては、上位目標達成には 3~5 年以上かかる可能性も見込まれるものの着実にその方向性に向けた効果が出つつあることに加え、対象 4 州以外の地域からも問い合わせが開始していること、地方給水局が本プロジェクトと同様の研修を他州でも実施するための研修計画の策定に取り組む動きもあることから、これが実行に移されれば波及効果は大きく、高いインパクトを生み出す見込がある。自立発展性に関しては、一定の条件を満たすならば確保できると判断できる。なぜなら、まず、国として力を入れている村落給水分野にあって、地方給水局の組織としての安定度が高いこと、研修の継続とその拡大のために WSDP 予算が活用されるという条件が整えば財政的観点からの自立発展性が確保され、さらに、技術的自立発展性については、研修内容の受け入れ度合いが高く、人材の定着度が特に県レベルで高いことが確認されており、これを支える中央での技術移転を受けた人材の戦略的活用がなされれば技術的観点からの自立発展性も高まる。

### 6-3 総論

プロジェクト終了までにプロジェクト目標は達成されると見込まれ、妥当性、有効性、効率性も高く、インパクトの拡大も見込まれることからプロジェクトは適切に運営されたと判断できる。今後の自立発展性の面では、WSDP の予算を活用して研修を実施していくことが必要であるところ、残りのプロジェクト期間で予算の申請に関する情報提供や支援を実施していくことが望まれる。

## 6-4 団長所見

### (1) RUWASA-CAD 研修モデル<sup>29</sup>

いわゆる RUWASA-CAD 研修モデルを、現段階でナショナルモデルあるいは水灌漑省モデルと呼ぶことに、水灌漑省の合同評価チームは難色を示した。しかし、今後同研修モデルを自然・社会条件が異なる他の幾つかの州で、パイロット的に実施して、その有効性を検証し、モデルの改良を重ね、開発パートナーとなるドナー・グループの認知を受けた上で、全国展開へと向かう既定路線にある、という点について合同評価チーム、並びに C/P のヘッドであるマフル氏 (Mr.Amani Mafuru : アシスタントダイレクター、コミュニティ給水局 (Assistant Director, Community Water Supply Division)) と認識を共有することができた。

### (2) プロジェクト実施マニュアル (Project Implementation Manual : PIM) の改定

タンザニア連合共和国 (以下、「タ」国) での WSDP (Water Sector Development Program) の開始 (2007年2月) に際して、その PIM が策定されており、これは5年ごとに改定されることになっている。RUWASA-CAD 専門家チームによれば、上記研修モデルがナショナルモデルとして認識されるためには、それが2012年に PIM が改定されるときに、この研修モデルを PIM に盛り込む必要があるとのこと。PIM を改定する手続きは、特別規定されてはいない。しかし、次ページに示すように、WSDP 実施における関係者間の協調と対話の枠組みが定まっており、PIM の改定に関する事柄は、この枠組みの中で議論され決定されることとなろう。

専門家チームは、次回5月に予定されている制度開発・組織強化ワーキング・グループ (Institutional Development & Capacity Building Thematic Working Group) の会合で、上記研修モデルの研修モジュール・チャートの紹介を、「タ」国 C/P と共に行う予定になっている。今後この枠組みの中で、上記研修モデルは、JICA の専門家チームが開発したものではなく、水灌漑省、コミュニティ給水局の C/P と共同で開発したものであるということ、関係者に認知させる必要がある。

### (3) RUWASA-CAD 研修モデルの精緻化

RUWASA-CAD の研修モデルは、Demand Responsive Approach の観点から、研修を受講する各県や各州の WSDP に関係するスタッフが、自ら WSDP を実施する上での役割と実際の業務を確認する。その業務を実施するための能力を自ら計り、能力向上が必要と思われる分野の研修モジュールをモジュール・チャートから選び出して、自分たちの必要とする研修モジュールのパッケージを策定する。そして、それらの研修モジュールを自分たちの調達方式に従って、コンサルタントを選定して、必要な研修を現地で実施する、との手順である。

これはユニークな研修の実施方式であるが、これを全国的に展開することを想定すると、幾つかの点で解決すべき課題が残されている。各県のそれぞれのモジュールの受講者は、1,2人という場合もあろうし、多くて数人程度と予想される。それぞれのモジュール毎にコンサルタント契

<sup>29</sup> RUWASA-CAD 研修モデル…各県、各州で RWSSP(Rural Water Supply and Sanitation Program) に関わるスタッフ (District Water and Sanitation Team, DWST 等) の能力を自ら診断して、研修モジュール・チャートを使って、自分たちに必要となる研修のパッケージを自ら組み合わせ、それぞれのモジュール毎に研修を実施するコンサルタントと契約して、研修を実施するもの。

約を実施するとなると、全てのパッケージについてそれを行うのは大変煩雑な調達業務となろう。また、このような研修実施の発注が、全国 132 県でほぼ同時期に行われた場合、受注するコンサルタントが払底してしまうことも予想される。アフリカの一般例では、雨季には井戸掘削等給水施設の建設業務が停止するか少なくなるので、雨季の期間中に研修を受講する者が多くなる傾向が見られる。

今次調査の過程で本プロジェクト対象 4 州の研修受講者とのインタビューを通じ、2, 3 の研修を受講した結果、「ある能力が自分に備わった」、「こういうことが自分でできるようになった」等の回答を得た。しかし、2~3 日程度の研修モジュールを 3, 4 つ受講して、実際の開発業務ができるようになるかと言うと、そうではない。エチオピアの世銀プロジェクトの例では、現場の開発業務に携わる人たちは、この能力が足りないから、あの分野の知識が不足しているから実際の業務がこなせられないと、次から次と能力向上のためのあらゆる分野のワークショップ、セミナーを実施して、プログラム開始から 5 年を経過しても 1 つの給水施設も建設されていない州がある。特に、Demand Responsive Approach の面から、今後プロジェクトの対象を他の州に広げ、関係者が実際の開発業務に関わり出すと、エチオピアの例に見られるように、研修科目、分野、内容のレベル等について多種多様な要望が挙がってくるのが予想される。

今後プロジェクトは想定されるあらゆる事態に対処するため、研修モデルをより精緻化することが求められるであろう。

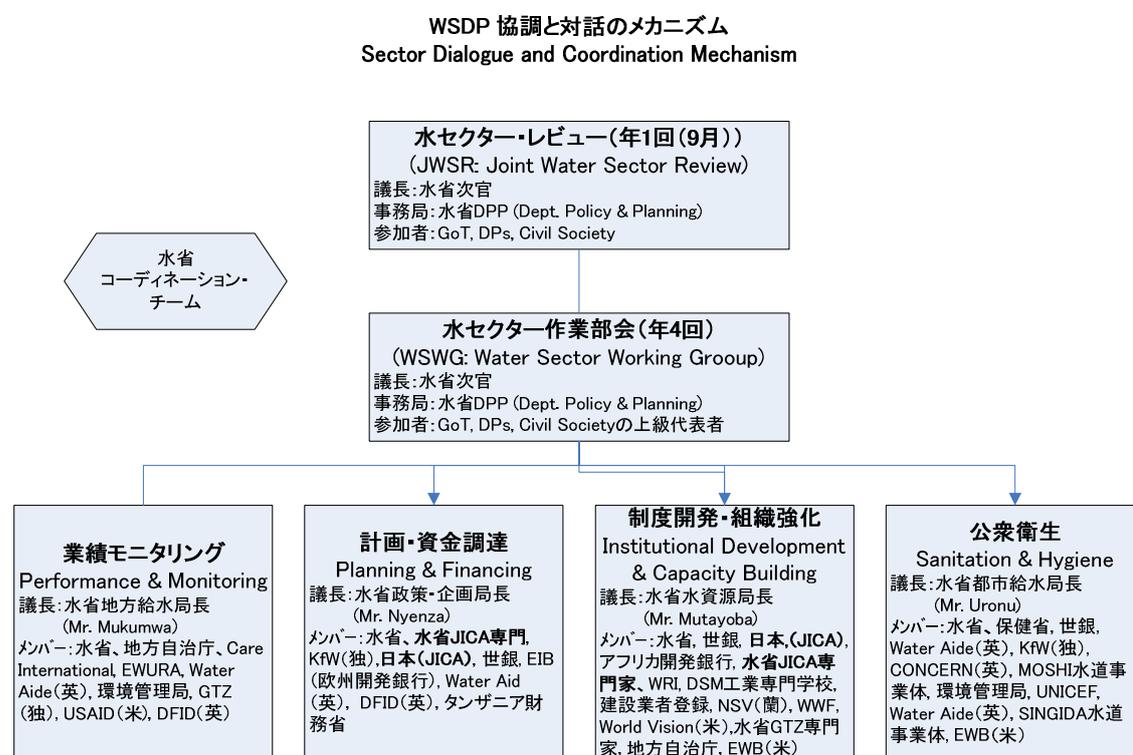


図 6-1 WSDP 協調と対話のメカニズム<sup>30</sup>

<sup>30</sup> WSDP 協調と対話のメカニズム…下段の 4 つの Thematic Working Group の会合は、年 6 回開催。制度開発・組織強化ワーキング・グループは、GTZ がリード・ドナーで、JICA がサブ・リード・ドナーを務めている。



## 第7章 提言と教訓

### 7-1 提言

プロジェクトの自立発展性を確保し、スーパーゴールを視野に入れた上位目標達成を確実にするために、終了時評価調査団は、関係者がプロジェクト終了までおよび引き続きプロジェクト終了後も以下の点を実行することを提言した。

#### 【今後プロジェクト終了までに行うこと】

- 1) 能力強化された人材の活用  
水灌漑省は本邦研修を受けたカウンターパートが、キャパシティ・ディベロップメント管理強化の戦略的見地から、最も研修効果を活用できるよう人材活用を図る<sup>31</sup>こと。
- 2) 財政的自立発展性確保  
WSDP の予算を用いて研修の継続性および拡大を確保していくこと。その他に可能性のある予算（地方自治省の人材育成に充当できる予算など）を効果的に県が活用できるよう、セミナー開催、個別コンサルテーション供与などを通して情報整理・提供や予算申請などにおける支援を行う。
- 3) 全国展開に向けた準備  
本プロジェクトで得られた成果を広く波及させるため、すなわち、本プロジェクトで得られたシステムモデルが「タ」国全体で一般化される水灌漑省モデルとして認知されるために必要な活動を行う。例えば、本プロジェクト最終段階で予定されている成果発表セミナーを通じて研修システムモデルを各方面に周知すること。

#### 【プロジェクト終了後に向けて引き続き行うこと】

- 1) 人材の戦略的配置・育成：水灌漑省は、全国展開にむけて能力開発訓練課の業務がさらに増大すると予測されることから、当該課の人員の戦略的な配置、またさらなる育成を展開する。
- 2) 全国展開のための検証：水灌漑省は、本プロジェクトの成果である研修システムモデルの全国展開を確実にするために、他州での汎用性について検証し、以下に例示するような点を実施する。
  - PIM の次期改定の際に上述の水灌漑省モデルを PIM に反映させる。
  - 多様なニーズに対応するために、教材を多様化し、各教材の質向上に向けたさらなる精緻化、教材のユーザーフレンドリー性向上（視覚化など）を図る。
  - 各県共通の研修プログラムは、取りまとめるなど効率的実施を図る。
  - 研修講師の質を確保・向上するための中長期的戦略を検討する。
- 3) 関係機関との連携強化：水灌漑省は、関係各省庁や機関との連携をさらに強化し、予算の有効活用のみならず、給水衛生セクターの進捗を正確に測るための指標に使用する用語定義の共通化（例：Improved Sanitation）を図ること。

---

<sup>31</sup> 具体的には、本邦研修を受けたにもかかわらず人事異動により本プロジェクトの活動への直接的関与から離れた水灌漑省の2名のプロジェクト活動への必要に応じた活動を支援促進するなど。

## 7-2 教訓

### 1) 政策アドバイザーとプロジェクトの協働

カウンターパート機関への政策アドバイザー的機能とプロジェクト活動の協働は、プロジェクト効果創出の貢献要因となる。本プロジェクトでは、セクターにおけるドナー会合への参加を通じて、同セクターを支援するドナー間での情報共有・意見交換や本プロジェクト成果の紹介を積極的にできたことなどから、プロジェクト活動の円滑な実施と効果の創出が促進された。

### 2) 中央と地方自治体への同時介入

中央の能力強化のみで下位の行政機能の強化が必ずしもなされるとは限らない。中央への介入と県への直接的介入の双方が重要だということが本プロジェクトの活動を通じて確認された。

### 3) 政策・プログラムと外部条件（和文報告書のみ掲載）

PDMの中で示される「RWSSPが計画どおり進捗する」という外部条件が満たされなかったにもかかわらず、プロジェクト目標レベルの効果が創出されている。WSDPにアラインしていくことは政策上重要である一方、今後、WSDP進捗遅延がプロジェクト自体の進捗に影響が出るような事態を回避するためには計画立案時での何らかの配慮が必要であると思われる。

以上

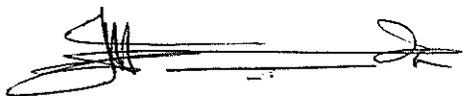
**MINUTES OF MEETING  
BETWEEN  
THE MINISTRY OF WATER AND IRRIGATION  
THE UNITED REPUBLIC OF TANZANIA  
AND  
JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY  
ON  
THE RURAL WATER SUPPLY AND SANITATION  
CAPACITY DEVELOPMENT PROJECT  
(RUWASA-CAD)**

The Terminal Evaluation Team (hereinafter referred to as “the Team”) organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as “JICA”), visited the United Republic of Tanzania (hereinafter referred to as “Tanzania”) from February 13<sup>th</sup> to March 6<sup>th</sup>, 2010 for the purpose of reviewing the progress and the achievements of The Rural Water Supply and Sanitation Capacity Development Project (hereinafter referred to as “the Project”).

During its stay in Tanzania, the Team visited the Project area, exchanged views and opinions with stakeholders on the Project and had a series of discussions with the officials of the Tanzanian Authorities concerned.

As a result of discussions, both parties agreed on the matters referred to in the attached Joint Terminal Evaluation Report.

Dar es Salaam, March 4<sup>th</sup>, 2010



---

Mr. Joseph KAKUNDA  
on behalf of  
Eng. Christopher Sayi  
Permanent Secretary  
Ministry of Water and Irrigation (MoWI),  
The United Republic of Tanzania



---

Dr. Yuji MARUO  
Leader  
Terminal Evaluation Team  
Japan International Cooperation Agency



ATTACHED DOCUMENT

THE TERMINAL EVALUATION REPORT  
ON  
THE RURAL WATER SUPPLY AND SANITATION  
CAPACITY DEVELOPMENT PROJECT  
(RUWASA-CAD)

DAR ES SALAAM 4 MARCH 2010



## CONTENTS

CONTENTS .....	1
1. Introduction.....	1
1-1 Objectives of the evaluation.....	1
1-2 Members of the joint evaluation team.....	1
1-3 Schedule of the study.....	2
2. Outline of the Project.....	2
2-1 Background of the Project .....	2
2-2 Summary of the Project.....	3
3. Methodology of evaluation .....	5
3-1 Evaluation questions and indicators .....	5
3-2 Data collection method and analysis.....	5
3-2-1 Data collection method.....	5
3-2-2 Criteria of evaluation for analysis.....	6
4. Project performance and implementation process .....	6
4-1 Input .....	6
4-2 Activity.....	8
4-3 Output.....	8
4-4 Project purpose.....	12
4-5 Overall Goal.....	13
4-6 Implementation Process .....	14
5. Results of evaluation by five criteria.....	14
5-1 Relevance.....	14
5-2 Effectiveness.....	15
5-3 Efficiency .....	16
5-4 Impact.....	16
5-5 Sustainability .....	17
6. Conclusion of evaluation .....	19
6-1 Achievement of the Project.....	19
6-2 Evaluation by five criteria.....	19
6-3 Promoting factors and prohibiting factors .....	20
7. Recommendation.....	20
7-1 Measures to be implemented before the termination .....	20
7-2 Measures to be taken for the post Project.....	21
8. Lessons learned.....	21

## ANNEX

Annex 1	Schedule of the Joint Evaluation
Annex 2	Project Design Matrix2
Annex 3	Plan of Operation (achievement based on the PDM2)
Annex 4	Evaluation Grid with result
Annex 5	List of Experts Dispatched from Japan
Annex 6	List of Equipment procured for the Project
Annex 7	Local Cost of the Project (Japanese side)
Annex 8	a. List of Counterpart Personnel b. List of Counterpart Personnel Trained in Japan
Annex 9	Project Cost Borne by Tanzanian Side
Annex 10	Training System Model (Capacity Development Programme of the Project)
Annex 11	Conceptual Diagram of the Project



## ABBREVIATIONS

C/P	Counterpart Personnel
CBT	Capacity Building & Training
CWSD	Community Water Supply Division
DWSP	District Water and Sanitation Plan
DWST	District Water and Sanitation Team
DPG-W	Development Partner Group-Water
DRA	Demand Responsive Approach
FSP	Facilitation Service Provider
GoJ	the Government of Japan
GoT	The Government of Tanzania
JICA	Japan International Cooperation Agency
ID&CB TWG	Institutional Development & Capacity Building Thematic Working Group
LGA	Local Government Authority
MM	Man Month
M/M	Minutes of Meeting
MoWI	Ministry of Water and Irrigation
NAWAPO	National Water Policy
ODA	Official Development Assistance
OJT	On the Job Training
PCM	Project Cycle Management
PCT	Program Coordination Team
PDM	Project Design Matrix
PIM	Project Implementation Manual
PMO-RALG	Prime Minister Office- Regional Administration and Local Government
PO	Plan of Operation
R/D	Record of Discussion
RUWASA-CAD	Rural Water Supply and Sanitation Capacity Development Project
RWSS	Rural Water Supply and Sanitation
RWSSP	Rural Water Supply and Sanitation Sub Programme
RWST	Regional Water Supply and Sanitation Team
TCB	Training and Capacity Building Sub-section
TCP	Technical Cooperation Project
TSP	Technical Service Provider
TOT	Training of Trainers
TWG	Technical Working Group
WSDP	Water Sector Development Programme

## Target Regions and Districts in RUWASA-CAD

<b>Target Regions</b>	<b>Target Districts</b>
<b>Dar es Salaam</b>	<b>Ilala</b>
	<b>Kinondoni</b>
	<b>Temeke</b>
<b>Coast</b>	<b>Bagamoyo</b>
	<b>Kibaha DC</b>
	<b>Kibaha TC</b>
	<b>Kisarawe</b>
	<b>Mafia</b>
	<b>Mkurange</b>
	<b>Rufiji</b>
<b>Lindi</b>	<b>Kilwa</b>
	<b>Lindi DC</b>
	<b>Lindi TC</b>
	<b>Liwale</b>
	<b>Nachingwea</b>
	<b>Ruangwa</b>
<b>Mtwara</b>	<b>Masasi</b>
	<b>Mtwara MC</b>
	<b>Mtwara DC</b>
	<b>Nanyumbu</b>
	<b>Newala</b>
	<b>Tandahimba</b>



# 1. Introduction

## 1-1 Objectives of the evaluation

The Rural Water Supply and Sanitation Capacity Development Project in Tanzania (hereinafter referred to as “the Project”) which started from September 2007 has been implemented in accordance with the Minutes of Meeting, agreed upon on the occasion of the visit of the JICA Preparatory Study Team on December 2006, followed by the R/D agreed upon June 2007. As was stated in the R/D, the joint terminal evaluation activities were performed with the following objectives:

- 1) To conduct a comprehensive assessment of the achievements and implementation process of the Project.
- 2) To analyze the achievement of the Project in terms of the Development Assistance Committee (DAC) five evaluation criteria (Relevance, Effectiveness, Efficiency, Impact and Sustainability).
- 3) To make recommendations on the Project regarding the measures to be taken for further improvements and securing sustainability of the Project.
- 4) To draw the lessons learned from the Project implementation.
- 5) To participate in the Joint Coordinating Committee (JCC) meeting to share the results of the terminal evaluation, contribute to the better understanding of the improvement as well as ensuring the sustainability of the Project.

## 1-2 Members of the joint evaluation team

The members of the joint evaluation team (hereinafter referred to as “the Team”) are follows;

### 1) The Tanzanian team

Mr. Reuben Kwigizile,	Team Leader Data Base Sub-section, Community Water Supply Division, MoWI
Mr. Laurent K. Shauri,	Team Member Division of Administration and Human Resources, MoWI
Mr. Bahati Joram,	Team Member Economist Directorate of Policy and Planning (DPP), MoWI

### 2) The Japanese team

Dr. Yuji MARUO,	Team Leader
-----------------	-------------

Mr. Tsunenari SOYAMA,	Senior Advisor, JICA Team member/Mission Planning Program Officer, Water Resources Management Division II, Global Environment Department, JICA
Ms. Noriko FURUTANI,	Team Member/Evaluation Analysis Senior Researcher, Global Link Management Inc.
Mr. Hiroshi JIGAMI	Team Member/Rural Water and Sanitation Specialist in Water Supply and Sanitation Consulting Division, Second Business Department, Vision & Sprit for Overseas Cooperation Co. Ltd.

### **1-3 Schedule of the study**

The detailed schedule of the terminal evaluation study is attached as Annex 1.

## **2. Outline of the Project**

### **2-1 Background of the Project**

In Tanzania, water supply ratios in urban and rural areas were 74% and 53.5% respectively as of 2005. In order to tackle the problem related to water supply and sanitation, the Ministry of Water and Irrigation (MoWI) of the Government of the United Republic of Tanzania (hereinafter referred to as the “GoT”) embarked on Water Sector Development Programme (WSDP) in 2007 in accordance with the policies and strategies such as the revised National Water Policy (2002), National Strategy for Growth and Reduction of Poverty (2005-2010), and National Water Sector Development Strategy (NWSDS)(2006). Under the context of those directions, the GoT has been trying to establish the implementation mechanism of water supply services, hygiene and sanitation with ownership of the beneficiaries. In order to realize such development goals, strengthening the local governments’ capacity for functional water supply is due required.

Under such conditions, GoT requested the Government of Japan (hereinafter referred to as the “GoJ”) to launch the technical cooperation project, named as the Rural Water Supply and Sanitation Capacity Development (RUWASA-CAD) (hereinafter referred to as “the Project”), through Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as the “JICA”). The Project has been implemented since September 2007 for three years aiming at strengthening of the capacity in rural water supply service and sanitation at district level, as well as the capacities of central, regional and Basin Office levels. As approximately 6

months has been left before the termination of the Project, JICA dispatched the terminal evaluation team to assess, jointly with Tanzanian side, the progress and achievement of the Project.

## 2-2 Summary of the Project

The objectives and outputs of the Project are as follows:

**Super Goal:** RWSS services in the mainland are improved under the WSDP by developing nationwide the training system to be established in the Technical Cooperation.

**Overall Goal:** RWSS services in the target districts are improved.

**Project Purpose:** Capacities of the target Districts providing RWSS services for rural communities are enhanced.

**Output:**

- 1) Capacity of CWSD/ MoWI for managing capacity development programme on RWSS is enhanced.
- 2) A training system model for District Water and Sanitation Teams (DWST) in managing RWSS projects is established.
- 3) Capacities of the target Basin Water Offices (BWOs) for supporting Districts in managing RWSS projects are enhanced.
- 4) Capacities of Regional Water and Sanitation Teams (RWSTs) in the target Regions for supporting Districts in managing RWSS projects are enhanced.
- 5) The project cycle and procedures of the RWSS reviewed through the Project are applied to implementation of RWSSP in the target districts.

### Activities:

1-1 Assess capacities and training needs of regional and district personnel in the target areas.

1-2 Examine current practices in capacity building of regional and district personnel.

1-3 Collect information on training resources.

1-4 Draft a capacity development programme for the target areas in line with the institutional framework of the RWSS sub-programme of the WSDP.



- 1-5 Based on the capacity development programme of 1-4 above, draft an annual work plan for the programme.
- 1-6 Compile and improve the existing manuals and guidelines on RWSS services for Regional and District personnel.
- 1-7 Manage the implementation of the trainings courses including supervision of the training consultants.
- 1-8 Monitor progress of RWSS projects implemented by the target Districts.
- 1-9 Review the annual work plan based on the results of 1-6, 1-7 and 1-8 above.
- 1-10 Disseminate the training modules and materials revised through the Project to other stakeholders through the Thematic Working Group for Institutional Development and Capacity Building and other channels.
- 1-11 Make contribution on revision and improvement of the Programme Implementation Manual (PIM) and related guides in RWSS projects based on findings from monitoring and evaluation of application of these documents in the project activities.
- 2-1 Improve existing training plans for DWSTs in the target districts in managing RWSS projects and supporting communities in O&M and sanitation promotion.
- 2-2 Develop training curriculum and materials for DWSTs based on 2-1 above.
- 2-3 Provide training for DWSTs in the target Districts based on 2-1 and 2-2 above.
- 2-4 Provide mentoring for DWSTs for improvement of their performance in management of RWSS projects through field visit to the districts for monitoring.
- 2-5 Monitor and evaluate attainment of skills and knowledge, and behavior change of trainees as well as impact of the training plan for improvement of the training plan.
- 3-1 Review and compile existing water resource data to be used effectively by the target BWOs.
- 3-2 Guide the target BWOs on analyzing and processing the water resources data.
- 3-3 Develop training plans for BWOs of the target Basin for improvement of support services for the local authorities in RWSS projects.
- 3-4 Provide training for BWOs based on the training plans of 3-3 above.
- 3-5 Monitor the implementation of support services by BWOs to the target districts.
- 4-1 Examine practices of the RWSTs of the target Regions pertaining to supporting and monitoring water supply services in the target Districts.
- 4-2 Examine the intercommunication mechanism between Regions, MOWI, PMO-RALG, BWO and Districts.
- 4-3 Develop training plans for RWSTs of the target Regions based on the examinations

of 4-1 and 4-2 above.

4-4 Provide training for RWSTs of the target Regions based on the training plans of 4-3 above.

4-5 Monitor the implementation of support services by RWSTs to the target districts.

5-1 Review the existing RWSS project cycle and procedures and prepare proposal on the necessary revision.

5-2 Facilitate consensus building among Community Water Supply Division, regional secretariats, BWOs, and local government authorities on application of the revised project cycle and procedures in implementation of RWSSP in the target districts.

5-3 Report the progress of the project periodically to the meetings of Thematic Working Group of Institutional Development and Capacity Building.

### **3. Methodology of evaluation**

In the first step of evaluation, the Team assessed the degree and prospects of achievement of the project purpose and outputs based on the PDM attached as Annex 2. In the second step, the Team analyzed and evaluated the Project from the viewpoints of “Relevance”, “Effectiveness”, “Efficiency”, “Impacts” and “Sustainability”.

Finally, the Team made the conclusion and recommendation of the Project, and also identified the lessons learned from the Project.

#### **3-1 Evaluation questions and indicators**

The main evaluation questions are whether the project purpose has been achieved, and whether the sustainability is secured. The evaluation grid is attached as Annex 4.

#### **3-2 Data collection method and analysis**

##### **3-2-1 Data collection method**

The following data and data collection methods were used for this evaluation study:

- 1) Documents agreed by both sides prior to and/or during the course of the Project implementation including:
  - Record of Discussion (R/D)
  - Minutes of Meeting (M/M)
  - Project Design Matrix (PDM)

- Plan of Operation
  - Others
- 2) Records of inputs from both sides and activities of the Project;
  - 3) Data and statistics which indicate the degree of achievement of the outputs, which are the results of the Project, and the project purpose;
  - 4) Interviews with and questionnaires to the Project's counterpart personnel (hereinafter referred to as "C/P"), the Japanese experts, participants of the trainings and personnel in related organizations; and
  - 5) Site visits

### **3-2-2 Criteria of evaluation for analysis**

The evaluation proceeded along with the following five criteria, which are the major points of consideration when assessing development projects.

- 1) **Relevance:** Relevance is to question whether the project purpose and overall goal are still consistent with the priority needs and concerns at the time of evaluation.
- 2) **Effectiveness:** Effectiveness concerns the extent to which the project purpose has been achieved, or is expected to be achieved, in relation to the output produced by the project.
- 3) **Efficiency:** Efficiency is a productivity of the implementation process: how efficiently the various inputs are converted into output.
- 4) **Impact:** Impact is intended and unintended, direct and indirect, positive and negative changes as a result of the project.
- 5) **Sustainability:** Sustainability of the development project is to question whether the project benefits are likely to continue after the external aid has come to an end.

## **4. Project performance and implementation process**

### **4-1 Input**

The Team confirmed that the Project has mostly fulfilled the following input along with

the plan stated in the R/D and PDM.

[Japanese side]

1) Dispatch of experts to Tanzania

Since the commencement of the Project in September 2007 until March 2010, 4 experts (total MM: 70.83) have been dispatched for the Project from Japan as it was planned. The function of each expert and their period assigned for the activities in Tanzania are as described below.

18.33MM	Chief Advisor/Community Water Supply Project Management
16.00MM	Deputy Chief Advisor/ Water Resource Management/Water Supply Planning
16.50MM	Community Water Supply Facility Planning / Operation & Maintenance
20.00MM	Community Facilitation / Sanitary Promotion

2) Provision of machinery/equipment

Machinery and equipment such as computer, printer and vehicle in total valued at 12,893,224 Japanese yen were provided for the Project till March, 2010.

3) Training of counterpart personnel in Japan

5 counterpart personnel were trained in Japan as requested from Tanzanian side.

4) Supplemental cost of local expenditure

A total amount of 104,736,180 Japanese yen was provided to supplement a portion of local expenditure for activities as of February, 2010. Annex 7 shows the figure in detail.

[Tanzanian side]

1) Appointment of counterpart personnel and other required staff

7 staff of relevant fields of the Project has been assigned.

2) Provision of facilities

The necessary spaces for office plot of the Project have also been provided in the compound of MoWI.

The list of experts, counterpart personnel, and those trained in Japan are found in Annex 5, Annex 8-a, Annex 8-b, respectively.

### 3) Operation Cost

A total amount of 49,902,900 Tanzanian Shilling was provided for operation cost as of March 2010. Annex 9 shows the figure in detail.

### 4-2 Activity

The Team confirmed that the Project has mostly fulfilled the activities along with the plan stated in the PDM and PO. The detailed progress of the Project activities is shown in PO as attached as Annex 3.

### 4-3 Output

The Team confirmed that the Project has fulfilled the following outputs along with the plan stated in the R/D and PDM. The reasons of the statement are shown under each output.

Output 1: Capacity of CWSD/MoWI for managing capacity development programme on RWSS is enhanced.

Indicator for Output 1
1-1 Capacity development strategy for district, region and basin levels in implementation of RWSS projects is formulated within 6 months from the commencement of the Project in coordination with PMO-RALG and other actors.
1-2 Annual work plans of TCB Unit are formulated every year.
1-3 Activities are conducted by the counterpart personnel in accordance with the action plans attached to the annual work plan

Output 1 has been achieved based on the following indicators.

Indicator 1-1: Capacity development strategy for district, region and basin levels in implementation of RWSS projects is formulated during the first/preparatory phase of the Project, that is within 6 months from the commencement of the Project, in coordination with PMO-RALG and other actors. This was already confirmed by the mid-term review team as "the capacity development strategy was formulated during the preparatory phase of the Project, and agreed among the Project Team and members of JCC in the 2nd JCC meeting in March 2008".

Indicator 1-2: Annual work plans of TCB Unit can be described as to be formulated every year. The annual work plan of TCB Unit for 2009/2010 was formulated in June 2009. It was, also, modified in September 2009 according to the reorganization of the CWSD.

Indicator 1-3: Activities are currently conducted by the counterpart personnel in

accordance with the action plans attached to the annual work plan. In the 5<sup>th</sup> phase of the Project, all the training courses have been successfully completed under the C/P's supervision. In another words, C/Ps conducted the project activities keeping the contents, schedule and outputs in mind.

Output 2: A training system model for District Water and Sanitation Teams (DWST) in managing RWSS projects is established.

Indicator for Output 2
2-1 Training plan is formulated within 9 months from the commencement of the project.
2-2 Monitoring plan is formulated within 9 months from the commencement of the project to record and analyse satisfaction, attainment of skills and knowledge, and behavior change of trainees as well as impact of the training plan.
2-3 Revision of training modular guides and development of course materials associated with training modular guides are finalized as the training package by July 2010.

Output 2 has mostly been achieved based on the following indicators:

Indicator 2-1: As the mid-term evaluation team confirmed, training plan was formulated in the preparatory phase that is within 9 months from the commencement of the project. As of February in 2010, the 5th phase of the training was completed. The training plan was modified upon necessity based on the lessons learned through the implementation experiences. It will eventually be compiled as the training package.

Indicator 2-2: Monitoring plan is formulated upon completion of the first training phase in February 2008, that is within 9 months from the commencement of the project, to record and analyse satisfaction, attainment of skills and knowledge, and behavior change of trainees as well as impact of the training plan. The detail was agreed among C/Ps in the meeting in September 2008. The monitoring was conducted from the first to third training phases as planned. The monitoring plan has been modified and been integrated as a part of the training system model.

Indicator 2-3: It can be said that revision of training modular guides and development of course materials associated with training modular guides have been improved as the training package and will be completely finalized by July 2010.

In the process of formulation of the training plan, existing training modules were examined and revised in accordance with major issues discussed in NAWAPO. The revised version of the training modules were introduced as the proposal on RWSS project cycle and procedure to ID&CB TWG (Institutional Development & Capacity Building Thematic Working Group) and PCT (Program Coordination Team) as of

May 2008. The course materials were prepared based on the existing ones, training curriculum associated with revised training modules and plan, in the sequence of the implementation of the planned training schedule.

This model includes the user-friendly measures in preparation of the training curriculum/package. By using the module chart together with the capacity assessment check list for DWST, each DWST can create its original, naturally needs-responsive training curriculum quite easily. This is obviously the added value of the Project, RUWASA-CAD.

Output 3: Capacities of the target Basin Water Offices (BWOs) for supporting Districts in managing RWSS projects are enhanced.

Indicator for Output 3
3-1 The preliminary hydrogeological maps are distributed to all the target districts by BWO by the second training phase.
3-2 The updated hydrogeological data is distributed to all the target districts by BWO annually.

Output 3 has almost been achieved and will be achieved fully by the end of the Project if further efforts, to collect data for the preliminary hydrogeological maps, are made. The reason for this statement is based on the following.

Indicator 3-1: The preliminary hydrogeological maps were actually distributed to all the target districts by BWO during the second training phase. The said maps were completed by the hydrogeologists and engineers in the Wami Ruvu (WR) and Ruvuma Southern Coast (RSC) BWOs and were distributed to all 22 targeted districts.

Indicator 3-2: The updated hydrogeological data has almost been distributed to all the target districts by BWO annually. The updating of the preliminary hydrogeological maps is in progress. Specifically, RSC-BWO has already completed the updating while WR-BWO is currently collecting data for updating. Thus, the persons concerned think that this indicator will be completed by the end of the Project.

Output 4: Capacities of Regional Water and Sanitation Teams (RWSTs) in the target Regions for supporting Districts in managing RWSS projects are enhanced.

Indicator for Output 4
4-1 RWSPs are formulated in all the target regions by July 2010.
4-2 Quarterly monitoring reports submitted by the districts are reviewed and responded to the districts by RWSTs in all the target regions within one month from receipt of the reports.



Output 4 will be achieved fully by the end of the Project if further efforts are made. The reason for this statement is based on the following.

Indicator 4-1: Preparation of RWSP is in progress in the target regions. Specifically, four regions are currently making efforts to collect the necessary data for the RWSP preparation. As a result of the training on RWSP for RWST members, conducted by the Project, the RWSP will be completed in all four regions by July 2010 based on the opinions from the persons concerned. The risk will be the delay of completion of DWSPs, on which RWSP depends.

Indicator 4-2: The current status is almost achieving “Quarterly monitoring reports submitted by the districts are reviewed and responded to the districts by RWSTs in all the target regions within one month from receipt of the reports.” Delays in reporting due to staff capacity constraints at some LGAs were indicated in some regions (e.g. Dar Es Salaam Region). As a result of the efforts, through the Project activities by putting emphasis on the significance of RWST’s facilitation and monitoring LGAs, 13 districts received the comments on the Quarterly monitoring reports for 2008/2009. Based on such improvement, the persons concerned think the further development affirmatively towards eventual obtaining the target.

Output 5: The project cycle and procedures of the RWSS reviewed through the Project are applied to implementation of RWSSP in the target districts.

Indicator for Output 5
5-1 Community subprojects are formulated and designed in all the target districts based on advice and approval by RWST and BWO.
5-2 Proposals on the necessary revision for the existing RWSS project cycle and procedure are provided.

Output 5 has been mostly achieved based on the following indicators:

Indicator 5-1: Current situation is becoming to “Community subprojects are formulated and designed in all the target districts based on advice and approval by RWST and BWO.” The number of the districts that received the advices on the planning of sub projects for 2008/2009, from RWST, counts 13 (Kinondoni, Kilwa, Lindi DC, Lindi TC, Liwale, Nachingwea, Nanyumbu, Newala, Tandahimba, Kisarawe, Mafia, Mkuranga and Rufiji), also those districts that received comments from BWO counts 12 (Temeke, Kilwa, Lindi DC, Lindi TC, Liwale, Nachingwea, Ruangwa, Masasi, Nanyumbu, Tandahimba, Bagamoyo and Rufiji). They received precise advices from either RWST or/and BWO.

Indicator 5-2: Proposals on the necessary revision for the existing RWSS project cycle and procedure have already been provided.

#### 4-4 Project purpose

Project Purpose: Capacities of the target Districts providing RWSS services for rural communities are enhanced.

Indicator for Project Purpose
DWSTs which practices the following actions in implementation of RWSSP reaches to 80% (18 districts) by July 2010. <ol style="list-style-type: none"><li>1. To adopt selection procedures of candidate communities for the scoping survey based on the demand-responsive approach in the promotion phase.</li><li>2. To examine and make comments to progress reports and other outputs to be submitted by the Technical and Facilitation Service Providers within the period agreed.</li><li>3. To update information on water supply and sanitation conditions as well as operation and maintenance of existing water supply facilities in the district every year.</li><li>4. To integrate the strategies and activity plans on water supply, sanitation and hygiene promotion for households and schools into DWSP and annual plan.</li></ol>

At the time of terminal evaluation, the project purpose is mostly achieved.

The reasons for the foregoing statement are as follows;

Indicator 1: According to the questionnaire survey for monitoring, the number of the DWST that adopts selection procedures of candidate communities for the scoping survey based on the demand-responsive approach (DRA) in the promotion phase is 9 out of 22 (40%), (Kinondoni, Mkuranga, Lindi TC, Liwale, Nachingwea, Mtwara DC, Nanyumbu, Newala and Tandahimba). Although this is less than targeted figure, which is 18 out of 22 (80%), the rest of the Project targeted districts are practicing DRA at least partially. Moreover, all the training participants from DWST fully understood the importance of the DRA and all of them are determined to conduct selection procedures based on the demand-responsive approach in the promotion phase upon the next cycle of RWSSP in future.

Indicator 2: According to the questionnaire survey for monitoring, the number of the DWST that examines and makes comments to progress reports and other outputs submitted by the Technical and Facilitation Service Providers within the period agreed in implementation of RWSSP is 20 (except for Kibaha DC and Kibaha TC) out of 22 (90.9%). This is more than 18 out of 22 (80%), which is the target figure.

Indicator 3: According to the questionnaire survey for monitoring, the number of

the DWST that updates information on water supply and sanitation conditions as well as operation and maintenance of existing water supply facilities in the district every year in implementation of RWSSP is 21 (except for Kisarawe, conducts monitoring bi-annual ly) out of 22 (95.4%). This is more than targeted 18 out of 22 (80%).

Indicator 4: According to the questionnaire survey for monitoring, the number of the DWST that integrates the strategies and activity plans on water supply, sanitation and hygiene promotion for households and schools into DWSP and annual plan in implementation of RWSSP is 19 (86.3%, except for Temeke, Nanyumbu and Tandahimba). This is more than 18 out of 22 (80%), which is the target figure.

#### 4-5 Overall Goal

Overall Goal: RWSS services in the target districts are improved.

Indicator for Overall Goal
By the year 2015,
1. Coverage rate of improved water supply increased in the rural part of the target districts from 57.8% (Dec. 07) to 75.6%.
2. Percentage of water supply points working for more than 6 months a year increases from 73.5% (Dec. 07) to 100% in the target districts.
3. Number of legally registered Water User Entities (WUEs) increases compared to the present value in each target district.
4. People who have access to improved sanitation in the target districts increases from X% to Y%.

Super Goal: RWSS services in the mainland are improved under the WSDP by developing nationwide the training system to be established in the Technical Cooperation.

Indicator for Super Goal
By the year of 2025,
1. Coverage rate of improved water supply increases in the rural part of the mainland from 53% (2003) to 90%.
2. Percentage of water supply points working for more than 6 months a year increases from 82% (Dec. 07) to 100% in the rural part of the mainland.
3. People who have access to improved sanitation in the rural area of the mainland increases from 55% (Dec. 07) to Y%.

At the time of terminal evaluation, it is difficult to prove the changes by showing the increased indicators in PDM or any other articulate statistical figure. However, the Project is on track towards the realization of the overall goal as well as the super goal based on the information and opinion the evaluation team obtained from questionnaire as well as interviews

to the related actors. Therefore, it is estimated that the overall goal, “RWSS services in the target districts are improved”, will be achieved within 3-5 years of WSDP implementation.

#### **4-6 Implementation Process**

The implementation process was evaluated along with the evaluation grid.

The following are the major points to be observed;

(1) Coordination among the related organizations in the operational mechanism

Project’s collaboration with the policy advisory function to the counterpart organization/MoWI: Good collaboration between the policy advisory function to counterpart organization/MoWI and the Project function itself contributed to active exchange of the opinion as well as to sharing of the information on WSDP among donor community.

(2) Performance of C/P

Changes of Counterpart personnel at central level: The counterpart personnel who received the training in Japan have been transferred to the place that does not direct connection with the Project

(3) Progress of the activities

Delay of RWSSP: The RWSSP has been delayed in implementation than the original schedule due to capacity constraints and lengthy procurement processes.

### **5. Results of evaluation by five criteria**

Through the evaluation study, the Team assessed the project’s relevance, effectiveness, efficiency, impact, and sustainability.

#### **5-1 Relevance**

The Project is relevant as follows:

The conditions, that are required for the relevance of the Project, remain as same as the Mid-term Review Team confirmed. First of all, the project purpose and overall goal/super goal are consistent with the Tanzanian policy and strategy. The rural water supply is given high priority in National Water Policy (NAWAPO), the National Strategy for Growth and Reduction of Poverty and Millennium Development Goals. Strengthening the local governments’ capacity for functional water supply is also consistent with Japanese ODA policy which puts emphasis on

promotion of rural water supply according to Water Sector Development Programme (WSDP) under the above mentioned policies. The assistance needs on capacity development exists obviously since the fully qualified human resources for functional rural water supply at district level is not yet sufficient. In addition to that, the project purpose and overall goal are consistent with the needs of ultimate beneficiaries such as local residents living in the target districts in Tanzania.

Moreover, the content of this technical cooperation employs the quite practical method/theme such as On the Job Training in community involvement, water committee management and monitoring study tour on maintenance of rural water facilities in which Japan has strong points based on its assistance experiences in Tanzania in the past.

## 5-2 Effectiveness

The effectiveness of the Project is high as shown below in detail:

### 1) Degree of achievement of the project purpose

At the time of terminal evaluation, the project purpose has been mostly achieved. (See 4-4.)

### 2) Contribution of outputs to project purpose achievement

All the outputs have been steadily contributing to achievement of the project purpose. Especially, contribution of Output 2 (Establishment of training system model) and Output 5 (Application of the project cycle and procedures) which are direct interventions to district levels is significant. Moreover, they have been interrelated to the other outputs (Output 1, 3 and 4) which are capacity development of regional, basin and central offices to support the district level. Thus, the synergy effect among outputs occurred and contributed to producing each output towards the realization of the project purpose.

### 3) Promoting factors and inhibiting factors

#### ➤ High needs of the beneficiaries/ counterpart personnel/organization

The readiness and high motivation of DWSTs as well as RWSTs to improve their performance in RWSSP to support communities, consequently the high needs of CWSD as a counterpart organization led to the high pace to reach the project purpose.

There is no inhibiting factor towards the achievement of the project purpose. It is,

however, worthy of mentioning the delay of the RWSSP that needs to be considered for the future project planning.

### 5-3 Efficiency

The outcome has been appearing. The efficiency can be said as high from the viewpoint of outcome magnitude compared to the input. It is required, however, several years to judge the long-term efficiency through comparison between the inputs and the actual result in rural water supply with evidence of impact indicators. Capacity Development is only the base of the improvement of rural water supply performance. Detailed assessment of efficiency is as follows:

#### 1) Appropriateness of input

Inputs by both Japanese and Tanzanian sides were mostly necessary and sufficient to produce the intended output for the following reasons.

##### [Japanese Side]

- The JICA dispatched experts played the role of each expected area in the Project. The detailed of the Japanese experts is listed in Annex 5.)
- The content of counterpart training courses was adequate.

##### [Tanzanian Side]

- The assignment of counterpart personnel was mostly in accordance with the planned schedule. Although the number of counterparts allocated was adequate, the time commitment was sometimes limited due to their original tasks at MoWI.
- The PCs, printers and vehicles as equipment provided by the Japanese side are utilized and well maintained.

#### 2) Degree of achievement of output

The Project has obtained the intended outputs to a satisfactory degree.

### 5-4 Impact

Impact of the Project is estimated, at the time of terminal evaluation, as large as follows:

The overall goal is one of the intended positive impacts. As previously described in “4-5 Overall Goal”, the estimated achievement level of the overall goal, “RWSS services in the target districts are improved” is judged as possibly high based on the steady progress of the on-going

Project. The behavior changes are appearing stemmed from higher sense of responsibility and deeper understanding of their significant role at the district level, which is crucial for the betterment of rural water supply and sanitation. As for Super Goal, the spread effect would be considerable if the RUWASA-CAD proposal gets to be related to the nationwide spread mechanism, such as revision of PIM. Until the time of terminal evaluation, the other districts in other regions that are not covered by the Project made some inquiries on the CD training system model that the Project proposed. In addition to that, as unintended impact of the Project, CWSD has been considering the preparation of the capacity development plan to provide the training even in other regions that the Project covers.

No negative impacts are observed.

### **5-5 Sustainability**

The sustainability of the Project can be secured if certain conditions are met as follows.

#### **1) Organizational sustainability**

Community Water Supply Division, MoWI, is a recently reorganized and stable organization since it is expected to play a significant role in managing of RWSSP that is given high priority by the government policy and strategy. Also, upbringing RWSSP related personnel at district level such as DWST as well as capacity development of RWST and BWO, who are expected to support DWSTs, is one of the important duties for Capacity Building & Training Sub-section (CBT) in CWSD as devolving process goes in rural water supply. Thus, it can be said that organizational stability could be described as high.

#### **2) Financial sustainability**

It is difficult to state that the financial sustainability of the Project is high, without further commitment such as allocation and timely disbursement of WSDP budget on continuous trainings of which cost is, during the Project implementation period, covered by the Project. Currently, each district is preparing training program to implement RWSSP under WSDP. The content might vary depending on the needs and capacity assessment of each district. It is obvious that some districts will take the RUWASA-CAD produced training system for their own training under WSDP. That is, the continuous and further training will be conducted by the WSDP budget in near future. From this point of view, only if such financial commitment is assured, the sustainability of the Project from financial aspect could be high.

#### **3) Technical sustainability**

It can be said that technical sustainability is secured currently to some extent for the following reasons;

Firstly, the transferred technology has been due accepted by the training participants.



They are not only satisfied with the content of the trainings but also obtained skills and knowledge. In addition to that, training participants convey what they learned from the RUWASA-CAD trainings to their colleagues who could not attend them. Therefore, the mechanism to ensure the technical sustainability/spread effect is appearing.

Secondly, the remaining rate of the training participants in the organization is considerably high. Only 5 out of 301 participants were transferred to completely out of RWSSP activities. As for the counterpart personnel at the central level, however, two out of five participants in the training in Japan were transferred from the original position which does not have direct relation with the capacity development. It is, therefore, required for CWSD to utilize such personnel who received the technology transfer and to bring up newly appointed personnel for the technical sustainability of the Project. This is related to the further commitment of CWSD in the capacity development for RWSSP.

Thirdly, behavior changes to some extent are appearing at both individual and organizational level. If there is systematic backing supports by MoWI in order to keep going the behavioral changes such as described below, sustainability from technical point of view will be higher. Thus, to build such a support system will be future challenge for MoWI.

#### Individual Behavior Change ---Examples---

- Project Management: A checklist for monitoring introduced in the training is used in the actual works. PCM method was adopted when DWST promoted new projects.
- Hygiene promotion: Active involvement in school sanitation program and formation of WATSAN committees at community level.
- Teamwork: Each member of DWST respects teamwork better than before. Even if District Water Engineer is absent from the office, other members can discuss and execute activity plans.
- Collaboration with various actors: With considering importance of utilization of the extension workers in RWSS projects, DWST started to develop an inventory of the council extension workers working in various sectors in the district. DWST is going to organize an orientation for the extension workers on working as a team.

#### Organizational Behavior Change ---Examples---

- DRA: DWST has been facilitating Demand Responsive Approach (DRA) in the promotion phase before commencement of the 1<sup>st</sup> cycle of WSDP in all monitored Local Government Authorities.
- Management of output: All the members of DWST were involved in examination and preparation of comments on reports that were submitted by consultants (TSP/FSP).
- Monitoring: Improvement in monitoring. For example, in Masasi DC, information is

updated quarterly. Ward Executive Officer at the wards and Water Technicians stationed at community level are involved in collection of data from all the communities.

- Integrated Approach: Integration of various sectors. For example, because of the teamwork of DWST, half of the schools in Kibaha established the school hygiene club to promote the improved sanitation facilities as well as hygiene education based on integrated plan.

## **6. Conclusion of evaluation**

The Team came to the following conclusion through the field survey of the Project, discussion among the members of the Team and exchange views and opinions with concerned organizations.

### **6-1 Achievement of the Project**

The project purpose is mostly achieved at the time of terminal evaluation, judging from the indicators in PDM. Firstly, 9 out of 22 (40%) DWSTs adopt selection procedures of candidate communities for the scoping survey based on the demand-responsive approach (DRA) in the promotion phase and the rest of the Project targeted districts are practicing DRA at least partially. Secondly, 20 out of 22 (90.9%) DWSTs examine and make comments to progress reports and other outputs to be submitted by the Technical and Facilitation Service Providers within the period agreed. Thirdly, 21 out of 22 (95.4%) DWSTs update information on water supply and sanitation conditions as well as operation and maintenance of existing water supply facilities in the district every year. Finally, 19 out of 22 (86.3%) DWSTs integrate the strategies and activity plans on water supply, sanitation and hygiene promotion for households and schools into DWSP and annual plan. Therefore, "Capacities of the target Districts providing RWSS services for rural communities are enhanced".

### **6-2 Evaluation by five criteria**

At the time of terminal evaluation, the relevance of the Project is high due to the consistency with both the policy and needs of beneficiaries. The effectiveness is also judged to be high because of the achievement level of the Project purpose. The efficiency can be said as high from the viewpoint of outcome magnitude compared to the input. Impact is estimated as large since the estimated achievement level of overall goal is high



enough with some conditions. The spread effect is considerable if the RUWASA-CAD proposal gets to be related to the nationwide spread mechanism, such as revision of PIM. Sustainability can be secured and higher with the certain condition. Organizational stability could be described as high and the sustainability of the Project from financial aspect could be high if financial commitment of WSDP budget is assured. Since behavioral changes of the capacity developed personnel is appearing, if there is systematic backing supported by MoWI in order to keep going such improvements, sustainability from technical point of view will be higher.

### **6-3 Promoting factors and prohibiting factors**

The virtues of the Project as promoting factors can be summarized as follows.

- High needs of the beneficiaries/ counterpart personnel/organization

## **7. Recommendation**

The Team recommends Governments of Tanzania and Japan following points based on the conclusions of evaluation.

### **7-1 Measures to be implemented before the termination**

The following actions need to be taken before the termination of the cooperation period in order for MoWI to carry out the activities with full ownership after the cooperation.

#### **1) Utilization of strengthened counterpart personnel**

MoWI utilizes those participants who received the training in Japan to accomplish the planned activities of the Project.

#### **2) Securing financial sustainability**

MoWI makes sure that districts use WSDP budget to continue and even replicate the CD training which the Project proposed. In addition to that, MoWI provides the districts with supports in terms of practical information and knowhow on application to other possible financial sources, such as CD training budget under other line ministries/financiers through dissemination seminars, consultation services to each district, etc..

#### **3) Preparation for Nationwide replication**

The Project timely takes necessary actions to let the training system model, the Project is proposing, be the national model, consequently to be widely practiced in Tanzania. Therefore, the Project tries to make this training system model widely accepted and utilized

nationwide as a training system model to be adopted as one of the component of the WSDP.

## **7-2 Measures to be taken for the post Project**

In order to disseminate and to develop the results of the Project throughout Tanzania, the following actions need to be taken by MoWI;

### 1) Strategic deployment and upbringing the human resources

MoWI considers the strategic mobilization as well as further capacity development of the human resources of CBT sub-section in order for CBT to cope with increasing responsibility/duty in capacity development.

### 2) Verification towards Nationwide Operation

MoWI implements the points based on the verification of the model' s replicability in other regions, such as shown below, to ensure the nationwide operation;

- To integrate the above mentioned training system model in PIM upon the next revision
- To develop more variety of the modules and related teaching/learning materials to be responsive to the various needs of other regions under different environments. The quality level through further elaboration of teaching/learning materials and user-friendliness level through various inventions such as attractively visualized textbook are also the points to be considered.
- To employ more efficient measures in implementation of CD training (ex: joint contract and joint implementation of the common training module for various districts)
- To discuss and prepare the long term strategy to assure and to increase the quality of instructors for the CD training.

### 3) Further collaboration among the related organizations to RWSSP

- MoWI seeks, through further collaboration with other related organizations, not only the budget availability for CD in RWSSP at district level but also the common definition/clarification of indicators, such as "Improved Sanitation", to measure properly the progress in rural water and sanitation.

## **8. Lessons learned**

### 1) Collaboration between the Project and the policy advisory function

Collaboration of the functions between the Project and the policy advisory function to the counterpart organization is the engine to produce the outcome of the Project. The opinion exchange as well as information sharing including the introduction of the Project

progress through donor community meetings, such as DPG-W, contributed to the smooth implementation of the Project and to the achievement of the outcome in this RUWASA-CAD project.

2) Approach to both central level and local government authorities

To strengthen the capacity at local government level, it is not sufficient intervention of capacity development at central level only with expectation of the trickle down effect. It turned out that the intervention for capacity development at both level of central and district directly at the same time, increased the magnitude of outcome of the Project.





**Annex 1: Schedule of the Joint Evaluation**

		Team Leader Mission Planning	Evaluation Analysis Rural Water and Sanitation
Feb.12	Fri.		Leaving Tokyo
Feb.13	Sat.		Via Dubai
Feb.14	Sun.		Arrival at Dar es Salaam
Feb.15	Mon.		Preparation for the Interview
			10:00 Meeting with JICA experts
			14:30 Courtesy Call to PS at MoWI
			15:30 Meeting with JICA experts
Feb.16	Tues.		10:00 Interview to C/Ps
			13:00 Interview to JICA experts
Feb.17	Wed.		10:00 Interview to JICA experts
		14:30 Interview to JICA experts	
Feb.18	Thurs.	Briefing to Tanzanian Evaluators	
		Modification of Report	
Feb.19	Fri.	10:00 Interview to Kibaha DWST	
		11:30 Interview to Kibaha RWST	
		Meeting with Tanzanian Evaluators	
Feb.20	Sat.	Data arrangement	
Feb.21	Sun.	Leaving Tokyo	Draft of the Evaluation Report
Feb.22	Mon.	Arrival at Dar es Salaam	Interview to training provide company
			Data arrangement
Feb.23	Tues.	10:00 Internal Meeting among Japanese Evaluation Team	
		10:00 Meeting with MoWI	
		11:00-13:00 Interview to JICA Experts	
		14:30-15:30 Meeting with Tanzanian Evaluators	
		17:00-18:00 Meeting with JICA Tanzanian Office	
Feb.24	Wed.	10:00-12:00 Interview to JICA Experts	
		13:40-14:50 Interview to Dar es Salaam RWA and RWST	
		15:30-16:30 Interview to Temeke MWST	
Feb.25	Thurs.	08:00-09:10 (PW 401) Flight to Mtwara	
		10:30-12:00 Interview to Mtwara RWST	
		13:30-14:40 Interview to Mtwara DWST	
		15:10-16:00 Interview to Coast BWO	
Feb.26	Fri.	8:15 Leaving Hotel	
		10:10-11:15 Interview to Lindi RWST	
		11:50-12:50 Interview to Lindi DWST	
		14:40-15:40 Interview/Observation at Nyengedi Water Facility	
		16:30-17:50 Interview/Observation at Kiwalala Water Facility	
Feb.27	Sat.	08:30-09:30 (PW 402) Flight to Dar es Salaam	
		13:00-15:00 Internal Meeting amongst Japanese Evaluation Team	
Feb.28	Sun.	Internal Meeting among Japanese Evaluation Team (Preparation of JER)	
Mar.1	Mon.	10:00-13:00 Joint Evaluation Meeting	
		14:00-16:00 Joint Evaluation Meeting	
		16:30-18:00 Meeting with JICA experts	
Mar.2	Tues.	09:00-13:00 Joint Evaluation Meeting	
		14:00-14:30 Interview to Project Manager	
		15:00-16:30 Joint Evaluation Meeting	
Mar.3	Wed.	Joint Evaluation Meeting	
Mar.4	Thurs.	10:00-13:45 JCC, Sign Ceremony for M/M	
		17:00-18:00 Report to JICA Tanzania Office	
Mar.5	Fri.	9:00-9:30 Report to Embassy of Japan	
		17:20 Leaving Dar es Salaam	Additional data collection if necessary
Mar.6	Sat.	Arrival at Tokyo	17:20 Leaving Dar es Salaam
Mar.7	Sun.		Arrival at Tokyo

**Annex 2: Project Design Matrix 2**

**Project Title :** Rural Water Supply and Sanitation Capacity Development Project (RUWASA-CAD)  
**Duration of the Project :** September 2007 to July 2010  
**Project Area:** 22 districts in the Regions of Dar es Salaam, Coast, Lindi and Mtwara  
**Implementing Agency:** Ministry of Water and Irrigation  
**Target Group:** Staff of Ministry of Water and Irrigation; Division of Community Water Supply, Division of Water Resources, Basin Water Offices of Wami Ruvu and Ruvuma & Southern Coast, Regional Secretariat (RS) in four regions and Local Government Authorities in 22 districts

Version: PDM 2 Prepared on: 2<sup>nd</sup> March 2009

Narrative Summary	Indicators	Means of Verification	Important Assumption
<b>[Super Goal]</b> 1. RWSS services in the mainland are improved under the WSDP by developing nationwide the training system to be established in the Technical Cooperation	By the year of 2025, 1. Coverage rate of improved water supply increases in the rural part of the mainland from 53% (2003) to 90%. 2. Percentage of water supply points working for more than 6 months a year increases from 82% (Dec. 07) to 100% in the rural part of the mainland. 3. People who have access to improved sanitation in the rural area of the mainland increases from 55% (Dec.07) to Y%.	1. Sector performance report to be submitted to Joint Water Sector Review 2. Sector Performance Report 3. Sector Performance Report	
<b>[Overall Goal]</b> 1. RWSS services in the target districts are improved.	By the year of 2015, 1. Coverage rate of improved water supply increases in the rural part of the target districts from 57.8 % (Dec. 07) to 75.6%. 2. Percentage of water supply points working for more than 6 months a year increases from 73.5% (Dec. 07) to 100% in the target districts. 3. Number of legally registered Water User Entities (WUEs) increases compared to the present value in each target district. 4. People who have access to improved sanitation in the target districts increases from X% to Y%.	1. Sector Performance Report 2. Sector Performance Report 3. Monitoring records of the districts 4. Sector Performance Report	The system practiced in the Project is institutionalized in the WSDP framework.
<b>[Project Purpose]</b> 1. Capacities of the target Districts providing RWSS services for rural communities are enhanced.	DWSTs which practices the following actions in implementation of RWSSP reaches to 80% (18 districts) by July 2010. 1. To adopt selection procedures of candidate communities for the scoping survey based on the demand-responsive approach in the promotion phase. 2. To examine and make comments to progress reports and other output reports to be submitted by the Technical and Facilitation Service Providers within the period agreed. 3. To update information on water supply and sanitation conditions as well as operation and maintenance of existing water supply facilities in the district every year. 4. To integrate the strategies and activity plans on water supply, sanitation and hygiene promotion for households and schools into DWSP and annual plan.	1. Records of the districts on appraisal of the community applications 2. Records of the districts on comments made to the reports submitted by the service providers 3. Monitoring records of the districts 4. DWSPs and annual investment plans	RWSSP is implemented on schedule.
<b>[Outputs]</b> 1. Capacity of CWSD/ MoWI for managing capacity development programme on RWSS is enhanced.	1-1. Capacity development strategy for district, region and basin levels in implementation of RWSS projects is formulated within 6 months from the commencement of the Project in coordination with PMO-RALG and other actors. 1-2. Annual work plans of TCB Unit are formulated every year. 1-3. Activities are conducted by the counterpart personnel in accordance with the action plans attached to the annual work plan.	1-1 Project Progress Report 1-2 Project Progress Report 1-3 Outputs of the activities indicated in the action plans, Project Progress Report	• Trained staff remains in the originally assigned office • RWSSP is implemented on schedule.
2. A training system model for District Water and Sanitation Teams (DWST) in managing RWSS projects is established.	2-1. Training plan is formulated within 9 months from the commencement of the project. 2-2. Monitoring plan is formulated within 9 months from the commencement of the project to record and analyse satisfaction, attainment of skills and knowledge, and behaviour change of trainees as well as impact of the training plan. 2-3. Revision of training modular guides and development of course materials associated with training modular guides are finalized as the training package by July 2010.	2-1. Project Progress Report 2-2. Project Progress Report 2-3. Training modular guides and course materials finalized	
3. Capacities of the target Basin Water Offices (BWOs) for supporting Districts in managing RWSS projects are enhanced.	3-1 The preliminary hydrogeological maps are distributed to all the target districts by BWO by the second training phase. 3-2 The updated hydrogeological data is distributed to all the target districts by BWO annually.	3-1 Project Progress Report 3-2 Project Progress Report	
4. Capacities of Regional Water and Sanitation Teams (RWSTs) in the target Regions for supporting Districts in managing RWSS projects are enhanced.	4-1. RWSPs are formulated in all the target regions by July 2010. 4-2. Quarterly monitoring reports submitted by the districts are reviewed and responded to the districts by RWSTs in all the target regions within one month from receipt of the reports.	4-1. RWSPs formulated 4-2. Records of RWST on comments made to the monitoring reports submitted by the districts	
5. The project cycle and procedures of the RWSS reviewed through the Project are applied to implementation of RWSSP in the target districts.	5-1. Community subprojects are formulated and designed in all the target districts based on advice and approval by RWST and BWO. 5-2. Proposals on the necessary revision for the existing RWSS project cycle and procedure are provided	5-1. Records of the districts on assessment of preliminary and detail designs of the requested subprojects 5-2. Proposals submitted from the Project Team to MoWI	
<b>[Activities]</b> 1-1 Assess capacities and training needs of regional and district personnel in the target areas. 1-2 Examine current practices in capacity building of regional and district personnel. 1-3 Collect information on training resources. 1-4 Draft a capacity development programme for the target areas in line with the institutional framework of the RWSS sub-programme of the WSDP. 1-5 Based on the capacity development programme of 1-4 above, draft an annual work plan for the programme. 1-6 Compile and improve the existing manuals and guidelines on RWSS services for Regional and District personnel. 1-7 Manage the implementation of the trainings courses including supervision of the training consultants. 1-8 Monitor progress of RWSS projects implemented by the target Districts. 1-9 Review the annual work plan based on the results of 1-6, 1-7 and 1-8 above. 1-10 Disseminate the training modules and materials revised through the Project to other stakeholders through the Thematic Working Group for Institutional Development and Capacity Building and other channels. 1-11 Make contribution on revision and improvement of the Programme Implementation Manual (PIM) and related guides in RWSS projects based on findings from monitoring and evaluation of application of these documents in the project activities. 2-1 Improve existing training plans for DWSTs in the target districts in managing RWSS projects and supporting communities in O&M and sanitation promotion. 2-2 Develop training curriculum and materials for DWSTs based on 2-1 above. 2-3 Provide training for DWSTs in the target Districts based on 2-1 and 2-2 above. 2-4 Provide mentoring for DWSTs for improvement of their performance in management of RWSS projects through field visit to the districts for monitoring. 2-5 Monitor and evaluate attainment of skills and knowledge, and behaviour change of trainees as well as impact of the training plan for improvement of the training plan. 3-1 Review and compile existing water resource data to be used effectively by the target BWOs. 3-2 Guide the target BWOs on analyzing and processing the water resources data. 3-3 Develop training plans for BWOs of the target Basin for improvement of support services for the local authorities in RWSS projects. 3-4 Provide training for BWOs based on the training plans of 3-3 above. 3-5 Monitor the implementation of support services by BWOs to the target districts. 4-1 Examine practices of the RWSTs of the target Regions pertaining to supporting and monitoring water supply services in the target Districts. 4-2 Examine the intercommunication mechanism between Regions, MoWI, PMO-RALG, BWO and Districts. 4-3 Develop training plans for RWSTs of the target Regions based on the examinations of 4-1 and 4-2 above. 4-4 Provide training for RWSTs of the target Regions based on the training plans of 4-3 above. 4-5 Monitor the implementation of support services by RWSTs to the target districts. 5-1 Review the existing RWSS project cycle and procedures and prepare proposal on the necessary revision. 5-2 Facilitate consensus building among Community Water Supply Division, regional secretariats, BWOs, and local government authorities on application of the revised project cycle and procedures in implementation of RWSSP in the target districts. 5-3 Report the progress of the project periodically to the meetings of Thematic Working Group of Institutional Development and Capacity Building.	<b>[Input ]</b> 1. The Japanese Side 1) Experts - Chief Advisor / Community Water Supply Project Management - Deputy Chief Advisor / Water Resources Management/ Water Supply Planning - Community Water Supply Facility Planning/ Operation & Maintenance - Community Facilitation / Sanitary Promotion 2) Equipments - Equipment required for activities - Office equipment 3) Training in Japan  2. The Tanzania Side 1) Counterparts - MoWI - BWO - RAS 2) Offices Spaces - Office space(MoWI) - Spaces for training 3) Budget for operation	Budget for the Project are secured (MoWI, the target regions and districts).  <b>[Pre-condition]</b> • Training and Capacity Building Unit in Division of Rural Water Supply, MoWI is established.  • WSDP launches in March 2007 on schedule.  • Decentralization policies on rural water supply sector are progressed.	

**[Abbreviations]**  
**RWSS:** Rural Water Supply and Sanitation, **WSDP:** Water Sector Development Programme, **CWSD:** Community Water Supply Division, **MoWI:** Ministry of Water and Irrigation, **DWST:** District Water and Sanitation Team, **BWO:** Basin Water Office, **RWST:** Regional Water and Sanitation Team, **WUE:** Water User Entity, **DWSP:** District Water and Sanitation Plan,





## Annex 4: Evaluation Grid with result

Evaluation Item	Evaluation Questions	Information/Indicators	[Note] Interview for Counter Personnel (C/P) and Japanese Expert (J/E) is basically based on the questionnaire
1. Project Achievement	<p>1-1 Achievement of Project Purpose</p> <p>Capacities of the target Districts providing RWSS services for rural communities are enhanced.</p>	<p>(Indicator 1)</p> <p>The data that shows the percentage (how many districts among 22 districts) of the DWSTs adopting selection procedures of candidate communities for the scoping survey based on the demand-responsive approach in the promotion phase in implementation of RWSSP. The information that suggests high possibility of reaching the target figure 80% by July 2010, if it has not been reached yet at the time of terminal evaluation.</p> <p>(Indicator 2)</p> <p>The data that shows the percentage (how many districts among 22 districts) of the DWSTs examining and making comments to progress reports and other outputs to be submitted by the Technical and Facilitation Service Providers within the period agreed in implementation of RWSSP. The information that suggests high possibility of reaching the target figure 80% by July 2010, if it has not been reached yet at the time of terminal evaluation.</p>	<p>According to the questionnaire survey for monitoring, the number of the DWST that adopts selection procedures of candidate communities for the scoping survey based on the demand-responsive approach (DRA) in the promotion phase is 9 (Kinonononi, Mkuranga, Lindi TC, Liwale, Nachingwea, Mtwara DC, Nyanyumbu, Newala and Tandahimba) out of 22 (40%). Although this is less than targeted figure, which is 18 out of 22 (80%), the rest of the Project targeted districts are practicing DRA at least partially. Moreover, all the training participants from DWST fully understood the importance of the DRA and all of them are determined to conduct selection procedures based on the demand-responsive approach in the promotion phase upon the next cycle of RWSSP in future.</p> <p>According to the questionnaire survey for monitoring, the number of the DWST that examines and makes comments to progress reports and other outputs to be submitted by the Technical and Facilitation Service Providers within the period agreed in implementation of RWSSP is 20 (except for Kibaha DC and Kibaha TC) out of 22 (90.9%). This is more than 18 out of 22 (80%), which is the target figure.</p>

<p>(indicator 3) The data that shows the percentage (how many districts among 22 districts) of the DWSTs updating information on water supply and sanitation conditions as well as operation and maintenance of existing water supply facilities in the district every year in implementation of RWSSP. The information that suggests high possibility of reaching the target figure 80% by July 2010, if it has not been reached yet at the time of terminal evaluation.</p>	<p>According to the questionnaire survey for monitoring, the number of the DWST that updates information on water supply and sanitation conditions as well as operation and maintenance of existing water supply facilities in the district every year in implementation of RWSSP is 21 (except for Kisarawe, biannual monitoring) out of 22 (95.4%). This is more than targeted 18 out of 22 (80%).</p>
<p>(indicator 4) The data that shows the percentage (how many districts among 22 districts) of the DWSTs integrating the strategies and activity plans on water supply, sanitation and hygiene promotion for households and schools into DWSP and annual plan in implementation of RWSSP. The information that suggests high possibility of reaching the target figure 80% by July 2010, if it has not been reached yet at the time of terminal evaluation.</p> <p>If there are any other supporting data to show the realization of the project purpose.</p>	<p>According to the questionnaire survey for monitoring, the number of the DWST that integrates the strategies and activity plans on water supply, sanitation and hygiene promotion for households and schools into DWSP and annual plan in implementation of RWSSP is 19 (86.3%, except for Temeke, Nanyumbu and Tandahimba). This is more than 18 out of 22 (80%), which is the target figure.</p>
<p>All the answers from 9 respondents are affirmative on the realization of the project purpose.</p>	

<p><b>Achievement of Outputs</b>  <b>1-2 Output 1</b>  Capacity of CWSD/MoWI for managing capacity development programme on RWSS is enhanced.</p>	<p>(Indicator 1-1) The information/data showing "Capacity development strategy for district, region and basin levels in implementation of RWSS projects is formulated within 6 months from the commencement of the Project in coordination with PMO-RALG and other actors" (Indicator 1-2) The information/data showing "Annual work plans of TCB Unit are formulated every year" (Indicator 1-3) The information/data showing "Activities are conducted by the counterpart personnel in accordance with the action plans attached to the annual work plan"</p>	<p>(Indicator 1-1) Capacity development strategy for district, region and basin levels in implementation of RWSS projects is formulated in the first/preparatory phase of the Project, that is within 6 months from the commencement of the Project, in coordination with PMO-RALG and other actors. This was already confirmed by the mid-term review team as "the capacity development strategy was formulated during the preparatory phase of the Project, and agreed among the Project Team and members of JCC in the 2nd JCC meeting in March 2008."  (Indicator 1-2) Annual work plans of TCB Unit are formulated every year. The annual work plan of TCB Unit for 2009/2010 was formulated in June 2009. It was, also, modified in September according to the reorganization of the CWSD.  (Indicator 1-3) Activities are conducted by the counterpart personnel in accordance with the action plans attached to the annual work plan. In the 4th phase of the Project, all the training courses have been successfully completed under the C/P's supervision. In another words, C/Ps conducted the project activities keeping the plan, schedule and outputs in mind.</p>
<p><b>1-3 Output 2</b>  A training system model for District Water and Sanitation Teams (DWST) in managing RWSS projects is established.</p>	<p>(Indicator 2-1) The information/data showing "Training plan is formulated within 9 months from the commencement of the project" (Indicator 2-2) The information/data showing "Monitoring plan is formulated within 9 months from the commencement of the project to record and analyze satisfaction, attainment of skills and knowledge, and behavior change of trainees as well as impact of the training plan" (Indicator 2-3) The information/data showing "Revision of training modular guides and development of course materials associated with training modular guides are finalized as the training package by July 2010"</p>	<p>(Indicator 2-1) As the mid-term evaluation team confirmed, training plan was formulated in the preparatory phase that is within 9 months from the commencement of the project. As of February in 2010, the 5th phase of the training was completed. The training plan was modified, if necessary, based on the lessons learned through the implementation experiences. It will eventually be compiled as the training package.  (Indicator 2-2) Monitoring plan is formulated upon completion of the first training phase in February 2008, that was within 9 months from the commencement of the project, to record and analyze satisfaction, attainment of skills and knowledge, and behavior change of trainees as well as impact of the training plan. The detail was agreed among C/Ps in the meeting in September 2008. The monitoring was conducted from the first to third as planned. The monitoring plan has been modified and been integrated as a part of the training system model. (Indicator 2-3) It can be said that Revision of training modular guides and development of course materials associated with training modular guides have been improved as the training plan. In the process of formulation of the training plan, existing training modules were examined and The course materials were prepared based on the existing ones, training curriculum associated with The training modular guides and course materials will be improved throughout the project activities  This model includes the user-friendly measures in preparation of the training curriculum/package</p>

<p><b>1-4 Output 3</b></p> <p>Capacities of the target Basin Water Offices (BWOs) for supporting Districts in managing RWSS projects are enhanced.</p>	<p>(Indicator 3-1) The information/data showing "The preliminary hydrogeological maps are distributed to all the target districts by BWO by the second training phase"</p> <p>(Indicator 3-2) The information/data showing "The updated hydrogeological data is distributed to all the target districts by BWO annually"</p>	<p>Indicator 3-1: The preliminary hydrogeological maps were actually distributed to all the target districts by BWO by the second training phase. The said maps were completed by the hydrogeological engineers in the both target BWOs and were distributed to 22, which are the all targeted, districts</p> <p>Indicator 3-2: It can be said that "The updated hydrogeological data has almost been distributed to all the target districts by BWO annually" Because the updating the preliminary hydrogeological maps is on-going. Specifically, RSC-BWO has already completed the updating while WR-BWO is currently collecting data for updating. Thus, the persons concerned think that this indicator will be completed by the end of the Project.</p>
<p><b>1-5 Output 4</b></p> <p>Capacities of Regional Water and Sanitation Teams (RWSTs) in the target Regions for supporting Districts in managing RWSS projects are enhanced.</p>	<p>(Indicator 4-1) The information/data showing "RWSPs are formulated in all the target regions by July 2010"</p> <p>(Indicator 4-2) The information/data showing "Quarterly monitoring reports submitted by the districts are reviewed and responded to the districts by RWSTs in all the target regions within one month from receipt of the reports"</p>	<p>Indicator 4-1: Preparation of RWSP is in progress in the target regions. Specifically, four regions are currently making efforts to collect the necessary data for the RWSP preparation. As a result of the training on RWSP for RWST members, conducted by the Project, the RWSP will be completed in all four regions by July 2010 based on the opinions from the persons concerned. The risk will be the delay of completion of DWSPs, on which RWSP depends.</p> <p>Indicator 4-2: The current status is almost achieving "Quarterly monitoring reports submitted by the districts are reviewed and responded to the districts by RWSTs in all the target regions within one month from receipt of the reports." As a result of the efforts, through the Project activities by putting emphasis on the significance of RWST's facilitation and monitoring LGAs, 13 districts received the comments on the Quarterly monitoring reports for 2008/2009. Based on such improvement, the persons concerned think the further development affirmatively towards eventual obtaining the target.</p>
<p><b>1-6 Output 5</b></p> <p>The project cycle and procedures of the RWSS reviewed through the Project are applied to implementation of RWSSP in the target districts.</p>	<p>(Indicator 5-1) The information/data showing "Community subprojects are formulated and designed in all the target districts based on advice and approval by RWST and BWO"</p> <p>(Indicator 5-2) The information/data showing "Proposals on the necessary revision for the existing RWSS project cycle and procedure are provided"</p>	<p>Indicator 5-1: Current situation is becoming to "Community subprojects are formulated and designed in all the target districts based on advice and approval by RWST and BWO." The number of the districts that received the comments on the planning of Sub projects for 2008/2009, from RWST, counts 13 (Kinondoni, Kilwa, Lindi DC, Lindi TC, Liwale, Nachingwea, Nanyumbu, Newala, Tandahimba, Kisarawe, Mafia, Mkuranga and Rufiji), also those districts that received comments from BWO counts 12 (Temeke, Kilwa, Lindi DC, Lindi TC, Liwale, Nachingwea, Ruungwa, Masasi, Nanyumbu, Tandahimbias, Bagamoyo and Rufiji).</p> <p>Indicator 5-2: Proposals on the necessary revision for the existing RWSS project cycle and procedure have already been provided.</p>

<p><b>1- 7 Achievement of Overall Goal (expected)</b>          (Achievement of Overall Goal is estimated, at the time of Terminal evaluation, based on the progress of project as planned towards the realization of overall goal over 3 to 5 years after the project completion. )</p>	<p>The information/data and opinions of the related persons that show the possibility of the achievement of the followings by 2015;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Coverage rate of improved water supply increased in the rural part of the target districts from 57.8% (Dec. 07) to 75.6%.</li> <li>2. Percentage of water supply points working for more than 6 months a year increases from 73.5% (Dec. 07) to 100% in the target districts.</li> <li>3. Number of legally registered Water User Entities (WUEs) increases compared to the present value in each target district.</li> <li>4. People who have access to improved sanitation in the target districts increases from X% to Y%.</li> </ol> <p>In addition to the above indicators, any information/data and opinions of the related persons that shows the possibility of the achievement of the overall goal: "RWSS services in the target districts are improved"</p>	<p>It was difficult to obtain the indicators for overall goal at the terminal evaluation, but the Project is on track towards the realization of the overall goal based on the information and opinion the evaluation team obtained from questionnaire as well as interviews to the related actors.</p> <p>Also some incidents that suggests future achievement. For example, interview to Kibaha DWST revealed that there is movement of registering the Water Users Entities. As for indicator 4, it turned out to be necessary to have common definition of the terminology such as "Improved Sanitation" among related organizations namely Ministry of Water and Irrigation, Ministry of Health, Ministry of Education and Statistical Bureau.</p> <p>Majority of respondents to the questionnaire are affirmative of eventual achievement although it takes 3-5 years.</p>
---	---	--

<p><b>1- 8 Achievement of Super Goal ( expected)</b> RWSS services in the mainland are improved under the WSDP by developing nationwide the training system to be established in the Technical Cooperation.</p>	<p>The information/data and opinions of the related persons that show the possibility of the achievement of the followings by 2025;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Coverage rate of improved water supply increases in the rural part of the mainland from 53% (2003) to 90%.</li> <li>2. Percentage of water supply points working for more than 6 months a year increases from 82% (Dec. 07) to 100% in the rural part of the mainland.</li> <li>3. People who have access to improved sanitation in the rural area of the mainland increases from 55% (Dec. 07) to Y%.</li> </ol> <p>In addition to the above indicators, any incidents and opinions of the related persons that show the possibility of the achievement of the super goal: "RWSS services in the mainland are improved under the WSDP by developing nationwide the training system to be established in the Technical Cooperation"</p>	<p>It was difficult to obtain the indicators for super goal at the terminal evaluation, but the Project is on track towards the realization of the super goal based on the information and opinion the evaluation team obtained from questionnaire as well as interviews to the related actors. Also some incidents that suggests future achievement. (e.g.: Inquiry from other regions that are not covered by the Project, Feedback of the Project proposal to PIM when it is revised in future)</p> <p>As for indicator 4, it turned out to be necessary to have common definition of the terminology such as "Improved Sanitation" among related organizations such as Ministry of Water and Irrigation, Ministry of Health, Ministry of Education and Statistical Bureau.</p>
<p><b>Actual Inputs</b> 1-9 Tanzanian Side</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* Personnel necessary for the Project</li> <li>* Necessary cost and facilities for the Project</li> </ul>	<p>Nine (9) staff, two(2) of which have been transferred, of relevant fields of the Project has been assigned. Seven (7), including Project Director and Project Manager, are on the list of counterpart personnel at the time of terminal evaluation. The necessary spaces for office plot of the Project have also been provided in the compound of MoWI.</p>

1-10 Japanese Side	* Japanese Experts	<p>Since the commencement of the Project in September 2007 until March 2010, 4 experts have been dispatched for the Project from Japan as it was planned. The function of each expert and their period assigned for the activities in Tanzania are as described below.</p> <p>18.33MM Chief Advisor/Community Water Supply Project Management  16.00MM Deputy Chief Advisor/ Water Resource Management/Water Supply Planning  16.50MM Community Water Supply Facility Planning / Operation &amp; Maintenance  20.00MM Community Facilitation / Sanitary Promotion  <u>70.83MM in Total</u></p> <p>5 counterpart personnel participated in the training in Japan.</p> <p>Machinery and equipment such as computer, printer and vehicle in total valued at 12,643,777 Japanese yen were provided for the Project till March, 2010.</p> <p>Also, a total amount of 117,286,380 Japanese yen was provided to supplement a portion of local expenditure for activities as of February, 2010.</p>
2-1 Progress of the activities	<p>Progress of the Project, reasons for the gap between current situation and the original plan, monitoring situation</p>	<p>Delay of RWSSP: The RWSSP has been delayed in implementation than the original schedule due to capacity constraints and lengthy procurement processes.</p>
2-2 Problems on implementation and solution process	<p>Problems on project implementation/management and solution process, follow up situation of the recommendations made by the mid-term evaluation team (Closer collaboration and Communication between CPs and Japanese Experts, Coordination and collaboration among various administrative actors)</p>	<p>The project team has been following the recommendations, made by the mid-term review. Due to its nature of problem, the problem can be resolved completely. However, situation has been improved and the project team is continuing their challenges.</p> <p>In order to better the working environment for smoother implementation of the Project, PC has been provided to each C/P.</p>
2-3 Coordination among the related organizations in the operational mechanism	<p>Administration structure</p> <p>Coordination among the concerned organizations</p>	<p>Some progress to follow the recommendation by the mid-term review, one of which was close collaboration between the counterpart organization and JICA experts, is made.</p> <p>Project's collaboration with the policy advisory function to the counterpart organization/MoWI: Good collaboration between the function of policy advisor to counterpart organization/MoWI and the function of the Project itself contributed to active exchange of the opinion as well as to sharing of the information on WSDP among donor community.</p>

2-4 Performance of C/P	Adequacy in quantity, allocation timing, qualification (experience)	Changes of Counterpart personnel at central level: The counterpart personnel who received the training in Japan have been transferred to the place that does not direct connection with the Project activities.
	Communication	The chief advisor as well as other JICA experts has strong points of holding network in rural water sector in Tanzania because of being well experienced in water sector in Tanzania. There used to be dispatched policy advisor as JICA expert to MoWI. From the 2nd year of the Project, this advisory function was allocated on the JICA experts. Good collaboration between the policy advisory function to counterpart organization/MoWI and the Project function itself contributed to active exchange of the opinion as well as to sharing of the information on WSDP among donor community.
	Initiative of C/P	C/Ps, including newly appointed, are active but they have time limitation stemmed from the balancing with other duties than the Project.
2-5 Ownership of Tanzanian implementing agency	Ownership of Ministry of Water and Irrigation (MoWI) for the Project	C/P in DAHR transferred to PCT (Program Coordination Team). If situation is positively analyzed, the outcome of the Project can be disseminated nationwide through PCT function. Some interviewees feel that capacity development should put more priority by managerial level of MoWI. The progress of CD in WSDP has been weak/delayed. Some pointed out that one of the reason for such delay is commitment from senior management of MoWI. At the same time, PS of MoWI puts emphasis on the ownership.

Evaluation Item	Evaluation Questions	Information/Indicators	
<p><b>3. Relevance</b></p> <p>To question whether the project purpose and overall goal are still in keeping with the priority needs and concerns at the time of evaluation</p>	<p>3-1 Necessity of this Project for the water sector (rural water supply and sanitation) in Tanzania</p>	<p>Opinions on the necessity of the Project in terms of Consistency of capacity development strategy focusing on the LGAs with the water sector policy, rural water supply and sanitation program in the decentralization, donor coordination.</p> <p>Consistency with the target group's (staff of water related organizations) needs and ultimate beneficiaries=local residents who live in the target districts)</p>	<p>Reasons for Relevance have not been changed since the mid-term review. The rural water supply is given high priority in National Water Policy (NAWAP), the National Strategy for Growth and Reduction of Poverty and Millennium Development Goals. Project purpose and Overall goal/super goal are consistent with the strategies shown in WSDP to realize such policies.</p> <p>Reasons for Relevance have not been changed since the mid-term review. The assistance needs on capacity development exists obviously since the fully qualified human resources for functional rural water supply at district level is not yet sufficient.</p>
	<p>3-2 Consistency with the Japanese aid policy</p>	<p>Japanese aid policy for Tanzania</p>	<p>Reasons for Relevance have not been changed since the mid-term review. Strengthening the local governments' capacity for functional water supply is also consistent with Japanese ODA policy which puts emphasis on promotion of rural water supply according to Water Sector Development Programme (WSDP) under the above said policies.</p>
	<p>3-3 Adequacy of the project approach/strategy</p>	<p>Opinions on dual approach both to the central level including Basin/Region and the district (LGA) level in order to improve the rural water supply</p> <p>Opinions on the project impact by the approach focusing on the capacity development / organization development</p>	<p>According to the answered questionnaire, the persons concerned think that approach to intervene both level of center and LGA is quite appropriate.</p> <p>Majority of the answers to the questionnaire is affirmative as follows;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*Appropriate CD since RUWASA-CAD puts emphasis on the collaboration among related organizations based on individual as well as organizational Capacity Development.</li> <li>*CD is indispensable factor like construction of the water supply facilities.</li> <li>*Japanese technical cooperation has comparative strong points because Japan has assistance experiences in rural water sector in Tanzania.</li> <li>* Well experienced JICA experts have been utilized for the Project.</li> <li>*Japan's experiences are reflected to the content of the training. Also, practical method such as OJT and study tour utilizing such assistance experiences are employed.</li> </ul>

<p><b>4. Effectiveness</b></p> <p>The extent to which the project purpose has been achieved, or is expected to be achieved, in relation to the output produced by the project</p>	<p><b>4-1 Achievement level of Project Purpose</b></p> <p><b>4-2 Relations between outcomes and outputs</b></p> <p><b>4-3 Inhibiting factors, promoting factors. Relations between outcomes and external conditions.</b></p>	<p>See project achievement</p> <p>Data showing that the Project purpose has been achieved as a result of the realization of the outputs</p> <p>Inhibiting factors and promoting factors</p>	<p>See Project Achievement.</p> <p>Majority of persons concerned think that outputs are enough to achieve the project purpose. Output 2 contributes significantly because it intervened directly to LGA level.</p> <p>Promoting factors: • High needs of the beneficiaries/ counterpart personnel/organization The readiness and high motivation of DWSTs as well as RWSTs to improve their performance in RWSSP to support communities, consequently the high needs of CWSD as a counterpart organization led to the high pace to reach the project purpose.</p> <p>Inhibiting factors: There is no inhibiting factor towards the achievement of the project purpose. It is, however, worthy of mentioning the delay of the RWSSP that needs to be considered for the future project planning.</p>
<p><b>5. Efficiency</b></p> <p>Productivity of the implementation process: how efficiently the various input are converted into output and outcome</p>	<p><b>5-1 Adequacy of Input</b></p> <p>Adequacy of allocation of C/P, facilities, operational costs</p> <p>Management of C/P</p> <p>Adequacy of inputs such as Japanese experts, receiving C/P in Japan for training, provision of equipment</p> <p><b>5-2 Achievement of Output</b></p> <p><b>5-3 Operational structure/supporting mechanism of the Project</b></p>	<p>Adequacy of allocation of C/P, facilities, operational costs</p> <p>Management of C/P</p> <p>Adequacy of inputs such as Japanese experts, receiving C/P in Japan for training, provision of equipment</p> <p>See project achievement</p> <p>Current situation on the Community Water Supply Division/Ministry of Water and Irrigation and JCC</p> <p>Situation of supporting system in Japan (JICA Tanzania Office, JICA HQs in Tokyo)</p>	<p>Inputs by both Japanese and Tanzanian sides were mostly necessary and sufficient to produce the intended output.</p> <p>JICA experts feel that inputs in terms of C/Ps is not sufficient for the following reasons;</p> <p>* Input, such as per diem, for the C/P's activities is not yet enough although cost for the activities came to be covered from second year by MoWI, *The manpower is less than the expected duties of the Project activities.</p> <p>JICA experts think that working style at MoWI sometimes ad hoc.</p> <p>*Some C/Ps who were transferred after receiving the training in Japan can not fully participate in the project activities.</p> <p>*Only two (2) after the training in Japan can fully attend the project activities.</p> <p>See project achievement</p> <p>The JCC that is held in March is the 4th JCC.</p> <p>All persons concerned feel that they are supported well.</p>

<p><b>6. Impact</b></p> <p>Intended and unintended, direct and indirect, positive and negative changes as a result of the project</p>	<p><b>6-1 Achievement of Overall Goal (expected)</b></p>	<p>"1. Project Achievement"</p>	
	<p><b>6-2 Positive impacts other than the overall goal</b></p>	<p>Cases of positive spread effect</p>	<p>Until the time of terminal evaluation, the other districts in other regions that are not covered by the Project made some inquiries on the CD training system model that the Project proposed. CWSD tries to prepare the plan to replicate the same type of training of RUWASA-CAD in other regions.</p> <p>Training participants who are the member of DWST deliver what he/she learned from RUWASA-CAD training to their colleagues who could not attend the training.</p> <p>Currently, each district is preparing training program to implement RWSSP under WSDP. The content might vary depending on the needs and capacity assessment of each district. It is obvious that some districts will take the RUWASA-CAD produced training under RWSSP of WSDP.</p>
	<p><b>6-3 Negative impact</b></p>	<p>Existence of negative spread effects</p>	<p>Nil.</p>
<p><b>7. Sustainability</b></p>	<p><b>7-1 Institutional/Political sustainability</b></p>	<p>Operational structure to continue the activities, the position of CWSD(Community Water Supply Division)/MoWI, WRD(Water Resources Division)/MoWI and DWST(District Water and Sanitation Team) after completion of the Project</p> <p>The integration of the Project outcome into the RWSSP</p>	<p>It is technically/theoretically possible to replicate the training system model to other regions because it is training model that aims CD by promoting collaboration among MoWI, Regional Office, BWO, and district. Reviewed RWSS cycle will be feedback to the manual(PIM) that will be revised in 2012.</p>
	<p><b>7-2 Organizational/Financial sustainability</b></p>	<p>Budget allocation, possibility of continuous financial support (Common fund)</p>	<p>Currently, each district is preparing training program to implement RWSSP under WSDP. The content might vary depending on the needs and capacity assessment of each district. It is obvious that some districts will take the RUWASA-CAD produced training system for their own training under WSDP.</p>

<p><b>7-3 Technical sustainability</b></p>	<p>The transferred technology (content of the training) has been accepted by the training participants. They are not only satisfied with the content of the trainings but also obtained the skills and knowledge. Behavior changes to some extent are appearing at both individual and organizational level such as described below.</p> <p>Individual Behavior Change ---Examples---</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Project Management: A checklist for monitoring introduced in the training is used in the actual works. PCM method was adopted when DWST promoted new projects.</li> <li>• Hygiene promotion: Active involvement in school sanitation program and formation of WATSAN committees at community level.</li> <li>• Teamwork: Each member of DWST respects teamwork better than before. Even if District Water Engineer is absent from the office, other members can discuss and execute activity plans.</li> <li>• Collaboration with various actors: With considering importance of utilization of the extension workers in RWSS projects, DWST started to develop an inventory of the council extension workers working in various sector in the district. DWST is going to organize an orientation for the extension workers on working as a team.</li> </ul> <p>Organizational Behavior Change ---Examples---</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• DRA: DWST has been facilitating Demand Responsive Approach (DRA) in the promotion phase before commencement of the 1st cycle of WSDP in all monitored Local Government Authorities.</li> <li>• Management of output: All the members of DWST were involved in examination and preparation of comments on reports that were submitted by TSP/FSP.</li> <li>• Monitoring: Improvement in monitoring. For example, in Masasi DC, information is updated quarterly. Water Engineer Offices at the wards and Water Technicians at community level are involved in collection of data from all the communities.</li> <li>• Integrated Approach: Integration of various sectors. For example, because of the teamwork of</li> </ul>
<p>The extent of technical transfer/acceptance to the Tanzanian staff (administrators/technician) of CWS (Community Water Supply Division)/MoWI, WRD (Water Resources Division)/MoWI and DWST (District Water and Sanitation Team)</p>	<p>5 out of 301 participants were transferred to completely out of RWSSP activities. At central level, 2 out of 7 counterpart personnel have been transferred to out of the project related areas. These two are the participants in the training in Japan.</p> <p>DWST members who received the training provide the session where they convey what they learned from the training to those who could not attend the Project training. Some of the staff at BWO wanted to have TOT so that they can be trainers' in the training.</p> <p>Well maintained.</p>
<p>Remaining level of Tanzanian staff trained of MoWI (Ministry of Water and Irrigation) and the related organizations</p> <p>Plan for the training/capacity development of more Tanzanian staff by the trained Tanzanian staff by themselves</p> <p>Ability to maintain the equipment</p>	<p>Well maintained.</p>

<b>7-4 Promoting factors, inhibiting factors to sustainability</b>	<b>Promoting factors, inhibiting factors to sustainability of the project outcome, if any.</b>	<b>Inhibiting factors against sustainability is further delay of RWSSP. Promoting factor is WSDP budget allocation for further training, revision of PIM.</b>
--	--	---

Annex 5: List of Experts Dispatched from Japan

Name	Function	Period	MM of the 1st year (September 2007 - March 2008)	MM of the 2nd year (April 2008 - March 2009)	MM of the 3rd year (April 2009 - March 2010)			
Yuichi HATA	Chief Advisor/Community Water Supply Project Management	9/9/2007 - 6/12/2007	4.50	6.33	7.50			
		26/1/2008 - 15/3/2008						
		4/5/2008 - 17/6/2008						
		1/9/2008 - 14/11/2008						
		5/1/2009 - 15/3/2009						
		9/5/2009 - 21/7/2009						
		21/8/2009 - 31/1/2009						
		8/11/2009 - 12/11/2009						
		5/1/2010 - 15/3/2010						
		18/10/2007 - 15/3/2008				5.00		
24/5/2008 - 7/7/2008								
20/9/2008 - 3/12/2008		6.00						
15/1/2009 - 15/3/2009								
20/9/2009 - 12/12/2009								
1/9/2010 - 15/3/2010			5.00					
Mikiko AZUMA	Community Water Supply Facility Planning/Operation and Maintenance	17/11/2007 - 14/2/1008	3.00	6.50	7.00			
		1/7/2008 - 8/8/2008						
		10/9/2008 - 14/12/2008						
		15/1/2009 - 15/3/2009						
		16/5/2009 - 29/6/2009						
		26/8/2009 - 28/11/2009						
		5/1/2010 - 15/3/2010						
		9/9/2007 - 21/12/2007				5.00	7.50	7.50
		26/1/2008 - 15/3/2008						
		4/5/2008 - 17/7/2008						
17/10/2008 - 15/3/2009								
3/6/2009 - 3/9/2009								
4/11/2008 - 15/3/2010								
Total			17.50	26.33	27.00			

**Annex 6: List of Equipment procured for the Project****Table 1. List of Office Equipment**

<b>Equipment</b>	<b>Description</b>	<b>QTY</b>
A3 Color Printer	HP5550N	1
UPS	APC650VA	4
Projector	<u>SONY VPL-ES4</u> Multimedia Projector	1
LAPTOP Computer	<u>Toshiba Satellite</u> CPU: Intel Core Duo at 1.73 RAM: 1GB HDD: 120GB Drive: DVD-RW Multi Drive Layer OS: Windows XP Pro	2
DESKTOP Computer	<u>DELL Optiplex 320N SMT</u> CPU: Intel Core Duo at 3.00 RAM: 2GB HDD: 120GB*2 Drive: DVD Combo Drive OS: Windows XP Pro Monitor: TFT	1
Copy Machine	CANON iR C3380	1
Laptop Computers	TOSHIBA Laptop U400-17MDC206	5
Stabilizers	Samlex Stabilizer 1000VA	5

**Table 2. Two Vehicle for the Project**

<b>Vehicles</b>	<b>QTY</b>
- NISSAN PATROL (DFP4766, DFP4765)	2

**Table 3. List of Equipment and Software**

<b>Equipment</b>	<b>Description</b>	<b>QTY</b>
Fax	HP Laserjet All in One (Fax) 3050	1
LAN Network	Switch D-Link	1
Word, Excel, Access	MS Office2007*3	3
GIS Soft	Arc View 9.2 Spatial Analyst	3
Stabilizer	Soltek Voltage Stabilizer 2000VA	1
Generator	ELEMAX7000DX	1

Table 4. List of Accessories for the Procured Equipment

Item	QTY
PRNHPCLJ55 HP COLOR LASERJET PRINTER 5550N with (Printer)	- Start Manual hp Color Laser Jet 5550, 5550n, 5550dn - Installation network - Cable no Lh-6p, USB Cable - CD Hp Color LaserJet - UPSAPC650V APC 650VA BACK UPS5
PRNHPLJ3050 HO LASERJET PRINTER 3050 (Printer, Fax, Scanner)	- Cable for telephone line and Fax - Adaptor for UK usage - USB Cable - CD - Manual Book
SONYVPLES4 SONY MULTIMEDIA PROJECTOR VPL ES 4 PROJECTOR (Projector)	- Projector Manual - VGA Cable - Power Cable - Remote Control
D-link 8Port Dlinkn8Port Switch	5
ACCESSPOINT ACCESSPOINT-2100AP(Wireless Access Point)	- Manual Book DWL-2100AP - CD – DWL-2100AP - Power Adopter - Ethernet Cable
DELLOPT320 DELL OPTIPLEX 320	- WINDOW XP PROGRAM LICENCED
TOSSATA 135- TISHIBA SATTELLITE A 135 – S4527 (2 Laptops)	- 2 Window XP Program & CD - 2 TOSHIBA CD - 2 TOSHIBA VONGO - 2 Power Cable - TOSHIBA Catalogue - TFTDELL 17 “S DELL 17” TFT SCREEN MONITOR - CD - MSOFFICE 200 MICROSOFT OFFICE 2007 LICENCED - MICRWINXPP WIN XP PRO SOFTWARE O/S
Arc GIS 3 set	- Business Email reply - ArcGIS Desktop shortcuts - ArcGIS 9 Media kit - ArcGIS 9 Using ArcGIS desktop - ArcGIS 9 what is ArcGIS 9.2? - ArcGIS 9 Media Kit

## Annex 7: Local cost of the Project (Japanese side)

Item	1st year (Japanese Fiscal Year) (achieved:JPY)	2nd year (Japanese Fiscal Year) (achieved:JPY)	3rd year (Japanese Fiscal Year) as of 13 Feb. 2010 (achieved:JPY)	Total (JPY)	Total (TZS)
1 General expenses	9,029,025	22,504,317	20,859,488	52,392,830	785,381,932
1.1 Labor cost	2,513,852	4,434,022	4,127,056	11,074,930	166,016,040
1.2 Equipment maintenance cost	68,802	169,504	365,225	603,531	9,047,084
1.3 Consumable cost	884,142	628,496	814,005	2,326,643	34,876,975
1.4 Transportation & travel cost	2,062,033	9,048,817	3,718,574	14,829,424	222,296,867
1.5 Communications cost	0	102,932	145,920	248,852	3,730,355
1.6 Document preparation cost	89,481	178,922	175,024	443,427	6,647,084
1.7 Rental cost (office space and venue for seminar)	395,096	356,764	0	751,860	11,270,574
1.8 Local training cost	3,015,619	7,584,860	11,513,684	22,114,163	331,496,972
2 Procurement cost (Project equipment)	4,145,363	0	700,854	4,846,217	72,646,035
3 Procurement cost (Vehicles)	7,797,560	195,447	0	7,993,007	119,817,223
4 Report preparation cost (Printing&binding)	70,000	0	0	70,000	1,049,318
5 Report preparation cost (Other than printing&binding)	11,000	0	0	11,000	164,893
6 Contract with local consultants	12,686,000	16,092,004	19,546,342	48,324,346	724,394,334
7 Contract with local NGOs	0	0	0	0	0
8 Construction cost	3,844,427	93,577	0	3,938,004	59,031,696
Total (tax exclusive)	37,583,375	38,885,345	41,106,684	117,575,404	1,762,485,451

Annex 8 a : List of Counterpart Personnel

Name	Position in MoWI	Responsibility in the Project	Assigning Tasks of the Project	Current Status
Mr. Christopher N. Seyi	Permanent Secretary, MoWI	Project Director	---	Engaging (from beginning of the project)
Mr. J.A. Mukumwa	Director of Community Water Supply Division (CWSD), MoWI	Project Manager	---	Engaging (from beginning of the project)
Mr. Amani Mafuru	Assistant Director of CWSD, MoWI	Counterpart Team Leader	Project coordination	Engaging (from August 2009)
Mr. Goyagoya J. Mbenna	Staff of CWSD, MoWI	Planning of the Training	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Selection of training consultants</li> <li>• Preparation of training materials</li> <li>• Update contents of RUWASA-CAD homepage</li> <li>• Preparation of presentation for seminar</li> </ul>	Transferred (August 2009)
Ms. Neema Siara	Staff of CWSD, MoWI	Implementation of the Training	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Management of training</li> <li>• Update of training resources database</li> <li>• Preparation of training materials</li> </ul>	Engaging (from May 2008)
Ms. Kirenga D.A.T	Staff of CWSD, MoWI	Monitoring and Evaluation of the Training Results	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Training evaluation</li> <li>• Monitoring in pilot LGAs</li> <li>• Management of Training</li> <li>• Selection of training consultants</li> <li>• Update contents of RUWASA-CAD homepage</li> </ul>	Engaging (from beginning of the project)
Mr. John Daniel	Staff of Division of Administration and Human Resources, MoWI	Monitoring and Evaluation of the Training Results	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Training evaluation</li> <li>• Monitoring in pilot LGAs</li> <li>• Management of Training</li> </ul>	Transferred (January 2010)
Ms. Diana Kimbute	Staff of Division of Water Resource, MoWI	Planning, implementation and evaluation of training for BWOs	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Preparation of Training for BWOs</li> <li>• Implementation of Training for BWOs</li> <li>• Evaluation of Training</li> <li>• Monitoring of BWOs</li> <li>• Update contents of RUWASA-CAD homepage</li> </ul>	Engaging (from March 2009)
Ms Flora W. Mleje	Staff of Division of Administration and Human Resources, MoWI	Monitoring and Evaluation of the Training Results	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Training evaluation</li> <li>• Monitoring in pilot LGAs</li> <li>• Management of Training</li> </ul>	Engaging (from February 2010)

**Annex 8 b.: List of Counterpart Personnel Trained in JAPAN**

Name	Division	Duty position	Sex	Age
OLE SIARRA Neema Alexander	Community Water Supply Division, MoWI	Civil engineer	female	47
MBENNA Goyagoya John	Community Water Supply Division, MoWI	Engineer, operation and maintenance	male	51
KIRENGA Dialista Appia	Community Water Supply Division, MoWI	Community development officer	female	44
GUMBI John Daniel	Division of Administration and Human Resources, MoWI	Administrator	male	35
KIMBUTE Diana John	Water Resources Division, MoWI	Hydrologist	female	32

## Annex 9: Project Cost Borne by Tanzanian Side

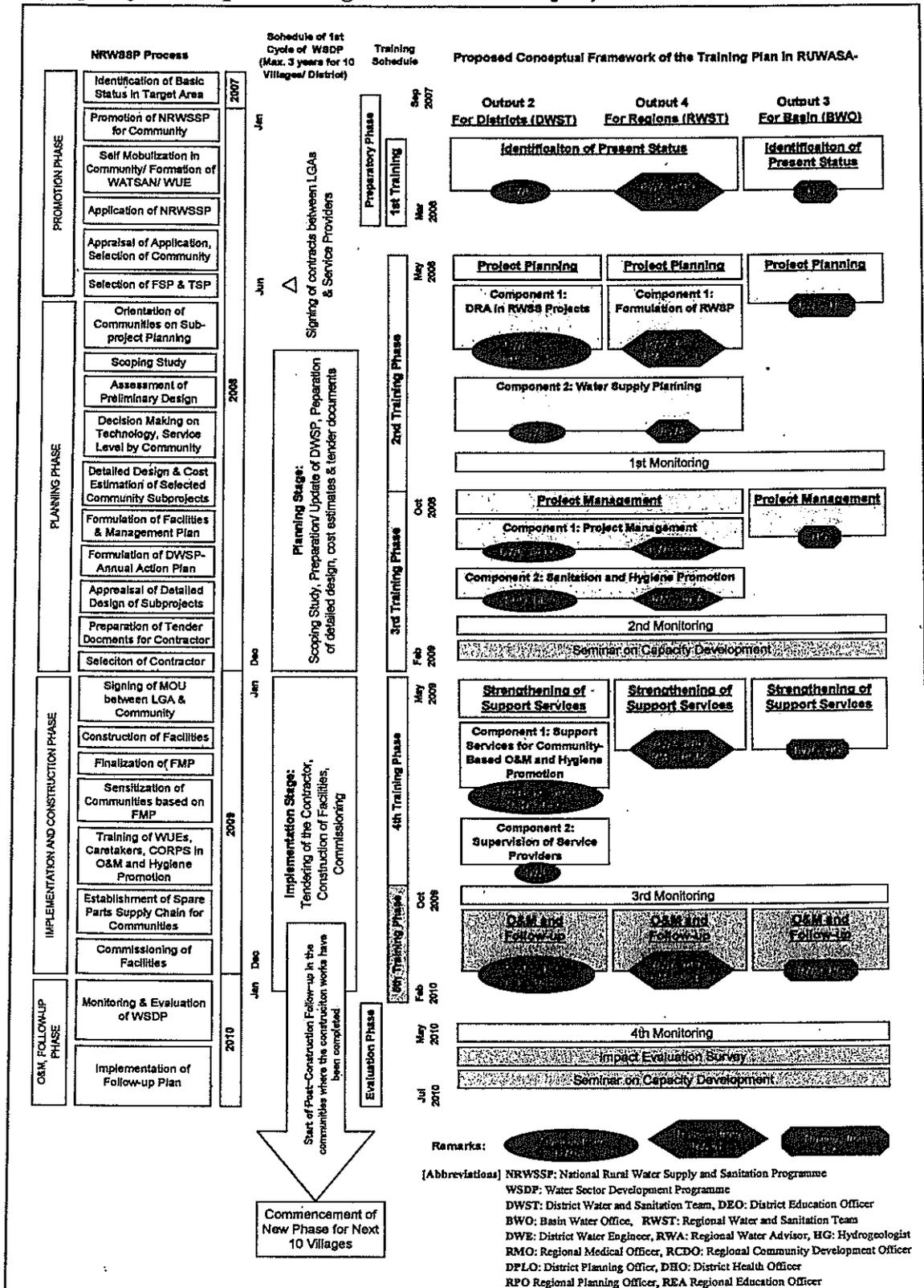
(Prepared by CWSD, MoWI)

(TZS)

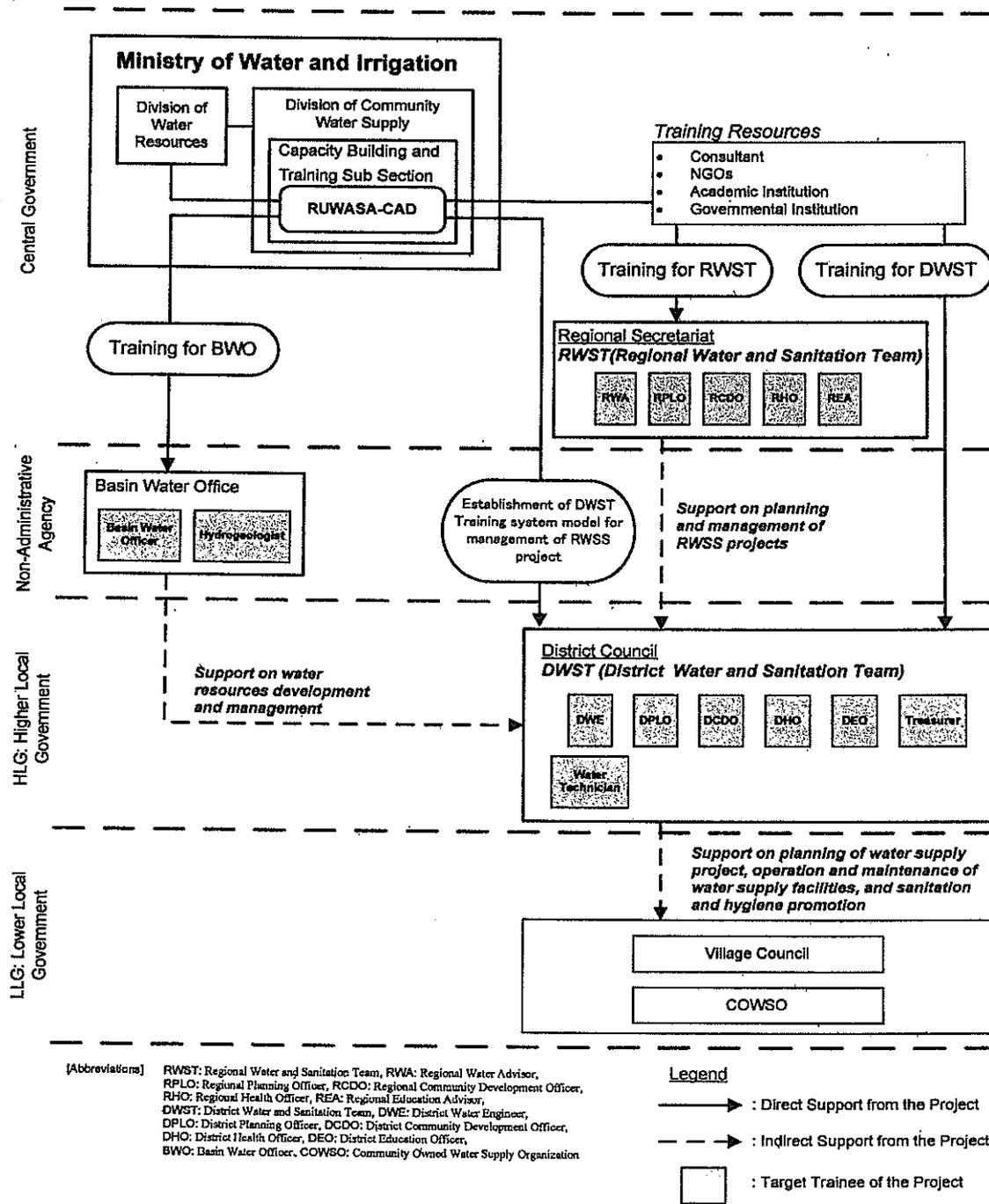
	Cost Item	1st Fiscal Year of the Project (Sep. 07 - Mar. 08)	2nd Fiscal Year of the Project (May 08 - Mar. 09)	3rd Fiscal Year of the Project (May 09 - Mar. 2010)	Total Amount
1	Cost for Training				
1.1	1st Training Phase (Feb. 2008)				
	Allowance of the Counterpart	780,000			780,000
1.2	2nd Training Phase (Jun.-Jul. 2008)				
	Allowance of the Counterpart		1,170,000		1,170,000
1.3	3rd Training Phase (Nov. 2008)				
	Allowance of the Counterpart		1,290,000		1,290,000
1.4	4th Training Phase (Jul.-Sep. 2009)				
	Allowance of the Counterpart			3,520,000	3,520,000
1.5	5th Training Phase (Dec. 2009 - Jan. 2010)				
	Allowance of the Counterpart			1,360,000	1,360,000
	<b>Sub-Total</b>	<b>780,000</b>	<b>2,460,000</b>	<b>4,880,000</b>	<b>8,120,000</b>
2	Cost for Monitoring Survey				
2.1	1st Monitoring Visit (Sep.-Oct. 2008)				
	Allowance of the Counterpart		595,000		595,000
2.2	2nd Monitoring Visit (Jan. 2009)				
	Allowance of the Counterpart		690,000		690,000
2.3	3rd Monitoring Visit (Oct. 2009)				
	Allowance of the Counterpart			440,000	440,000
	<b>Sub-Total</b>	<b>0</b>	<b>1,285,000</b>	<b>440,000</b>	<b>1,725,000</b>
3	Cost to Organize JCC Meetings				
3.1	1st JCC Meeting (Sep. 2007)				
	Allowance of the Counterpart (RWA, BWO)	1,038,000			1,038,000
3.2	2nd JCC Meeting (Mar. 2008)				
	Allowance of the Counterpart (RWA, BWO)	1,464,500			1,464,500
3.3	3rd JCC Meeting (Oct. 2008)				
	Allowance of the Counterpart (RWA, BWO)		661,000		661,000
3.4	4th JCC Meeting (Mar. 2009)				
	Allowance of the Counterpart (RWA, BWO)		1,050,000		1,050,000
3.5	5th JCC Meeting (Mar. 2010) <sup>*1</sup>				
	Allowance of the Counterpart (RWA, BWO)			1,890,000	1,890,000
	<b>Sub-Total</b>	<b>2,502,500</b>	<b>1,711,000</b>	<b>1,890,000</b>	<b>6,103,500</b>
4	Costs to Organize RUWASA-CAD Seminar (Feb. 2009)				
4.1	Allowance of the Counterpart		120,000		120,000
4.2	Allowance of the participants from RS/LGA/BWO		13,136,000		13,136,000
4.3	Transport of the participants		17,006,000		17,006,000
	<b>Sub-Total</b>	<b>0</b>	<b>30,262,000</b>	<b>0</b>	<b>30,262,000</b>
5	Electricity, Telephone, Water for the Project Office				
5.1	Electricity	1,499,400	2,142,000		3,641,400
5.2	Telephone				0
5.3	Water	21,000	30,000		51,000
	<b>Sub-Total</b>	<b>1,520,400</b>	<b>2,172,000</b>	<b>0</b>	<b>3,692,400</b>
6	Others	0	0	0	0
	<b>Sub-Total</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
	<b>Total</b>	<b>4,802,900</b>	<b>37,890,000</b>	<b>7,210,000</b>	<b>49,902,900</b>

\*1: Estimated amount

# Annex10: Training System Model (Capacity Development Programme of the Project)



**Annex 11: Conceptual Diagram of the Project**



## 添付資料2: プロジェクトデザインマトリックス (PDM 2)

**プロジェクト名:** 村落給水・衛生事業実施・運営維持管理能力強化計画  
**実施期間:** 2007年9月-2010年7月  
**対象地域:** ダルエスサラーム州、コースト州、リンデイ州、ムトラワラ州の全22県  
**実施機関:** 水・灌漑省  
**ターゲットグループ:** 水・灌漑省コミュニティ給水局及び水資源局、ワミ・ルプ流域管理事務所、ルブマ・サザンコースト流域管理事務所の職員、4州行政事務所及び22地方自治体において村落給水・衛生事業に携わる職員

プロジェクトの要約	指標	入手手段	外部条件
<p><b>【スーパージョー】</b>                      プロジェクトで実践された研修体制が水セクター開発プログラム (WSDP) の中で制度化され、実施されることによって、タンザニア本土(ザンジバルを除く大陸部)の村落給水・衛生サービスが向上する。</p>	<p>2025年までに、                      1. 改善された水源を利用できる人口がタンザニア本土の村落部で53% (2003) から90%に増加する。                      2. タンザニア本土村落部において、年間計6ヶ月以上稼働している給水ポイントの割合が82% (Dec07) から100%に向上する。                      3. 改善された衛生施設 (トイレ) を利用する人々が55% (Dec. 07) からY%に増加する。</p>	<p>1. 水セクターレビューに提出されるセクター業績報告書                      2. セクター業績報告書                      3. セクター業績報告書</p>	<p>プロジェクトで実践した体制が、WSDP の中で制度化される。</p>
<p><b>【上位目標】</b>                      1. 対象県の村落給水・衛生サービスが向上する。</p>	<p>2015年までに、                      1. 改善された水源を利用できる人口が対象県の村落部で57.8% (Dec07) から75.6%に増加する。                      2. 対象県において、年間計6ヶ月以上稼働している給水ポイントの割合が73.5% (Dec07) から100%に向上する。                      3. 法的に登録された水利用者組織 (WUE) の数が各対象県で現状値より増加する。                      4. 対象県において、改善された衛生施設 (トイレ) を利用する人々がX%からY%に増加する。</p>	<p>1. セクター業績報告書                      2. セクター業績報告書                      3. 県によるモニタリング報告書                      4. セクター業績報告書</p>	<p>RWSSP が計画通りに進行する。</p>
<p><b>【プロジェクト目標】</b>                      1. 対象県の新規村落給水事業実施・村落給水施設の運営維持管理体制が強化される。</p>	<p>RWSSP 実施において、下記の行動を実践する DWST が、2010年7月までに対象県の80% (18 県) に達する。                      1. 事業形成段階において、基礎調査 (scoping survey) 候補村落の選定手続きに Demand-Responsive Approach を採用する。                      2. TSP 及び FSP から提出された進捗報告書、その他の成果品に対して、双方で合意された期間内に精査しコメントを返す。                      3. 県の給水・衛生状況及び既存給水施設の維持管理状況に係る情報を毎年更新する。                      4. 家庭及び学校を対象とする村落給水・衛生普及に係る戦略と活動計画が DWSP と年間計画に示される。</p>	<p>1. 県による村落からの要請書の審査記録                      2. サービスプロバイダーから提出された報告書に対する県の審査・コメント記録                      3. 県によるモニタリング報告書                      4. DWSP 及び年間投資計画</p>	<p>研修を受けた人材が異動しない。                      RWSSP が計画通りに進行する。</p>
<p><b>【成果】</b>                      1. 水・灌漑省コミュニティ給水局による村落給水・衛生に関するキャンペーンデザインレビューアップメント計画の管理能力が強化される。                      2. 村落給水・衛生事業の実施について、県給水・衛生班 (DWST) の能力向上のための研修体制のモデルが構築される。                      3. 村落給水・衛生事業の実施について、流域管理事務所 (BWO) が県を支援する能力が強化される。</p>	<p>1-1. 地方給水・衛生事業の実施に係る県、州、流域の各レベルの人材育成戦略が、プロジェクト開始後6ヶ月以内に PMO-RALG 他関係者との調整の下で策定される。                      1-2. TCB ユニットの年間活動計画が毎年策定される。                      1-3. 年間活動計画に添付された行動計画に基づき、カウンターパートにより活動が実施される。                      2-1. プロジェクト開始後9ヶ月以内に研修計画が策定される。                      2-2. 研修対象者の研修に対する満足度、技術・知識の修得状況、行動変容及び研修のインパクトを記録・分析するためのモニタリング計画がプロジェクト開始後9ヶ月以内に策定される。                      2-3. 研修モジュールガイドの改訂とその内容に沿った新しい教材類の準備が行われ、2010年7月までに研修パッケージとして完成される。                      3-1. 第2研修フェーズまでに水理地質学系が流域管理事務所から全対象県に配布される。                      3-2. 更新された水理地質学系が流域管理事務所から全対象県に毎年配布される。</p>	<p>1-1. プロジェクト進捗報告書                      1-2. プロジェクト進捗報告書                      1-3. 行動計画に示された活動の成果品、プロジェクト進捗報告書                      2-1. プロジェクト進捗報告書                      2-2. プロジェクト進捗報告書                      2-3. 作成された研修モジュールガイド及び教材類                      3-1. プロジェクト進捗報告書                      3-2. プロジェクト進捗報告書</p>	<p>研修を受けた人材が異動しない。                      RWSSP が計画通りに進行する。</p>

Version: PDM 2  
作成日: 2009年3月2日

<p>4. 村落給水・衛生事業の実施について、州給水・衛生班 (RWST) が県を支援する能力が強化される。</p>	<p>4-1. 2010年7月までに全対象州でRWSPが策定される。 4-2. DWSTから四半期モニタリング報告書を受領後、1ヶ月以内に全対象州のRWSTが内容を確認し、県へのフィードバックを行う。</p>	<p>4-1. 作成されたRWSP 4-2. 県から提出されたモニタリング報告書に対するRWSTの審査・コメント記録</p>	<p>本プロジェクトに対する水・灌漑省、対象州、県の予算が確保される。</p>
<p>5. プロジェクトを通して見直された地方給水・衛生事業 (RWSS) の実施サイクル及び手続きが、対象県での地方給水・衛生サブプログラム (RWSSP) の実施に適用される。</p>	<p>5-1. 全対象県において、村落から要請されたサブプロジェクトがRWST及びBWOの指導・承認に基づき計画・設計される。 5-2. 地方給水・衛生事業のプロジェクトサイクルと手続きに関し、必要な改訂についての提案が準備される。</p>	<p>5-1. 要請されたサブプロジェクトの基本設計及び詳細設計の審査記録 5-2. プロジェクトチームから水・灌漑省に提出された提案書</p>	<p>本プロジェクトに対する水・灌漑省、対象州、県の予算が確保される。</p>
<p><b>【活動】</b> 1-1 対象地域の州・県職員の能力及び研修ニーズを評価する。 1-2 州・県職員に対する人材育成の実施状況を検証する。 1-3 研修コースに関する情報収集を行う。 1-4 対象地域の人材育成計画をWSDP/RWSSP実施体制に沿って策定する。 1-5 上記1-4で作成した人材育成計画に基づき、年間活動計画を作成する。 1-6 州・県職員のための既存の地方給水・衛生事業実施マニュアル、ガイドラインを整理し、改良する。 1-7 研修コンサルタントの委託契約管理を含む研修コースの実施監理を行う。 1-8 対象県により実施される地方給水・衛生事業の進捗状況を見直す。 1-9 上記1-6、1-7、1-8の結果に基づき、年間活動計画を見直す。 1-10 本プロジェクトにより改訂された研修モジュール及び教材を、制度開発/キャパシティビルディング作業部会及び他の機会を通じてステークホルダーに紹介する。 1-11 WSDP事業実施マニュアル (PIM) 及び関連ガイドラインを本プロジェクトで活用する中で得た教訓を、水・灌漑省による同マニュアル、ガイドラインの改訂・改良作業に反映させるべく提言を行う。 2-1 対象県のDWSTを対象とした地方給水・衛生事業の実施及び運営維持管理と衛生普及に関するコミュニティ支援についての既存の研究計画を改良する。 2-2 上記2-1の研究計画に基づき、研修カリキュラムと教材を作成する。 2-3 上記2-1、2-2に基づき、DWSTの研修を実施する。 2-4 モニタリング対象県への訪問を通じて、地方給水・衛生事業の実施管理に係るDWSTの業務改善について指導を行う。 2-5 研修計画の改善のため、研修対象者の技術・知識の修得状況ならびに行動変容、研修計画のインパクトをモニタリング・評価する。 3-1 流域管理事務所による有効活用のため、既存の水資源データをレビューし、整理する。 3-2 流域管理事務所に対して、水資源データの解析・加工について指導する。 3-3 県の地方給水・衛生事業実施に対する流域管理事務所の支援サービス改善のため、流域管理事務所を対象とした研修計画を策定する。 3-4 上記3-3に基づき流域管理事務所の研修を実施する。 3-5 流域管理事務所による対象県での地方給水事業支援状況をモニタリングする。 4-1 RWSTによる対象県での地方給水事業実施支援及びモニタリング実施状況を確認する。 4-2 州行政事務所、水・灌漑省、首相府地方自治省、流域管理事務所および対象の県の間の情報伝達の仕組みを調査する。 4-3 上記4-1、4-2の調査結果に基づき、RWSTを対象とした研修計画を策定する。 4-4 上記4-3の研究計画に基づき、RWSTの研修を実施する。 4-5 RWSTによる対象県での地方給水事業支援状況をモニタリングする。 5-1 既存の地方給水・衛生事業のプロジェクトサイクルと手続きを見直し、必要な改訂についての提案を準備する。 5-2 プロジェクトサイクル及び手続きの改訂事項が対象県でのWSDP実施に適用されるよう、水・灌漑省コミュニティ給水局、州行政事務所、流域管理事務所、県の間の合意形成を促進する。 5-3 プロジェクトの進捗状況を、WSDP組織開発・組織強化作業部会にて定期的に報告する。</p>	<p>【投入】 1. 日本側 1) 専門家 チーフアドバイザー/地方給水計画管理 水資源管理/給水計画 地方給水施設設計画/運営維持管理 住民参加/衛生普及 2) 資機材 活動に必要な資機材 事務機器 3) 本邦研修、第三国研修  2. カンパニー側 1) カンパニーの配置 水・灌漑省、流域管理事務所、州事務所 2) 事務所 事務所 (水・灌漑省内) 研修場所 3) 運営予算</p>	<p>【前提条件】 • TCB ユニットが水・灌漑省地方給水局に設立される。 • WSDP が予定通り 2007 年 3 月に開始される。 • 地方給水セクターの地方分権化が進行する。</p>	<p>本プロジェクトに対する水・灌漑省、対象州、県の予算が確保される。</p>

**【略語】**

WSDP: 水セクター開発プログラム, RWSS: 地方給水・衛生, RWSSP: 地方給水・衛生サブプログラム, MoWI: 水・灌漑省, CWSD: コミュニティ給水局, TCB Unit: 研修・能力開発ユニット, BWO: 流域管理事務所, RWST: 州給水・衛生班, RWSP: 州給水・衛生班, DWSP: 県給水・衛生班, DWST: 県給水・衛生計画, WUE: 水利用者組織, PMO-RALG: 首相府地方自治省









添付資料4 評価資料4

評価グリップ：タンザニア国村落給水事業実施・運営維持管理強化計画終了時評価調査用

【注】C/Pと専門家へのインタビューはアンケート(質問票)にもとづく【凡例】C/P＝カウンターパート

評価項目	調査項目	必要な情報・データ	情報源・情報収集方法
1. プロジェクト実績	1-1 プロジェクト目標達成度	<p>「対象県の新規村落給水事業実施・村落給水施設の運営維持管理体制が強化される」</p> <p>Capacities of the target Districts providing RWSS services for rural communities are enhanced.</p>	<p>プロジェクト資料、C/P・専門家へのインタビュー、アンケート 関連資料(県による村落からの要請書の審査記録)</p>
		<p>(指標1) RWSSP実施において、「事業形成段階において、基礎調査(scaping survey)候補村落の選定手続きにDemand-Responsive Approachを採用する」ことを実践するDWSST(県給水・衛生班)が、対象県の何%(22県中の何県)であるかというデータ。終了時評価時点で達成されていない場合は、2010年7月までに80%(18県)に達する可能性を示す情報。</p> <p>(指標2) RWSSP実施において、「TSP(技術系コンサルタント)及びSP(ソフト系コンサルタント)から提出された進捗報告書、その他の成果品に対して、双方で合意された期間内に精査しコメントを返す」ことを実践するDWSST(県給水・衛生班)が、対象県の何%(22県中の何県)であるかというデータ。終了時評価時点で達成されていない場合は、2010年7月までに80%(18県)に達する可能性を示す情報。</p> <p>(指標3) RWSSP実施において、「県の給水・衛生状況及び既存給水施設の維持管理状況に係る情報を毎年更新する」を実践するDWSSTが、対象県の何%(22県中の何県)であるかというデータ。終了時評価時点で達成されていない場合は、2010年7月までに80%(18県)に達する可能性を示す情報。</p> <p>(指標4) RWSSP実施において、「家庭及び学校を対象とする村落給水・衛生普及に係る戦略と活動計画がDWSSTと年間計画に示される」を実践するDWSSTが、対象県の何%(22県中の何県)であるかというデータ。終了時評価時点で達成されていない場合は、2010年7月までに80%(18県)に達する可能性を示す情報。</p>	<p>プロジェクト資料、C/P・専門家へのインタビュー、アンケート 関連資料(県によるモニタリング報告書)</p> <p>プロジェクト資料、C/P・専門家へのインタビュー、アンケート 関連資料(DWSP及び年間投資計画)</p> <p>プロジェクト資料、C/P・専門家へのインタビュー、アンケート 関連資料(県によるモニタリング報告書)</p>
	アウトプットの達成度	<p>1-2 アウトプット1 水灌漑省コミュニティ給水局による村落給水・衛生に関するキャパシティプロジェクトアップメント計画の管理能力が強化される</p> <p>1-3 アウトプット2 村落給水・衛生事業の実施について、県給水・衛生班(DWSST)の能力向上のための研修体制のモデルが構築される</p> <p>1-4 アウトプット3 村落給水・衛生事業の実施について、流域管理事務所(BWO)が県を支援する能力が強化される</p> <p>1-5 アウトプット4 村落給水・衛生事業の実施について、州給水・衛生班(RWST)が県を支援する能力が強化される</p>	<p>プロジェクト資料(プロジェクト進捗報告書)、C/P・専門家へのインタビュー、アンケート 関連資料(行動計画に示された活動の成果品)</p> <p>プロジェクト資料(プロジェクト進捗報告書)、C/P・専門家へのインタビュー、アンケート 関連資料(作成された研修モジュールガイドおよび教材類)</p> <p>プロジェクト資料(プロジェクト進捗報告書)、C/P・専門家へのインタビュー、アンケート 関連資料(プロジェクト進捗報告書)、C/P・専門家へのインタビュー、アンケート</p>
		<p>上記の指標以外にプロジェクト目標の達成を示す何らかの根拠となる情報が、あれば。</p> <p>(指標1-1)「地方給水・衛生事業の実施に係る県、州、流域の各レベルの人材育成戦略が、プロジェクト開始後6ヶ月以内にPMO-RALG他関係者との調整の下で策定されたことを示す情報・データ」 (指標1-2)「TCB(訓練教育)ユニットの年間活動計画が毎年策定され」て示す情報・データ」 (指標1-3)「年間活動計画に添付された行動計画に基づき、カウンターパートにより活動が実施され」て示す情報・データ」</p> <p>(指標2-1)「プロジェクト開始後9ヶ月以内に研修計画が策定され」たことを示す情報・データ」 (指標2-2)「研修対象者の研修に対する満足度、技術・知識の修得状況、行動変容及び研修のインパクトを記録・分析するためのモニタリング計画がプロジェクト開始後9ヶ月以内に策定され」たことを示す情報・データ」 (指標2-3)「研修モジュールガイドの改訂とその内容に沿った新しい教材類の準備が行われ、研修パッケージとして完成され」たこと、もしくは2010年7月までに完成される予定であることを示す情報・データ」</p> <p>(指標3-1)「第2研修フェーズまでに水理地質予察区が流域管理事務所から全対象県に配布され」たことを示す情報・データ」 (指標3-2)「更新された水理地質予察区が流域管理事務所から全対象県に毎年配布され」たことを示す情報・データ」</p> <p>(指標4-1)「全対象県でRWSSPが策定され」たか、まだの場合は2010年7月までに、策定される予定であることを示す情報・データ」 (指標4-2)「DWSSTから四半期モニタリング報告書を受領後、1ヶ月以内に全対象県のRWSTが内容を確認し、県へのフィードバックを行う」状態になっていることを示す情報・データ」</p>	<p>プロジェクト資料(プロジェクト進捗報告書)、C/P・専門家へのインタビュー、アンケート 関連資料(行動計画に示された活動の成果品)</p> <p>プロジェクト資料(プロジェクト進捗報告書)、C/P・専門家へのインタビュー、アンケート 関連資料(作成された研修モジュールガイドおよび教材類)</p> <p>プロジェクト資料(プロジェクト進捗報告書)、C/P・専門家へのインタビュー、アンケート 関連資料(プロジェクト進捗報告書)、C/P・専門家へのインタビュー、アンケート</p> <p>プロジェクト資料、C/P・専門家へのインタビュー、アンケート 関連資料(作成されたRWSP＝州給水・衛生計画、県から提出されたモニタリング報告書に対するRWSTの審査・コメント記録)</p>

<p>1-6 アウトプット5 プロジェクトを通して見直された地方 給水・衛生事業(RWSS)の実施サイ クル及び手続が、対象県での地方 給水・衛生サブプログラム(RWSPP) の実施に適用される</p>	<p>(指標5-1)「全対象県において、村落から要請されたサブプロジェクトがRWST及びBWCの指導・承認に基づき計画・ 設計される」状態になっていることを示す情報・データ。 (指標5-2)「地方給水・衛生事業のプロジェクトサイクルと手続が連続し、必要な改訂についての提案が準備される」 状態になっていることを示す情報・データ。</p>	<p>プロジェクト資料、C/P・専門家へのインタビュー、アンケート 関連資料(要請されたサブプロジェクトの基本設計及び詳細設計の審査 記録、プロジェクトチームから水灌漑省に提出された提案書)</p>
<p>1-7 上位目標の達成見込み (終了時評価時点では、「上位目標」 がプロジェクト終了3~5年後に達成 されるべく、プロジェクトが計画・実施 されているかを確認する。) 「対象県の村落給水・衛生サービス が向上する」</p>	<p>2015年までに、以下のことが達成されることを示唆する向からの情報・データ、関係者の意見。 1. 改善された水源を利用できる人口が対象県の村落部で57.8%(Dec07)から75.6%に増加する。 2. 対象県において、年間計6ヶ月以上稼働している給水ポイントの割合が73.5%(Dec07)から100%に向上する。 3. 法的に登録された水利用者組織(WUE)の数が各対象県で現状値より増加する。 4. 対象県において、改善された衛生施設(トイレ)を利用する人々がX%からY%に増加する。 上記の指標以外で、上位目標である「対象県の村落給水・衛生サービスが向上する」ことを示唆する事象や関係者 の意見。</p>	<p>C/P・専門家へのインタビュー、アンケート、水利用者組織(地域住民) の意見を代弁する関係者の意見 C/P・専門家へのインタビュー、アンケート</p>
<p>1-8 スーパーゴール達成見込み 「プロジェクトで実践された研修体制 が水セクター開発プログラム(WSDP) の中で制度化され、実施されること によって、タンザニア本土(サンシハル を除く大陸部)の村落給水・衛生サー ビスが向上する」</p>	<p>2025年までに、以下のことが起こりうることを示唆する情報・データ、関係者の意見。 1. 改善された水源を利用できる人口がタンザニア本土の村落部で53%(2003)から90%に増加する。 2. タンザニア本土村落部において、年間計6ヶ月以上稼働している給水ポイントの割合が82%(Dec07)から100%に向 上する。 3. 改善された衛生施設(トイレ)を利用する人々が55%(Dec. 07)からY%に増加する。 上記の指標以外で、スーパーゴールである「プロジェクトで実践された研修体制が水セクター開発プログラム (WSDP)の中で制度化され、実施されることによって、タンザニア本土(サンシハルを除く大陸部)の村落給水・衛生 サービスが向上する」ことを示唆する事象や関係者の意見。</p>	<p>C/P・専門家へのインタビュー、アンケート C/P・専門家へのインタビュー、アンケート</p>
<p>投入の実績</p> <p>1-9 タンザニア側</p> <p>1-10 日本側</p>	<p>* プロジェクトに必要な人員 * プロジェクト実施に必要な経費と施設 * 専門家派遣 * 研修員受入(≒日本でのカウンターパート研修) * 供与資機材</p>	<p>プロジェクト資料 プロジェクト資料 プロジェクト資料 プロジェクト資料 プロジェクト資料</p>
<p>2. 実施プロセス</p>		<p>プロジェクト進捗状況、計画と乖離した理由、モニタリング状況</p>
<p>2-2 実施上の課題とこれまでの 取り組み</p>	<p>プロジェクトの運営実施上の課題、これまでの取り組み、中間評価団により提言された内容のフォローアップ状況 (C/Pと専門家チームのより密な連携、各機関の連携強化)</p>	<p>プロジェクト資料、C/P・専門家へのインタビュー、アンケート プロジェクト資料、C/P・専門家へのインタビュー、アンケート</p>
<p>2-3 実施体制と関係部署との連携 状況</p>	<p>実施体制図 連携状況</p>	<p>プロジェクト資料 C/Pと専門家へのインタビュー、アンケート</p>
<p>2-4 C/Pの業務遂行状況</p>	<p>数・配置時期・能力(経験)の適切性 コミュニケーション能力 C/Pの積極性</p>	<p>C/P・専門家へのインタビュー、アンケート C/P・専門家へのインタビュー、アンケート C/P・専門家へのインタビュー、アンケート C/P・専門家へのインタビュー、アンケート</p>
<p>2-5 相王国実施機関の主体性</p>	<p>水灌漑省のプロジェクトに対するオーナーシップ</p>	<p>C/P・専門家へのインタビュー、アンケート</p>





## 添付資料 5: 県・州給水衛生チーム能力強化聞取りメモ

### 1. コースト州給水衛生チーム (RWST)

---

日時: 2010年2月19日(金) 10:00 - 11:10

場所: コースト州行政府

出席者:

- 1) Mr. Alphonse Mganga、州水アドバイザー (RUWASA-CAD 研修3回参加)
- 2) Mr. Dennis Kamzola、州保健官 (但し、去年まで県レベルの Executive Director) (RUWASA-CAD 研修2回参加)

面談者: 古谷(評価分析コンサルタント)、地紙(地方給水コンサルタント)

同行者: 加藤専門家

---

研修効果および RUWASA-CAD 実施の効果を図るために、コミュニティへの給水事業支援に関して以下の点を参加型のグループインタビューにて聞き取った。

- 県 (DWST) を支援する「州 (RWST) の能力」は強化されたと自己評価している。

県 (DWST) を支援する州 (RWST) の目から見た県給水班 (DWST) 能力強化度合評価  
(本プロジェクトへの参加前後の比較)

- 全員が改善したと認識している。
- 改善の度合いは大きいと認識している。
- 研修の質には大いに満足している。

具体的な業務改善点 (本プロジェクトへの参加前後の比較)

- データ収集の改善: フォーマット (そのものは以前から存在したもの) を用いて、四半期報告書用に県からデータを集め、それを編集するといった一連の業務がより効率的になり改善した。効率的に行うためには、県や水利用者組合と連携することが重要で、訪問したり e-メールによる連携を含めて効果的に行えるようになった。
- 県給水班としての会合が開催されるようになった。
- 資源の共有: 車両、パソコン、フォトコピー、機材や情報を共有するようになった。
- 情報の共有: 特に情報の共有においては、県水エンジニアや水アドバイザーなどが情報を関係者みなに提供し、関係者の持つ情報量が同じように保たれている。
- チームワーク: 上述のことは、かつては縦割りであった体制がよりチームワークを用いて働くようになったことの表れで、団結を示すものである。
- 計画の実践的理解の深化: 計画立案やオペレーション&メンテナンスなどもともと言葉と理論としては知っていたが、その実践的内容、本質的理解をできるようになった。
- 住民給水委員会の強化業務改善: 住民給水委員会のアドボカシー会合が開催される際

に同行するなどの活動を行うようになった。

自立発展性を確保するために

- 本研修は、自分の業務のもともと目指していることに向かって鋭敏化してくれたところにその意義がある。業務を目的機能別にきちんと遂行されているかどうか確認することで（研修で学びえたことが日常業務に統合されているかどうかを見ることで）自立発展性が確保、確認できるのではないか。
- チームとして業務を遂行することを学びえた。この点を維持することが、RUWASA-CAD で学びえたこと、効果を継続させることにつながると思う。

各自が埋め込んだ具体的業務改善点

(1) 州水アドバイザーの感じている点

Improvement in data collection through DWST 県給水衛生班を通じてのデータ収集改善	Strengthening of WATSAN committees and DWSTs through meetings 会合を通しての県給水衛生班や衛生委員会の強化	Improve in project planning (Project Planning Participation) プロジェクト計画(プロジェクト計画への参画)の改善
Improvement in rapport meeting (Consolidating) 信頼関係構築会合(団結)	<b><u>Improvement in my daily performance to support DWSTs</u></b> <b><u>研修水衛生チームを支援する自分自身の業務の改善点</u></b>	Improve in fund contribution and management as well as labors (manpower) 労働力と同様に資金提供とその運用の点で改善した。
Improvement in community participation in water & sanitation projects (Advocacying the DWSTs) 水衛生プロジェクトへのコミュニティの参加度合いが高まった (県給水衛生班によるアドボカシーの結果)	Increase in Community awareness in hygiene and hand washing (Training Conducted together with DWST to communities) 衛生や手洗いにに関するコミュニティの意識が高まった	Improve in planning O&M schedule/timetable. O&M スケジュール/タイムテーブルの計画が改善

(2) 州保健官の感じている点

Common sharing of experience among of the members メンバー間の経験共有	Awareness of the constraints and solving among the DWST's team in the Districts 制約を良く認識し、県の中の県給水衛生班内にて問題解決	Sharing of resources 資源の共有(車両、パソコン、コピー機、情報など)
	<b><u>Improvement in my daily performance to support DWSTs</u></b> <b><u>研修水衛生チームを支援する自分自身の業務の改善点</u></b>	The importance of the Team work among the members チームメンバー間でのチームワークの重要性の認識高まり
	Meeting occasion monthly 月例会合の機会ができた	Improving communication among the team members メンバー間でのコミュニケーションが向上

## 2. キバハ県（コースト州）県給水衛生チーム（DWST）

---

日時:2010年2月19日(金) 10:00 – 11:10

場所:コースト州キバハ県行政府

出席者:

- 1) Eng.Christopher T. Mudua、県水エンジニア（RUWASA-CAD 研修3回参加）
- 2) Ms.Johari Masengi、県コミュニティ開発官（RUWASA-CAD 研修3回参加）
- 3) Mr.Mwebesa Mchunguzi、県教育官（RUWASA-CAD 研修2回参加）
- 4) Ms.Letti A. Suma、県計画官（RUWASA-CAD 研修1回参加）
- 5) Frderick N.Mwiyanja、県農業官（RUWASA-CAD 研修には一度も参加していない）

面談者:古谷(評価分析コンサルタント)、地紙(地方給水コンサルタント)

同行者:加藤専門家

---

県行政官長に表敬した後、

研修効果および RUWASA-CAD 実施の効果を図るために、コミュニティへの給水事業支援に関して以下の点を参加型のグループインタビューにて聞き取った。

### 県給水衛生チームとしての自分自身の業務が改善したか否かを自己評価

(本プロジェクトへの参加前後の比較)

- 全員が改善したと認識
- 県教育官と県計画官は、改善度合いが大きいのみならず、出発点（本プロジェクト参加当初の能力）をほぼ皆無に等しい状態と自己判断していた。その理由は、以前は、自分の担当業務に「水、給水」ということを一切認識していなかったからとのこと。
- 研修に参加していない県農業官の改善度自己評価が比較するとやや少なめであった。また、本プロジェクト以前からの持ちえた知識をより高く自己評価していた。

### 具体的な業務改善点 (本プロジェクトへの参加前後の比較)

- 報告書作成の時間管理・改善：以前から報告書を書くという事は行っていたが、より素早くタイミングよく効率的に書けるようになった。
- 業務への取り組み熱意上昇：モチベーションが上がりより熱心に業務に励むようになった。それは、研修がモチベーションを上げる力を持つ結果であり、それにはファシリテーターや教材などの魅力も含まれる。
- 学校衛生クラブ (School Sanitation Club) の設置：キバハ県に 36 校（小学校）ある内の半数にあたる 18 校が、学校衛生クラブを設置した。学校長を対象に水と保健、学校衛生（衛生的トイレ設置含む）についてなど指導する。
- フォローアップ：自立発展性を確保するために、フォローアップの重要性を再認識しこれを行っている。良い例としてキトモド村が例に挙げられる。

- (研修には直接参加していないが) 今日の観点から、水資源保存のために努力し業務遂行するようになった。

#### 自立発展性・インパクトに関して

- 自立発展性を確保するために、ことあるごとに、住民（保健衛生委員会や水利用者組合を含む）との対話を重視し、話をするようにしている。
- 研修効果の拡大：研修の受講が終わると、会をもって受講者は県の他の職員に対して（トレーナーになって）受講して学んできた内容を伝えるようにしている。
- 4州以上に広げていくことが重要と認識している。

#### その他

- 3年前に58%であったキバハ県の衛生施設へのアクセス率は、現在61%になっている。当県の（独自に立てている）県としての2012年までの目標値は、確か80%であったと思うが、トレンドはその目標値に向かって上昇傾向にある。
- 県開発官のコミュニティ訪問の頻度は、平均すると月3回程度。グッドガバナンスや保健衛生、HIVエイズなど様々な会合に参加する目的で訪問する。
- グッドプラクティスの例として、ナジキトモンド村は、まだ登録していないが、維持管理など上手くいっている例である。ちなみに、給水施設は日本の無償資金協力で整備された。

#### 各自が埋め込んだ具体的業務改善点

##### (1) 県水エンジニアの感じている点

Number of Projects Appraisals プロジェクト審査の数	Data collection from the community コミュニティからのデータ収集	Number of visit to the community as a team チームとしてコミュニティを訪問する回数
Facilitation of WATSAN 村給水委員会のファシリテーション	<b><u>Improvement in my daily performance to support Communities</u></b> <b><u>コミュニティを支援する県給水衛生チーム自分自身の業務の改善点</u></b>	Timely working to the community issues コミュニティの問題にタイムリーに取り組むこと
Training of Artisan 大工(熟練工)(水の?)の訓練	Timely progress report writing 時宜をえた進捗報告書作成	Number of Project completed 完了したプロジェクト数

##### (2) 県コミュニティ開発官が感じている点

Improve my facilitation skills in WSS activities 自分自身のファシリテーション・スキル上昇	Participating in community meetings コミュニティ会合への参加	Advocate for good hygiene and sanitation practices 衛生とトイレ実践のアドボカシー
Train the communities with the council concerning water and sanitation issues 水と保健に関する委員会とともにコミュニティを訓練する	<b><u>Improvement in my daily performance to support Communities</u></b> <b><u>コミュニティを支援する県給水衛生チーム自分自身の業務の改善点</u></b>	Train WATSAN committees on importance of contributing towards water services 村給水委員会を訓練する

Work as team in decision making towards WSS issues in the districts チームとして意思決定	Proactive self motivated and hardworking as a result of being a member of DWSR and train from RUWASA-CAD	Data collection Analysis and report writing skills improved データ収集及び分析と報告書作成スキルが改善した
---	--	--

(3) 県教育官の感じている点

Establishment of interschool/class competition about sanitation and hygiene 保健衛生に関してクラスを超えたコンテストを行うようになった。	Provision of education on school Health and Sanitation 学校保健、学校衛生についての教育を行うようになった。	Awareness on relationship between water and Health Education 水と健康教育の関係について意識が高まった。
Acquisition of Slides (?) スライドの獲得(?)	<b><u>Improvement in my daily performance to support Communities</u></b> <b><u>コミュニティを支援する県給水衛生チーム自分自身の業務の改善点</u></b>	
	For Water, school Health and sanitation club 水のために、学校保健衛生クラブが設置された。	

(4) 県計画官の感じている点

Create awareness in Monitoring water projects 水プロジェクトのモニタリングに対する意識が高まった。	Support in preparing water projects 水プロジェクトの策定に支援できるようになった。	Support in sustaining their water projects 水プロジェクトの維持・持続性に積極的になった。
Support in follow up their water projects after completion 給水施設完成後に水プロジェクトをフォローすることに積極的になった。	<b><u>Improvement in my daily performance to support Communities</u></b> <b><u>コミュニティを支援する県給水衛生チーム自分自身の業務の改善点</u></b>	Support in getting funds from development partners for water project 水プロジェクトのためにドナーから資金を獲得することに対して積極的になった。
Support in maintaining their water projects 自分たちの水プロジェクトを維持することに支援的になった。	Support in identifying their needs for water projects 水プロジェクトのニーズを同定することに支援的になった。	WATSAN committee support in forming water users groups (WUE) 村給水衛生委員会が水利用者組合設立を支援するようになった。

(5) 県農業官の感じている点(研修には参加していない)

Conservation of Water sources 水資源保全	Water Projects participatory in implementation 水プロジェクトの参加型による実施	Mpwapwa(県名) experience on DWST strategies to sensitize the community in developing /initializing water projects 水プロジェクト開始及び実施するための県給水衛生班のコミュニティ意識啓発戦略に関するムプワプワ県の経験
Water supply projects sustainability	<b><u>Improvement in my daily performance to support</u></b>	

水供給プロジェクトの自立発展性	<u>Communities</u> <u>コミュニティを支援する県給水衛生チーム自分自身の業務の改善点</u>	
-----------------	---	--

### 3. ダルエスサラーム州給水衛生チーム(RWST)

---

日時: 2010年2月24日(水) 13:50 - 15:00

場所: ダルエスサラーム州局庁舎

出席者: ダルエスサラーム州給水衛生班 4名(内1名は最近の任命で本プロジェクト受講経験なし)

- 1) Mr. Badru Abdunuru、州コミュニティ開発官(研修3回参加)
- 2) Mr. Thomas Iachoo、水アドバイザー(研修5回参加)
- 3) Mr. Richard Katiti、州保健官(研修4回参加)
- 4) Mr. Reuatus Manoga、水門地質学者(最近任命され、本プロジェクト受講経験なし)

聞き取り者: タンザニア側評価調査団員 + 日本側評価調査団

同行者: RUWASA-CAD 畑専門家

---

知事(女性)(Ms. Mdimbo A.)に表敬訪問した後、別室にて、ダルエスサラーム州水衛生班4名から、研修効果およびRUWASA-CAD実施の効果を図るために、コミュニティへの給水事業支援に関する県および州の能力強化に関して以下の点を参加型のグループインタビューにて聞き取った。

- 県(DWST)を支援する「州(RWST)の能力」は強化されたと自己評価している。

県(DWST)を支援する州(RWST)の目から見た県給水班(DWST)能力強化度合評価  
(本プロジェクトへの参加前後の比較)

- 全員が改善したと認識している。
- 改善の度合いは大きいと認識している。
- 写真参照のこと(RUWASA-CAD参加前後の能力評価比較)

具体的な業務改善点 (本プロジェクトへの参加前後の比較)

- 計画立案能力の向上: プロジェクト・デザインやプロジェクト・サイクルについての知識が増加。また、計画立案プロセスをチームとして共有するようになった。
- チームワーク強化: かつては実施していなかった四半期ごとのチームとしての会合を、本プロジェクトの研修を受け、州衛生班として実施するようになった。当然ながら、もともとと同じ建物内で働く職員として顔は知っていたし、各自の業務をこなすことはしていたが、連動するチームとして機能することがなかった、という意味。
- 県とのコミュニケーション: 電話(最も多い手段)、手紙、電子メール(特にデータ収集の際)、訪問(平均すると四半期に3回程度)などの手段により、市(当該州の場合は管轄しているのはMunicipality)と連携している。データ提出には苦労もあるが、提出期限を決めたり、上述のコミュニケーションを通じて回収。
- O&M 審査能力が高まった。
- モニタリングがかってより効果的に実施できるようになった。

### 自立発展性を確保するために

- まだ弱いと思われる点として、市への介入のベストタイミングは容易ではない（但し、時宜を得たコミュニケーションは改善した点の一つ）。会合を一つ開催するにも、関係者の日程調整をはかり、首尾よく連携することは、各自が本業務以外の業務を抱えており忙しいことから大変なことである。
- この点を克服するには、キャパシティ・ディベロップメントを図っていくしかない。
- 新しく県水衛生班に任命される新人に対しては、会合をもったり、研修教材にアクセスを持たせる（いつでも見られるようにする）などの手段により、本プロジェクトで研修を受けた者の成果を広く他の職員に広げるようにしている。

### その他

- JICA が支援するプロジェクトに参加する魅力は、持ち合わせている知識をブラッシュアップできること、チームとして働くことができること、その精神（チームワークスピリット）を持てることである。
- 先方からの質問として、今般の 4 州だけでなく、将来的に他州に広げていくことになると思うが、プロジェクトの将来はどうなるのか、という点に言及があった。また、現在いる職員のキャパシティ・ディベロップメントはできつつあるものの、空席になっているポジションもあるが、予算が執行されなければリクルートできないなど様々な課題が山積みである。
- そのような点（課題）について心を砕く人間がいること自体が、自立発展性とインパクトがあることの証明ともいえること、また、本終了時評価調査の結果を受け、本プロジェクトの成果としてまとめられる研修パッケージとしてさらに、拡大努力がなされていく方向性があることについて示唆された。

### 各自が埋め込んだ具体的業務改善点

#### (1)(職名無記名)

Project Planning プロジェクトの計画		
Knowledge on project management skills プロジェクト・マネジメントのスキル	<b><u>Improvement in my daily performance to support Municipal WSTs</u></b> <b><u>県給水衛生チームを支援する州給水衛生チーム自分自身の業務の改善点</u></b>	Factor for monitoring and evaluation / follow up モニタリング・評価及びフォローアップ
Teamwork チームワーク	Communication on timely basis 時宜を得たコミュニケーション	Knowledge on project design considerations and project cycle プロジェクト・サイクルを考慮したプロジェクト・デザインに関する知識

(2) (職名無記名)

Skills on what should be looked when doing M & E.  モニタリング & 評価を実施する際に着目すべき点を見出すスキル	To provide backstopping on M & E based on activities done.  行われた活動をもとにモニタリング & 評価を行う際の支援提供	
Ability to assess whether the project identified is viable in support / serving people problem. 住民が問題解決するにあたり、同定されたプロジェクトが実施可能かどうか審査する能力がついた。	<b><u>Improvement in my daily performance to support Municipal WSTs</u></b> <b><u>県給水衛生チームを支援する州給水衛生チーム自分自身の業務の改善点</u></b>	Knowledge on project management  プロジェクト・マネジメントに関する知識
Ability to assess O & M plan of the Municipal whether it is realistic or not, and what input should be considered when preparing O & M. 市の運営維持管理計画について、現実的なものかどうかを審査する能力がついた。また、同時に必要な資金が投入されなければならないことも理解した。	Time work spirit  期限と時間を守る精神	

(3) (職名無記名)

To improve water sanitation through by using Community Involvement.  コミュニティの参画を得ることで、水衛生を改善すること	To make sure all water source are protected to avoid grass contamination.  土壌汚染を避けるために全水源を確実に保護すること	Through by Community Involvement, every household should be pay usage of water consumption and Operation and Maintenance. 住民参画を通して、各家庭が水の消費と水施設の運営維持管理に注意を払わなければならない。
Through by Community Participation Cost Sharing  コミュニティの参画を通じたコストシェアリング	<b><u>Improvement in my daily performance to support Municipal WSTs</u></b> <b><u>県給水衛生チームを支援する州給水衛生チーム自分自身の業務の改善点</u></b>	To support MWSI have a good Project of Water Sanitation.  市給水衛生チームが優良な水衛生プロジェクトを持てるように支援する。

#### 4. テメケ市(ダルエスサラーム州)給水衛生チーム(MWST)

---

日時:2010年2月24日(水) 15:30-16:30

場所:テメケ市庁舎

出席者:Temeke 市給水衛生班 4名

- 1) Mr.Azizi Namanga、市水アドバイザー(代理?)
- 2) Mr. George Vahaye、市教育官
- 3) Ms.Hosana Ngonyadi、市コミュニティ開発官
- 4) Ms. Dasy Mijinga、市計画官

聞き取り者:タンザニア側評価調査団員+日本側評価調査団

同行者:RUWASA-CAD 畑専門家

---

市行政官長は業務時間が過ぎていたことから会えなかった。

研修効果および RUWASA-CAD 実施の効果を図るために、コミュニティへの給水事業支援に関して以下の点を参加型のグループインタビューにて聞き取った。

#### 市給水班としての自分自身の業務が改善したか否かを自己評価

(本プロジェクトへの参加前後の比較)

- 全員が改善したと認識
- 特に、2008年から参加した者(4人の中で最も長く本プロジェクトに従事)が、最も大きな変化(20%から75%程度までの上昇)を認識していた。

#### コミュニティ・レベルでの変化

- 登録する水利用者組合の数が増加してきている。175郡(英語ではSub ward、スワヒリ語でMITAA)の内、現在、登録している水利用者組合は17郡、登録プロセスにあるのが23郡ある。国の政策でもあり、本プロジェクトでの研修によりさらに業務へのエンジンがかかり、このプロセスを推進している。当然、自分たち(県給水衛生班)がいることで、このプロセスが促進されてきていると自負している。
- 住民の意識が高くなってきている。
- 住民は支援を必要としており、学校に手洗い場所を設置した。貧しい住民は水を購入することができず学校の水を利用する者もいる。
- 給水率は上昇している。2008/09時点で75%であったものが、現在82%にまで上昇している。

#### 具体的な業務改善点(本プロジェクトへの参加前後の比較)

- 以前からモニタリングを実施していたが、適切な行い方をしていなかったわけではない。現在は、四半期ごとに実施している。本プロジェクトにより報告書を適切に書くことも

習得した。

- 住民の意識啓発を図るスキルが上昇した。
- 住民が水について優先順位をつけることに後押しできるようになった。
- 3 か月ごと（四半期ごと）に市給水衛生班としてはモニタリングしている。

#### 自立発展性・インパクトに関して

- 自立発展性はあると感じている。

#### その他

- データ収集のフォーマットは 4 種類（水灌漑省、自分たち自身のフォーム、村に送るもの、本プロジェクト用）。

#### 各自が埋め込んだ具体的業務改善点

##### (1) 市教育官が感じている点

<p>Knowledge that the community needs to be supported to achieve goals.</p> <p>目標到達に向けて、支援すべきコミュニティのニーズに関する知識が増えた。</p>	<p>Knowing that the community should “own” the water projects.</p> <p>水プロジェクトはコミュニティ自身のものであるべきだということを知ったこと。</p>	<p>The project needs to be sustainable.</p> <p>プロジェクトは持続性のあるものでなければならないということ</p>
<p>Maintenance of the project is the responsibility of a chosen person in collaboration with officers who are also selected.</p> <p>プロジェクトの維持は行政官とともに選出された人間の責任であるということ</p>	<p><b><u>Improvement in my daily performance to support Communities</u></b>  <b><u>コミュニティを支援する市給水衛生チーム自分自身の業務の改善点</u></b></p>	<p>Each member of the community is responsible to safeguard the project.</p> <p>コミュニティの各構成員は、プロジェクトを守る責任がある。</p>
<p>All members need to participate in running the project, e.g. cleanliness.</p> <p>すべてのメンバーが、動いているプロジェクトに参加することが必要である(例:清掃)</p>	<p>Each member in the community should know the importance of the project.</p> <p>コミュニティの構成員一人ひとりが、プロジェクトの重要性を知っておくべきである。</p>	<p>Precise reports need to be delivered.</p> <p>詳細な報告書が配布される必要がある。</p>

##### (2) 市水エンジニアが感じている点

<p>Sensitizing the community to contribute the money and deposit in their water accounts.</p> <p>水のための銀行口座に、コミュニティが資金を集めて保管しておくようにコミュニティの意識を啓蒙すること。</p>	<p>Selection of water project as priority for RWSSP.</p> <p>村落給水プログラムにとって優先順位の高いものとして水プロジェクトを選択する</p>	<p>Sensitizing the community on understanding what RWSSP means.</p> <p>村落給水プログラムが何ものであるのかをコミュニティが理解するように意識啓発する。</p>
<p>Opening the water accounts</p> <p>水のための銀行口座開設</p>	<p><b><u>Improvement in my daily performance to support Communities</u></b></p>	<p>Operation and Maintenance of the water projects. But this is so theoretical because the RWSSP</p>

	<b>コミュニティを支援する市給水衛生チーム自分自身の業務の改善点</b>	for our Municipal is not yet started to implement due to delay of getting consultant.  運営維持に関して改善した。但し、コンサルタント獲得の遅れから当市では RWSSP が遅れており理論的な点のみである。
Establishment of Water Committees and Water users associations in the selected communities for RWSSP.  RWSSP のために選択されたコミュニティでの給水委員会や水利用者組合の設立	Collection of baseline data in the community for water and sanitation projects coverage.  給水衛生プロジェクトのカバーするコミュニティにおけるベースラインデータの収集	The evaluation and monitoring ideas.  モニタリングや評価についてのアイデアを得た。

(3)(職名無記名)

Gender mainstreaming , female and male participating in different activities  ジェンダー主流化、様々な活動に男女が参加していく。	To understand the water policy  水政策を理解した。	MWST & WATSAN to know the RWSSP programme  市給水衛生チームや水利用者委員会が村落給水プログラムを知ること
Community to be aware about the importance of water projects  コミュニティが水プロジェクトの重要性についての意識を高める	<b>Improvement in my daily performance to support Communities</b> <b>コミュニティを支援する市給水衛生チーム自分自身の業務の改善点</b>	To implement the MWST plan accordingly and other development plans in Municipal  市給水衛生チームが市の給水計画や他の開発計画に沿って実施すること
	Community to be willing to contribute in the water projects  コミュニティが喜んで給水プロジェクトに貢献すること	Knowledge on monitoring & evaluation of projects  プロジェクトのモニタリング・評価に関する知識

(4)(職名無記名)

Awareness of RWST for all participants  全参加者のために州給水衛生班の意識啓発をする。	Knowledge about RWST in order to improve it  州給水衛生チームを改善するための知識を得た	Usage of RWST in order to meet the goal  目標達成のために、州給水衛生チームを活用すること
Maintaining the RWST in order to improve others.  周囲の改善を図るために州給水衛生チームの維持を図る。	<b>Improvement in my daily performance to support Communities</b> <b>コミュニティを支援する市給水衛生チーム自分自身の業務の改善点</b>	Success of the member of RWST  州給水衛生チーム構成の成功
All members get enough knowledge in order to use it. E.g. clean water	Each members improved from their needs	All members fulfill their needs.  全員が彼ら全員のニーズを実行する。

## 5. ムトワラ州給水衛生チーム (RWST)

---

日時: 2010年2月25日(木) 10:30 - 11:30

場所: ムトワラ州政府

出席者: 4名

- 1) Mr. Muduegele、州水アドバイザー
- 2) Mr. Simaro M.J.M.、州エコノミスト
- 3) Mr. J. Maichelg、州教育官
- 4) Mr. Edgar F. Luoga、州保健官

面談者: 日本側調査団全員

同行者: 加藤専門家

---

研修効果および RUWASA-CAD 実施の効果を図るために、コミュニティへの給水事業支援に関して以下の点を参加型のグループインタビューにて聞き取った。

- 県 (DWST) を支援する「州 (RWST) の能力」は強化されたと自己評価している。

### 県 (DWST) を支援する州 (RWST) の目から見た県給水班 (DWST) 能力強化度合評価

(本プロジェクトへの参加前後の比較)

- 全員が改善したと認識している。
- 長く参画している者ほど、認識している改善の度合いは大きい。

### 具体的な業務改善点 (本プロジェクトへの参加前後の比較)

- コミュニケーションの改善: 県給水衛生班との連携を良く行えるようになり、プログラムを持続性のあるものになっている。
- 県との関係: 本プロジェクトの前は、「州」の役割が良くわからなかった。しかし、本プロジェクトにより、州給水班ができ、水アドバイザーならアドバイザーという名称と共に役割が与えられ、県とのどのようにつながっていけば良いのか、どのような機能を期待されているのかが明確になり動きやすくなった。
- エコノミストとして予算を組む時など、給水や衛生の知識があることで、よりよい社会サービスを提供できる自分の業務 (予算業務) ができるようになった。
- グループワークができるようになった。
- 目標に向けて、コミットメントが上がった (責任感の上昇、意欲の上昇)
- 助言をすることができるようになった。自信と知識ややり方を獲得したことで、県給水衛生班に助言をすることができるようになった。
- 州給水衛生班、県衛生給水班、JICA (ここには当然中央省庁含む、水灌漑省がなければ JICA はアプローチできないので) の関係が深まった。この関係を通して、州給水衛生班は経験を積んだ。

その他

- ムトワラ州には、1市と5県がある。
- ムトワラ州の州都から最も遠い県までは260キロあり、車で約3時間かかる。
- 県を訪問する頻度は、出張予算の制約もあるのでその状況次第だが、平均すると州保健官が3カ月に2~3回、州教育官が月1回、水アドバイザーが月に1回程度である。
- なお、ムトワラ州には、小学校が605校、中学校が登録されているもので130校である。

各自が埋め込んだ具体的業務改善点

(1)(職名無記名)

There is close and strong communication between me and DWST.  自分自身と県給水衛生チームの間に太いコミュニケーションの関係ができた。	Capacity to advise the DWST  県給水衛生チームへの助言能力が上がった。	Ability to plan O & M schedules.  運営維持スケジュールの計画能力
Ability to prepare budgets for DWST.  県給水衛生チームのための予算準備能力が強化された。	<b><u>Improvement in my daily performance to support DWSTs</u></b> <b><u>県給水衛生チームを支援する州給水衛生チーム自分自身の業務の改善点</u></b>	Monitoring strategies have been advanced to me.  私にとってモニタリング戦略が強化された。
Increased knowledge in how to run the water projects at DWST.  県給水衛生チームのレベルで給水プロジェクトを動かしていくために必要な知識が増加した。	Feedback and backstopping procedures are improved.  フィードバックと支援の手続きが改善した。	Financial management for DWST to sustain the program.  プログラムを持続させるための県給水衛生チームのための財政的管理

(2)(職名無記名)

Capacity to monitor & evaluate water & sanitation projects  水衛生プロジェクトをモニタリング・評価する能力が強化された。		Lean & Understand the DWST and able to assist / advice the DWST during their planning.  県給水衛生チームが計画立案する際に、どのように県給水衛生チームを支援すれば良いのかを理解し学んだ。
	<b><u>Improvement in my daily performance to support DWSTs</u></b> <b><u>県給水衛生チームを支援する州給水衛生チーム自分自身の業務の改善点</u></b>	Understand the methodologies for participatory planning in water & sanitation at the village level (Users).  コミュニティ・レベルで水と衛生分野での参加型計画立案のための方法を理解した。

(3) (職名無記名)

<p>Experience in supervision according to the training.</p> <p>研修・訓練に沿った監督の経験を積めた。</p>	<p>DWSTs they asking RWSTs if any problems occurring, then RWSTs they solve it.</p> <p>県給水衛生チームに問題が起こると、どんな問題であれ、県給水衛生チームは州給水衛生チームに相談依頼し、州給水衛生チームはそれを解決するという構造になってきた。</p>	<p>Good relationship both JICA, RWSTs and DWSTs.</p> <p>JICA、州給水衛生チーム、県衛生チームとの良い関係ができてきた。</p>
<p>DWSTs they have experience also in supervision.</p> <p>県給水衛生チーム自体も、監督するという経験を積んだ。</p>	<p><b><u>Improvement in my daily performance to support DWSTs</u></b>  <b><u>県給水衛生チームを支援する州給水衛生チーム自分自身の業務の改善点</u></b></p>	<p>Commitment of RWSTs.</p> <p>州給水衛生チームのコミットメントが上昇した。</p>
<p>Good collaboration between RWSTs and DWSTs in working place.</p> <p>業務現場における州給水衛生チームと県給水衛生チームとの連携・協働がよりよくなされるようになった。</p>	<p>Regular visit in the Districts</p> <p>県への定期的な訪問がなされるようになった。</p>	<p>Good collaboration with JICA in job training.</p> <p>業務研修における JICA とのコラボレーションが良くなった。</p>

(4) (職名無記名)

<p>Knowledge of group work increased.</p> <p>グループワークの知識が増えた。</p>	<p>Close relationship between members of DWST and RWST.</p> <p>県給水衛生チームメンバーと州給水衛生チームメンバーの距離が縮まった。</p>	<p>Learnt how to plan a project.</p> <p>プロジェクトの計画立案方法を学んだ。</p>
<p>Construction management of the water project.</p> <p>水プロジェクトの給水施設建設マネジメント</p>	<p><b><u>Improvement in my daily performance to support DWSTs</u></b>  <b><u>県給水衛生チームを支援する州給水衛生チーム自分自身の業務の改善点</u></b></p>	<p>Implementation of project under DWST.</p> <p>県給水衛生チームとの下でプロジェクトを実施するということを学び改善した。</p>
<p>Commissioning of the Water projects in the DWST were improved.</p> <p>県給水衛生チームへの権限移譲が進んだ。</p>	<p>Monitoring and Evaluation of the project increased.</p> <p>プロジェクトのモニタリング・評価の力がついた。</p>	<p>Knowledge of O &amp; M of running of projects increased.</p> <p>実際に動いているプロジェクトの運営維持管理に関する知識が増えた。</p>

## 6. ムトワラ県（ムトワラ州）給水衛生チーム(DWST)

---

日時:2010年2月25日(木) 13:25 – 14:35

場所:ムトワラ州ムトワラ県行政府

出席者:

- 1) Mr. Kickson Benjamin、県水エンジニア（RUWASA-CAD 研修 4 回参加）
- 2) Mr.Bifola Mtesigwa、県環境官（RUWASA-CAD 研修 1 回参加）
- 3) Mr. Paul Hamisi、県保健官（RUWASA-CAD 研修 3 回参加）
- 4) Ms.Shabiha Mkorehe、県水技官（RUWASA-CAD 研修 1 回参加）

面談者:日本側評価団全員

同行者:加藤専門家

---

研修効果および RUWASA-CAD 実施の効果を図るために、コミュニティへの給水事業支援に関して以下の点を参加型のグループインタビューにて聞き取った。

### コミュニティ・レベルに起こってきた変化

- 登録された水利用者組合（WUE）がすでに 2 つある。登録手続きの最終段階にあるものはそれ以外にもう一つある。
- 登録した後、村のコミットメントは上昇している。
- 給水保健委員会（WATSAN）は 120 あるが、ゆくゆくはこれが水利用者組合（WUE）となっていく。
- かつては様々な法規によって組合が登録されていた。（Trustee なら Trustee Act、協働組合なら Cooperative Act など）2009 年に新しい給水関連法規が施行され、給水施設の所有権は住民側ということに定められた。WATSAN（住民給水衛生委員会）は社会福祉省のもとに登録されているが、水利用者組合（WUE）として正式に登録されると、より自治権が強くなる。従って、水利用者組合設立の有利さを住民に訴えることで設立を促すようにしている。
- 村（Village）の数は 155、Sub-village の数は 634 ある。

### 県給水班としての自分自身の業務が改善したか否かを自己評価

（本プロジェクトへの参加前後の比較）

- 全員が改善したと認識。
- 最も高いところまで改善したと感じているメンバーも、まだ学ぶこと、向上させるべきことはあると認識していた（最高者は 95%）

### 具体的な業務改善点（本プロジェクトへの参加前後の比較）

- 利用者負担として、会合を開いたり、そこで説得・対話をするなどして、住民が水料

金を支払うように、業務を進めるようになった。

- 給水委員会に会計役を置いて料金マネジメントを改善するために、給水委員会メンバーを後押ししている。
- 村落住民の生活向上のために、自分自身のコミットメントが上昇した。
- コミュニティ会合のマネジメント・スキルが上昇した。
- 本プロジェクトの研修で、初めてジェンダー・メインストーリーミングを県給水衛生経計画の中に反映させた。
- 「コンフリクト・マネジメント」を学んだ。

#### 自立発展性・インパクトに関して

- WSDP 予算には訓練やリフレッシュ研修など、キャパシティ・ディベロップメントのための予算がある。すでに、2010/11～ 2012/15 までの3年間について、暫定的ではあるもののこのための予算が組まれている。この予算に裏付けられた研修で、本プロジェクトの成果を持続し拡大していくことができる。

#### その他

- 流域管理事務所との関係も、よく協働していると思う。

#### 各自が埋め込んだ具体的業務改善点

##### (1) 県水エンジニアの感じている点

Increase of Facilitation skills in community planning. コミュニティ計画におけるファシリテーション・スキルが向上した。	Strengthening of participatory community planning skills 参加型コミュニティ計画スキルが強化された。	Community Operation and Maintenance Planning skills has increased. コミュニティの事業実施維持管理計画スキルが向上した。
Knowledge on managing meetings was increased. 会合運営の知識が増えた。	<b><u>Improvement in my daily performance to support Communities</u></b> <b><u>コミュニティを支援する県給水衛生チーム自分自身の業務の改善点</u></b>	Management skills on project planning under all levels was increased. 全レベル下でのプロジェクト消え各立案に関するマネジメント・スキルが増加した。
New ways of community involvement / participation was acquired. 新しい住民参画方法を獲得した。	Project Planning and Implementation techniques were acquired by considering the Rural Water Supply and Sanitation Programme Cycle. 村落給水プログラムサイクルを考慮することで、プロジェクト計画立案や実施技術を獲得した。	Knowledge in developing Gender mainstreaming plan to be incorporated in District Water and Sanitation Plan was acquired. ジェンダー主流化計画が県給水衛生計画に統合され展開していく知識を獲得した。

##### (2) 県環境官が感じている点

I have enabled to meet with the communities in their villages once per month to see their performances. 月に一回、住民の活動遂行状況を確認するために村において	I have managed to help the H2O committee members on the water fees management. 給水委員会メンバーに対して、水道料金のマネジメントに関して支援をすることができるように	I have succeeded to receive the quarterly reports from the villages. 四半期報告書を村から受け取ることができるようになった。
--	---	---

住民と会うことができるようになった。	なった。	
I have managed to train H2O committee members on conducting the maintenance of their members. 水委員会のメンバーに対して、メンバーによって行われる維持活動についての研修(教育訓練)をすることができた。	<b><u>Improvement in my daily performance to support Communities</u></b> <b><u>コミュニティを支援する県給水衛生チーム自分自身の業務の改善点</u></b>	I have succeeded in making follow ups to the villages. 村に対して上手くフォローアップをすることができた。
I have got priorities on meeting with the communities to see how they can expand their projects. どのようにして村落住民が自分たちのプロジェクトを拡大していけるのかを検討するために、委員会と会合にプライオリティを置くようになった。	I have succeeded to restore some conflicted in various villages. いくつかの村で、争いごとを調停することに成功した。	I have succeeded in enhancing the communities on building and using of footlab hence to improve their health. 健康増進のために足洗い場?を設置して使用するコミュニティの数を増大することができた。

(3) 県保健官の感じている点

Ask the community to pay water bill. (以前は無料だった)給水料金を支払うようにコミュニティに訴えるようになった。	When looking the place for drilling water well, I will tell / look 1 <sup>st</sup> the area where water stays / remained so long. 井戸を掘る際は、第一に、長く(持続性をもって)水が継続するような場所を探し、訴えるようになった。	After getting the water, I will tell them to build a fence around the source. 水(井戸?)を獲得するができたら、次にその周りにフェンスを設置するよう、訴えることができるようになった。
Before they drink after fetching, they should boil for at least 20 minutes and put in clean pots. 汲んできた水を飲む際は、少なくとも 20 分間沸騰させ、きれいな水瓶に入れることを訴えるようになった。	<b><u>Improvement in my daily performance to support Communities</u></b> <b><u>コミュニティを支援する県給水衛生チーム自分自身の業務の改善点</u></b>	They should not contaminate the water source by bathing, cleaning clothes and not allowing animals to drink their water. 行水や洗濯、動物の飲料などにより水源を汚染してはならないと訴えられるようになった。
Always the water source should be clean. 水源が常に清潔でなければならぬと訴えるようになった。	They must know that the water source is their own. 住民は、水源が自分たち自身のものだと認識する必要がある点を訴えるようになった。	They should support and damages if occurs in the madness at water source. 水源に関する問題が起こった際に住民たちを支援することが必要であると感じるようになった。

(4) 県水技官の感じている点

	<b><u>Improvement in my daily performance to support Communities</u></b> <b><u>コミュニティを支援する県給水衛生チーム自分自身の業務の改善点</u></b>	Because my duties are very difficult to do in a time to support to work very hard in ? to their life 自分自身の業務が一遍に行うことが難しいので、村の生活を良くするための支援業務は難しい(?)
To do the work with community	My skill to support community	Our community are not to be

<p>because they very poor.</p> <p>貧しい住民のためにコミュニティのために働くこと</p>	<p>well education or skill is needed. コミュニティを支援する私のスキルは良い教育を得ていること、必要なスキルを身につけていることです。</p>	<p>ready to change so if we be difficult to support (?)</p> <p>支援がなければ、コミュニティは変革することが困難である(?)</p>
---	--	---

## 7. リンディ州給水衛生チーム (RWST)

---

日時: 2010年2月26日(金) 10:10 - 11:20

場所: リンディ州局

出席者:

- 1) Mr. Phinihes O.Mugondo、州水アドバイザー
- 2) Mr.Salum Kanda、州環境官
- 3) Mr. Euansto Kilembe、州水技官
- 4) Mr. Feix Titus、エコノミスト
- 5) Mr. Evarizto Mingul、コミュニティ開発官 (アシスタント)

面談者: 日本側評価団全員、タンザニア側評価団全員

同行者: 加藤専門家

---

研修効果および RUWASA-CAD 実施の効果を図るために、コミュニティへの給水事業支援に関して以下の点を参加型のグループインタビューにて聞き取った。

- 県 (DWST) を支援する「州 (RWST) の能力」は強化されたと自己評価している。

県 (DWST) を支援する州 (RWST) の目から見た県給水班 (DWST) 能力強化度合評価  
(本プロジェクトへの参加前後の比較)

- 全員が改善したと認識している。

具体的な業務改善点 (本プロジェクトへの参加前後の比較)

- 県給水衛生班に対して、コンサルタント雇用する際にどのようになすべきかについての指導をできるようになった。
- どのように、なぜ、なにを・・・などの観点からものごとを分析する能力がついた。
- 県給水衛生班の監理監督の仕方を習得した。例えば、参加型で人々の意見を聞くという新しい知識・スキルを得た。
- 報告書作成について、県とやりとりして助言ができるようになった。
- プリベンティブ・メンテナンスについて学んだ。

自立発展性

- キャパシティ・ディベロップメント計画にすでに取り込んであるので、予算はついてることから、本プロジェクト後についても持続性がある。
- 県給水衛生班や州給水衛生班のメンバーが将来退職しても (退職年齢は 60 才) 問題ないように引き継ぎ (技術のバトンタッチ) を行うようにしたい。

各自が埋め込んだ具体的業務改善点

(1) 州水アドバイザーの感じている点

Plan for Operation and Maintenance of the Project プロジェクトのO&M の計画策定		To disseminate information among the team チームメンバー間での情報共有
To plan for Monitoring and Evaluate the on-going & completed project 進行中及び完了したプロジェクトのモニタリング&評価の計画策定	<b><u>Improvement in my daily performance to support DWSTs</u></b> <b><u>県給水衛生チームを支援する州給水衛生チーム自分自身の業務の改善点</u></b>	To plan for capacity development in the project area プロジェクト分野におけるキャパシティ・ディベロップメントを計画立案すること
To plan and coordinate the management of facilities on the site 現場施設のマネジメントを調整・計画すること	Report Writing 報告書作成	To plan for consultant supervision コンサルタント監督のための計画を策定すること

(2) 州エコノミストの感じている点

Monitoring and Evaluation of Water Project 水プロジェクトのモニタリング及び評価	Community Participation in the Water Project 水プロジェクトにおけるコミュニティ参加	Community Ownership of Project プロジェクトに対するコミュニティのオーナーシップ
Specific Reason Report writing in O & O/M Implication Reports オペレーション&メンテナンス実施詳細理由報告書の書き方	<b><u>Improvement in my daily performance to support DWSTs</u></b> <b><u>県給水衛生班を支援する州給水衛生チーム自分自身の業務の改善点</u></b>	Government Responsibility in requested project. 申請されたプロジェクトに対する政府の責任
Planning Procedures includes O&OD etc. 「機会と障害」を含む計画プロセス	Compliance District Plan and Water Sector 水セクターと県計画が整合させること	Role planned by both government and Community on O&M オペレーション&メンテナンスに関してコミュニティと行政が共に、計画された役割を果たすこと

(3) 州環境官の感じている点

Improve in Supervision 監督業務の改善	Improve in evaluation 評価における改善	Improve in follow-up フォローアップの改善
Improve in operation and maintenance of equipment 資機材のオペレーション&メンテナンスにおける改善	<b><u>Improvement in my daily performance to support DWSTs</u></b> <b><u>県給水衛生班を支援する州給水衛生チーム自分自身の業務の改善点</u></b>	Improve in implementation of project プロジェクト実施における改善
	To improve on how to select suitable technology of project プロジェクトの適正技術を選択する方法が改善した。	Improve in planning my duties 自分自身の業務を計画的に立てられるようになった。

(4) コミュニティ開発官の感じている点

Team works strengthened. チームワークが強化された。	Tolerance / Endurance 忍耐強くなった。	Analytical Reading Capacity 分析的な読了能力が高まった。
Quality of Plan made improved. 計画の質が向上した。	<b><u>Improvement in my daily performance to support DWSTs</u></b> <b>県給水衛生班を支援する州給水衛生チーム自分自身の業務の改善点</b>	Dialogue Capacity Strengthened. 対話能力が強化された。
Rapport Making Improved. 信頼関係づくりが上手くなった。	Consultancy skills building up. コンサルティング・スキル(相談を受ける技術)を獲得した。	Facilitation role elevated and improved. ファシリテーションの役割が高まり、その技術が向上した。

(5) 州水技官が感じている点

Have a Quarterly Meeting with DWST for discussing Quarterly efforts. 県給水衛生チームと四半期ごとの活動努力を議論するための定期的な会合を四半期ごとに開催するようになった。	Facilitating DWST during evaluation of consultants services and contractors コンサルタント業務や契約業務実施者の評価を実施する際の県給水衛生チームをファシリテートするようになった。	Supporting DWST in preparation of good Rapports 県給水衛生チームが良い報告書作成を行えるように県給水衛生チームを支援するようになった。
To approve designing submitted by DWST. 県給水衛生チームにより提出されたデザインを許可を出すことが出来るようになった。	<b><u>Improvement in my daily performance to support DWSTs</u></b> <b>県給水衛生班を支援する州給水衛生チーム自分自身の業務の改善点</b>	Facilitating DWST the place to get spares e.g. Pumps, Motors ポンプやモーターなどのスペアをどこで入手できるかについて、県給水衛生チームにファシリテートできるようになった。
Have ability to Support and advice DWST during implementation of Quick-in Projects. クイックインプロジェクト実施の過程で、県給水衛生チームに助言し支援する能力が身に付いた。	Backstopping DWST during Preparation of Tendering document. 入札書類準備過程で、県給水衛生チームを支援することができるようになった。	Advising DWST for some projects (Technical Advice). Improve and monitoring skills. 県給水衛生チームに対してプロジェクトに関する技術的な助言をすることができるようになった。モニタリング・スキルが向上した。

## 8. リンディ県（リンディ州）給水衛生チーム(DWST)

---

日時:2010年2月26日(金) 11:30-12:45

場所:リンディ州リンディ県

出席者:

- 1) Mr. Mbaraka Kilangai、県水エンジニア (RUWASA-CAD 研修4回参加)
- 2) Mr. Munira A. Mohamed、県農業計画官
- 3) Ms. Cosmas M. Mwanisia、県農業計画官補佐
- 4) Mr. Musa Mmanga、県保健官 (RUWASA-CAD 研修1回参加)
- 5) Mr. Degroins Bendera、県財政官 (RUWASA-CAD 研修1回参加)
- 6) Mr. Cosmas M. Rwanda、県コミュニティ開発官 (代理)
- 7) Mr. Minduva M.H.、県教育官
- 8) Mr. Yuya Akizuki、JOCV ボランティア (W-SAT 水の防衛隊)

面談者:日本側評価団全員、タンザニア側評価団全員

同行者:加藤専門家

---

研修効果および RUWASA-CAD 実施の効果を図るために、コミュニティへの給水事業支援に関して以下の点を参加型のグループインタビューにて聞き取った。

### コミュニティ・レベルに起こってきた変化

- コミュニティ住民のオーナーシップ（自分たちのプロジェクトであるという意識）が高まってきた。
- 住民の責任感が高まってきた。（その要因として、国の水政策が住民に浸透してきたこと、県給水衛生チームが訪問し議論を重ねてきたことがあるとの見解）
- 住民の参画が高まった。
- 受益者（給水施設へのアクセスという観点で）が増加した。
- ボトムアップのアプローチ（O & OD）が起こってきた。
- 水委員会が、数の上昇、委員会能力の向上、という点で改善してきた。
- 女性の担っている労働が軽減された。

### 県給水班としての自分自身の業務が改善したか否かを自己評価

（本プロジェクトへの参加前後の比較）

- 全員が改善したと認識。
- 最も高いところまで改善したと感じているメンバーも、まだ学ぶこと、向上させるべきことはあると認識していた。

具体的な業務改善点（本プロジェクトへの参加前後の比較）

- 以下表参照
- 学校委員会設置

各自が埋め込んだ具体的な業務改善点

(1) 県水エンジニアの感じている点

	Operation and Maintenance of Water Project (O&M) 水プロジェクトのオペレーション&メンテナンス	Supervision of Water Project 水プロジェクトの指導監督
Roles and Responsibilities of extension workers 普及員の役割と責任	<b><u>Improvement in my daily performance to support Communities</u></b> <b><u>コミュニティを支援する県給水衛生チーム自分自身の業務の改善点</u></b>	Demand Responsive Approach (DRA) helped in establishing O & OD 機会と障害に取り組むために需要対応型アプローチが助けになった。
	Identification of stakeholders (stakeholders analysis) PCM- project cycle management 関係者の同定(関係者分析)、プロジェクトサイクルマネジメント	Monitoring of service providers (Preparation of monitoring indicator) サービス提供者のモニタリング(モニタリング指標の設定)

(2) 県教育官が感じている点

	In Community Mobilization and Socialization of the Project. プロジェクトに関するコミュニティ動員やソーシャライゼーションの点で改善した。	Awareness in maintenance in preventive maintenance and repair of utilities. 施設の修理と予防的維持活動という観点における維持に関する意識が高めた。
	<b><u>Improvement in my daily performance to support Communities</u></b> <b><u>コミュニティを支援する県給水衛生チーム自分自身の業務の改善点</u></b>	How to raise fund of Water Projects and utilization of funds properly, sustainability of Projects 水プロジェクト資金の獲得方法、その運用方法、プロジェクト持続性の確保をどのようにするかを学び改善した。
		School Committee 学校委員会(を設置)

(3) 県農業計画官の感じている点

Full participation in planning, implementation and monitoring of the project プロジェクトの計画・実施・モニタリングへの十分な参画		Planning methodologies to the community (through O & OD approach) (O & ODアプローチを通じた)コミュニティに対する計画立案手法
Follow-up of the Projects from beginning up to the ending over to the community プロジェクトの開始から最後のコミュニティ自身への引き渡しに到るまでのコミュニティのフォローアップ	<b><u>Improvement in my daily performance to support Communities</u></b> <b><u>コミュニティを支援する県給水衛生チーム自分自身の業務の改善点</u></b>	Awareness Creation to the community on the ownership of their project プロジェクト・オーナーシップについてコミュニティに対して意識啓発すること

(4) 県農業計画官補佐の感じている点

<p>To create good participation with the communities</p> <p>コミュニティの活発な参加を作り出す</p>		
<p>Creating awareness to the communities about the DWST and to utilize it.</p> <p>県給水衛生チームの存在とその活用方法についてコミュニティに対して意識を覚醒すること</p>	<p><b><u>Improvement in my daily performance to support Communities</u></b>  <b><u>コミュニティを支援する県給水衛生チーム自分自身の業務の改善点</u></b></p>	
<p>It improve the way on how to mobilize the communities on how to engage in it.</p> <p>コミュニティを参画させていくためにどのように巻き込んでいけば良いかという方法を改善</p>	<p>It increase the capacity on how to control the water.</p> <p>水の管理能力の増大</p>	<p>To be able on the project to be sustainable development.</p> <p>プロジェクトを持続的開発にしていくこと</p>

(5) 県財政官の感じている点

<p>Greater understanding of DWST scope and challenges</p> <p>県給水衛生チームの役割と課題について深く理解した。</p>	<p>To be able to create people to pool / deposit cash collected to their respective bank accounts.</p> <p>自分たちの銀行口座に現金を集め保管しておくことを住民に説得することができるようになった。</p>	
<p>Ability to solve water problems/conflicts arising during the course of the Project</p> <p>プロジェクト実施途上で起こってくる水関連問題や対立を解決する能力が備わった。</p>	<p><b><u>Improvement in my daily performance to support Communities</u></b>  <b><u>コミュニティを支援する県給水衛生チーム自分自身の業務の改善点</u></b></p>	<p>To be able to create people to guide and Protect water sources e.g. rivers, swamps, by using proper ways, e.g. planting trees around water sources.</p> <p>水源周辺の植林など適切な方法を用いて、河川や沼などの水源を守り人々を指導することができるようになった。</p>

(6) 県保健官の感じている点

<p>Water users committees understand O&amp;M.</p> <p>水利用者委員会が運営維持管理について理解した。</p>	<p>To be able to create people to pool/deposit cash collected to them.</p> <p>人々にお金を集金させることができるようになった。</p>	
<p>Understandings of DWST to training of community due to O&amp;M, due to improvement of Pit latrine, contribution of Pit latrine,</p> <p>運営維持管理や改善穴式トイレや穴トイレの貢献などに関して</p>	<p><b><u>Improvement in my daily performance to support Communities</u></b>  <b><u>コミュニティを支援する県給水衛生チーム自分自身の業務の改善点</u></b></p>	

村の住民を対象にした研修をするために県給水衛生班の理解が深まった。		
Contribution of V/P latrine and Environmental sanitation. 穴式トイレと環境にやさしい衛生の貢献		

(7) 青年海外協力隊員(水の防衛隊)の感じている点

I got to know the roles of each member of DWST. 県給水衛生チーム構成メンバーそれぞれの役割を知った。	I understand that how DWST should work together. 県給水衛生チームがどのようにして一緒に働かなくてはならないかを理解した。	I found how much knowledge / capacity DWST holds. 県給水衛生チームがどの程度能力・知識を持つのかを知りえた。
I understood how communities should work on O&M. コミュニティが運営維持管理にいかに取り組むべきかということを理解した。	<b><u>Improvement in my daily performance to support Communities</u></b> <b><u>コミュニティを支援する県給水衛生チーム自分自身の業務の改善点</u></b>	I learned the importance of monitoring and evaluation. モニタリング & 評価の重要性を学んだ。
I found there are many actors such as extension workers who can help DWST. 普及員など、県給水衛生チームを支える多くのアクターがいることを知った。	I got to know what problems/challenges each DWST member has. 県給水衛生チームの各メンバーが抱える問題・課題を知ることができた。	

以上